鳥獸報告集

自第十三卷第二十五號
至第十四卷第二十八號

農林省山林局編

14.5
328
14.5-328
1200501216351

始

14,
328

昭和十五年三月

鳥獸報告集

自第十三卷第廿五號
至第十四卷第廿八號

農林省山林局

14.5
328

鳥獸報告集

第十三卷 第廿五號 廿六號（自昭和十二年一月 至昭和十二年十二月）

【手紙通信】 昭和十二年一月十三日

滋賀縣保安課　橋本多三郎

(a)ツバメは數年以來頓に渡來減少し、市内に於ては殆ど認め得ざる狀態にあり、その理由は道路は全町鋪裝され、家屋は大部分洋式となり、加ふるにネオンサインは諸所に設けられ、ラヂオの音響又晝夜八釜しく、更に航空機及び機關銃聲日毎に轟き、彼等の營巢上竝に生活上の環境不偶に變化せるが故なりと信ず、されば市内に於ては河川を唯一の生活場所とし、市外の農家に點々營巢するに過ぎず

(b)トビ及カラスは數年來著しくその數を増加するに至れり、公衆衞生の發達と共に塵捨場諸所に設けられたる爲、同所に兩種竝にスズメも加はり一ケ所に百内外のトビ二百内外のカラス群集するを常とす、殊に冬季間に於ては何處より集來するとなく群居し、その飛立の騷は天を焦すが如し、トビは一月より二月の間は午前九時頃迄川岸、田圃のヤナギ、ポプラ、ニセアカシヤ等の冬枯の梢間に止り、一樹多きは二十の群を描くことあり

(c)ドバトは市内に多からず停車場、臨港倉庫に集團するに至れり

(d)ムクドリは市内にポプラの大樹減少せるため二年前より頻りに減少せり

(e)シギ、チドリ、ゴキサギ等夜間漂行性のものは市街屋上を掠むるもの逐年多きを加ふ、蓋し照明の設備發達せるためなるべし

(二) 一般鳥界

【手紙通信】 昭和十二年一月廿日

青森縣師範學校　和田干藏

(a)ツバメ

(b)トビ

(c)ドバト

(d)ムクドリ

(e)シギ

(a)キジ、ヤマドリは本年度に於てその數著しく減少せり、カモ類は從前通なるも、昨年の如く市内堤川に朝上するに至らず、蓋し積雪少きに因すべし

(b)レンジヤクの渡來未だ見ず(一月十八日)之亦積雪少きによるべく、唯一の食物となるヤドリギの果實は依然減少せず

(c)八甲田山のホシガラスは何處に稚移せしか本年度に於ても(昨年度より)その鳴聲だに認め得ざりき、その他ビンズイ、ヨタカ、キセキレイ、アマツバメ等も著しく減少せり、之に反しハシブトガラスは一三〇〇米附近迄漂行するに至れり、蓋し近年十和田國立公園設定以來交通倍舊的激繁となりたるによるべし、一方二—三年以前より從來認め得ざりし啄木鳥の影を見るに至れり、酸湯附近根曲竹の叢中を高く拔きたる大掬の枯梢に營巣中のもの、昭和十一年六月十日午後三時過に認めたり、鳴聲、體軀の大きさ、行動等より案ずるに明かにクマゲラなるべし、何れ昭和十二年の夏再調査に從事すべし、その他酸湯附近にはトラツグミも出現するに至れり

(d)ウミネコの營巣後の行動を下北郡太平洋岸にて觀察せし事項

昭和十一年八月十五日より十九日迄及び、九月廿日より廿三日迄の二回下北郡大間村に出張

八月十五日午前十一時頃風間浦村字赤川沿岸通過の際、ウミネコの群團は規則正しく線的に配列靜止せるを認む、その數約二百餘羽にして煤色の幼鳥約四十を混じたり、線的配列とは海岸線に沿うて一列に竝立せることなり

九月廿三日(大强風雨)午前十時過同所同郡風間浦村易國間通過の際、又見事なるウミネコ群居を觀察せり、前者と反對に五列側面に配列し、その間隔は個體の兩翼開張基準にして地上に開翼しつゝ止り、後全部を指揮するが如き一羽の納翼に一同之にならひグア〳〵〳〵、ギヤー〳〵、グーク〳〵等奇聲をあげ、風向に立竝び容易に位置を變ぜず、その樣恰もラヂオ體操の合同運動に似たり、撮影は昭和十二年度に津輕要塞の手續を經て行はんとす

かゝる二百位の群團が一擧一動一指揮者に統率せらるゝ行動は、蕃殖時季には到底認むること能はず、極めて穩かに秩序的に行はるゝ現象は該鳥の特性なるべし、この間九月廿二日大奥村奥戸沿岸にては(津輕海峽)約二百位の群團を認めたりしも何れも海上索餌行動にして特に變態的動作を認めざりき

(e)大間沿岸にて捕へたる一水禽の雛

八月十七日大間北日本博物館參觀の際、水禽の雛(ホルマリン浸漬後乾燥)一點ある事に注意し、檢索したれども何物の雛なるや余は判定し兼ね、これを館長に懇願して分讓を受けたり、發見場所は大間崎沿岸下通の沼澤地の草原にして親仔揃うて遊び居りしを追廻して二羽を押へたるものなりと、因みに同幼鳥は大間崎と離島(辨天島燈臺敷地)との間を游泳しつゝありしを認めたりといふ、されば同島に於て孵化したるものが海峽を越えて大間に入りしものと想像す、恐らくハイイロウミツバメか(?)

押へし月日は一九三六年六月上旬にして子供等なりしため、親鳥は短尾にしてクヒナに似たりといふも詳ならず(註、同鳥はウミスズメ幼鳥と鑑定す、山林局鳥獸調査室)

(三)

獸類界

(a)一般に減少の傾向あり、下北郡川内町附近に於てはキツネ、タヌキ類は著しく減少せりと云ふ、但し下北半島に於けるクマは時々人目に觸れ退治せられつゝあり、飛行機の爆音に刺戟せられて飛出すものと考へらる

(b)八甲田山にてはモモンガ數點捕獲せられたるを見たり

(c)前年度報告のエチゴウサギの春季毛變は、乍遺憾寄生虫の爲供試動物斃れたるを以て觀察し兼ねたり

【葉書通信】昭和十二年一月十六日

沖縄縣八重山郡石垣町登野城一六一

岩崎卓爾

□マミチヤジナイ渡る。昭和十一年十二月十二日、平年に比し三日早く、昨年に比し三日早し

【手紙通信】昭和十二年一月二十六日

滋賀縣廳保安課　橋本多三郎

□カモシカの棲息狀況。從來滋賀縣下湖西方面には該獸の棲息稀にして、滋賀郡葛川村方面に少數の棲息を認められ居るに過ぎざりしに、近時高島郡劍熊村及西庄村方面の山林に多數棲息し其數約五、六十頭と算せらるゝ程蕃殖せりと云ふ、現に本月十八日、劍熊村の狩獵家の目擊せる談に依れば、親仔六頭連の一群を同村山中にて目擊せりと云ふ

□ガンの渡來、棲息狀況。滋賀縣下のガンの渡來棲息は例年十一月末より琵琶湖竝に其沿岸地方へ渡來棲息し就中一、二月の頃は最盛期なり、本年冬期の氣候は例年に比し暖き方なりしにガンの渡來頗る不良にして、既に一般より本年は不良なりと斷定を下し居りしに、案に相違し本月中旬頃より激增し、例年に倍し無慮

二、三千羽の大群渡來し、主として坂田郡法性寺村沿岸を中心として琵琶湖竝に其附近に根據を構へ棲息せり

□カモ類の渡來棲息狀況。カモ類の渡來も亦如斯して、十一月中は多數琵琶湖に渡來し居りしに、十二月中旬より一月中旬迄は頗る不良なりしに、目下漸次多數渡來、日增し增數しつゝある狀勢なり

【手紙通信】 昭和十二年一月廿八日

兵庫縣津名郡中田村　薄木市左衞門

□一月氣象。月の半ば以上降雨續き快晴無し、氣溫昨年より五度、平年より三度高し、昨今十度內外なり

□鳥類渡來、棲息狀況。各種共渡來少く全島各獵場寂寥たり、ヤマシギ、これのみは不思議にも平年通り棲息中田大町の前禁獵區には相當居る模樣なり

ハト、前禁獵區にのみ、少き方なれど棲息す

ヒヨドリ、ツグミ、マガモ居らず

ヲシドリ、尙多けれど水溫低き爲山中に棲息、毎日目擊さる

キジ、所々に目擊、三羽も四羽も見ることあり、可成捕獲されし模樣なるも昨今は飛翔力も充分となり、山深く潛める爲、容易に捕獲されず、何とかして多數蕃殖せしめて元の淡路に致し度く、保護に盡力せり

ヤマドリ、調査し難し

カラス、多し

小鳥類、全部少し

コジュケイ、行方不明、一羽も見當らず

□獸類棲息狀況

イタチ、未聞の高價(一疋拾圓)にして旺に捕獲せるも容易に捕へられず、相變らず至る處に多し

キノシシ、中々多しとの通知あり

□水禽類棲息狀況。非常に多し、沖合にはマガモ、ヲシドリ、アヂサシ等恐しき程多數、殊に鳴門より由良沖に夥し、ウミガラス(ウ)も多數目擊さる、出獵のものなし陸上には全く姿なく夜間には可成池に入るも日中は決して見られず

【葉書通信】 昭和十二年二月十日

廣島市尾長片河町　金井正人

□ツバメの渡來。二月八日、本年初めて當地方(市內東部)にツバメ渡來せるを認む、注意してみるも只一羽のみにして、夜は軒內の古巢に泊る、九日も同樣只一羽を見る、囀鳴を聞かず

【手紙通信】 昭和十二年二月十四日

榎本佳樹

自昭和十一年七月一日至十二月三十一日

□ハシボソガラスの見聞。七月四日から十二月二十二日

までの間に、平林埋立地、藤井寺方面、淀川中流部、淀川河口部右岸、久米田池等で總計九回觀察、毎回一—二羽乃至六—七羽を見聞した

□アヲサギの動靜。七月四日から十二月十九日までの間に總計十八回觀察、それ等の中、平林埋立地で八月二十九日十五—六羽、九月十七日五十餘羽、同二十四日二十餘羽、十月七日と二十七日にて各十三—四羽、淀川河口部右岸で九月十七日十二羽、同二十九日二十四—五羽、十月八日十二—三羽等を見た外は、それ等の兩地、藤井寺方面、及久米田池等で各一—二羽乃至三—四羽を見たに過ぎず、又多數居る筈の場所でも、日によつては見ないこともあつた

□ツバメの終見其他。七月四日から十月七日までに、諸地で總計二十四回觀察、概して少數であつたが、八月中頃以後には、一觀察地區で五十羽乃至二百羽位の疎散な群を見ることがあつた、而して十月七日まで見たが、八日以後は何處でも見なかつた、尙大阪の市街では八月五日にまだ巢立してゐない雛を見、同三十一日まで姿を見、聲をきいた

□セツカの見聞。七月四日から九月十七日までに、平林埋立地と淀川河口部右岸とで總計十回、毎回少數づゝ見聞、八月末まで鳴いてゐるものがあつたが、其後は鳴聲をきかなかつた、而して其後暫くの間何處でも見聞しなかつたが、十一月二十四日平林埋立地で二羽を見た

□オホヨシキリの見聞。七月四日から八月五日までに、平林埋立地で三回、淀川河口部右岸で一回見聞、七月十二日までは鳴いてゐたが、その後は鳴聲をきかず、又八月五日以後は見聞しない

□ヒバリの動靜。七月四日から十二月十九日までに、諸方面で總計二十二回觀察、平林埋立地では七月四日に多數居て、囀つてゐるものも少數あつたが、其後急に減つて、八月十二日から同月末頃までは、毎回一—二羽を見たばかりで且靜であつた、而して九月になつてからは復た少しづゝ多くなつて、十月七日以後は稍多數となり、又其他の諸地では少數を見聞した、尙七月十二日から九月二十八日までは餘り鳴聲をきかなかつたが、その翌日から十二月十九日までの間は、諸地共に囀つてゐるものがあつて、時としては春季同樣、空中へ舞上つてゐるものもあつた

□カルガモの動靜。七月四日から十月八日までに、平林埋立地と淀川河口部右岸地區とで、總計十二回見たが八月十二日平林埋立地で百餘羽と、同二十九日同地で四—五十羽とを見た外、淀川河口部右岸で九月二十二

日五十餘羽を見たのが、稍多數であつた他は、何時も少數づゝであつた、近年著しく減少し且渡り去るのも早くなつた樣であるのは、無論棲住場所の激減によるものと思はれる

□シロチドリの去來。七月四日から九月十七日までの間に、平林埋立地と淀川河口部右岸とで、總計八回觀察して、初期には稍々多かつたのが、漸次に減り、七月末頃には頗る稀少となつたが、八月には新來者と想はれるものが出現して復た多くなり、同月十五日には、淀川河口部右岸で百五十餘羽の一群を見たこともあつた、而してそれから後は愈々本格的に漸減した、これによると、當地で蕃殖するものは、早く蕃殖を終へたものから順次に所定の地へ渡り、それが終る前頃、北方から當地方或はそれよりも南方に渡るものが、八月中頃以後出現する樣になるのではなからうかと思はれる、尙上記觀察のものは、八月十二日まで蕃殖期特有の鳴聲を出してゐた

□コチドリの動靜。七月四日から十月八日までの間に、平林埋立地、淀川河口部右岸、淀川中流部等で、總計十七回見聞したが、これも最初が多く、七月二十日頃から後は少しづゝ減つて、終頃には少くなつてしまつた、而して最後の十月八日には、それまで稍暫くの間二—三羽位しか見なかつた場所で、三十羽程見た、從つて本種も亦、當地方で蕃殖するものは、早いものから順次に他地方へ渡り、北方から渡りをするものが、十月頃に出現するものと思はれる。

□コアヂサシの動靜。平林埋立地では、七月四日と同十二日とに稍々多數を見、蕃殖してゐること確實で、十二日には、親鳥を追ふて飛びながら、餌をねだつてゐる雛も見たが、其後暫く觀察の機會がなく、同月二十一日には只二羽を見、八月二十九日に三十餘羽を見たゞけである、淀川河口部右岸では、七月三十日に合計凡そ二千羽、八月十五日に約五百羽を見たが、同十八日には少數となり、九月十七日には一羽も見ず、その後は見えなくなつてしまつた、數年前に比べると、餘程早く渡り去る樣になつてゐる

□カイツブリの動靜。七月十四日から十二月十九日までの間に、平林埋立地、藤井寺方面、久米田池等で總計十七回觀察、平林埋立地では初期に少く末期に少し多くなつたが、前年よりも著しく少く、藤井寺方面では毎回少數づゝであつたが、十一月二十九日仲哀天皇御陵で稍々多數を見た、而して同所で十月九日に、ピーピーと鳴いてゐる小さな幼鳥を見、十一月二十九日にも、成鳥と異色の幼鳥を見た、又久米田池では、九月

二十五日に只一回觀察したゞけであるが、池が大きいのと、浮草が多いのとで、少くも百羽位居る樣に見えた

□キアシシギの初渡來其他。七月四日平林埋立地で一羽見たのは、春季南から北へ渡るものゝ最終者の樣にも思へたが、同地其他で五月二十九日に見てから暫くの間見なかつたから、矢張秋の渡りの先驅と見るのが至當であらう、其後十月八日までに總計十五回觀察したが、平林埋立地は近年好適の棲住場所が激減してゐるためか、八月二十九日に稍多數を見た後は見聞せず、淀川河口部右岸も、八月中頃までは稍々多數を見たがその後は漸次に減つて、九月末以後は何時も一—二羽を見たに過ぎない、近年本種が一般に激減したのは、網獵で多獲されることが最大原因であらうと思はれ、又當地に於ける渡去が早くなつたのは、棲住場所の縮減によること勿論である

□キアシシギの奇習性？ 七月十二日平林埋立地で、十五—六羽の一群が靜止してゐるのを發見して徐々に近づいたら、三十米位まで接近し得て、それから後は觀察者が進めば鳥も少し動いたが、其際十五—六羽の中に、跛行するものが五—六羽も居たのは不思議であつた、即ち、開獵期三ケ月も前に散彈を受けてゐるとも思へず假に密獵者に打たれたとしても、十五—六羽の中に五羽も六羽も跛ができる樣なことは極めて稀であらうから、(1)長時間一脚で立つてゐたゝめ、急に歩かねばならぬ樣になれば、思ふ樣に脚が運べないことがあるのか、(2)蕃殖を終つて間もないので、育雛中害敵が近づいた時に行ふ、僞傷の習癖でも殘つてゐて、一群中の成鳥だけがそれを演じたのか、二つの中の何れかでなからうかと思はれる

□ササゴヰの動靜。七月九日から九月十六日まで、大阪市東北部の上空を、營巢地から採餌地へ往復するのを見たが、其後は見ずに終つた、而して七月中は夜間鳴聲をきかなかつたが、八月八日以後は夜間時々鳴聲をきくことが多かつた、これは蕃殖を終つたものが、本來の夜行性に復つた實證である、尙七月二十五日と二十九日とに大阪市內諸所に點在して、本種の營巢場所となつてゐる銀杏樹を調べた結果は、樹數十本、巢數約三十、鳥の見えてゐたもの成鳥八羽、幼鳥二十七羽であつたが、樹が茂つてゐて鳥も巢も發見困難なものが多數あつたことゝ察せられるから、實數は少くとも巢數約六—七十、成鳥百羽、幼鳥二百羽を下らなかつたであらうと思はれる

□コシアカツバメを見る。特に觀察したのではないが、

七月九日大阪市中心部で二羽、同月二十一と二十五日とに、大阪北方池田町附近で少數を見た

□アヂサシの動靜。平林埋立地では七月十二日から九月二十四日までに六回の觀察中、三回は見ず、見た時も多くて十餘羽、少い時は二—三羽であつた、淀川河口部右岸では、七月三十日から九月二十九日までに、五回の觀察中二回は見ず、他は一回二—三羽のことがあつた外、百羽乃至百五十羽位を見た、本種は蕃殖期後の尾羽長の減退が、コアヂサシの程明かでない樣である、

□トビの動靜。七月十二日以後諸所で見たが、初期には甚だ少く、八月中旬頃から漸次に增し、九月下旬頃から多數となつた

□トビ、オバシギを捕食す。九月二十九日淀川河口部右岸で鷸・千鳥類觀察の際、オバシギ二十羽程が一群となつてゐて、一羽だけは其群から二十米程離れた所に腹を地面につけて休んでゐる樣であつたが、トビが一羽飛んで來て、其附近に居る鷸・千鳥が全部飛去つたのに、その一羽は飛立なかつた、其瞬間にトビは四—五羽となり、その中の二—三羽が交互に憐なオバシギを襲擊し始めたが、最初二—三回は嘴をトビの方に向けて威赫する樣にし翼も少し動かしたけれども、飛ぶことも走ることもできず、とうとう一羽のトビがそれを掴んで飛上つた、さうすると、それを見て遠近の多數のトビが其處へ集まつて來て爭奪戰を始めたので、一度地上に落したが、其時オバシギは無論生命を失つてゐた、それを復た一羽のトビが掴んで行つて、近くの地面へ降りると、直ちに二—三羽のトビが其處へ來て再び爭奪戰を始めたが、矢張掴んで行つたものが獨占し、翼を半ば擴げ兩側から來る敵を防ぐ樣にして食ひ始め、他のトビは近くでそれをうらやましさうに眺めてゐた、然るに全部を食ひ終らぬ內に、前よりも澤山のトビがまた其處へ集まつて來て、所有者は獨占覺束なしと見たのか、殘部を持つて飛上ると、其處に三度目の猛烈な爭奪戰が行はれたが、トビの數が餘りに多く、距離もだんだん遠くなつたので、最後の結末は不明に終つた、蓋し此のヲシバギは、鷹にでも蹴られたか、密獵者に打たれたか、或は病氣でもしてゐたか、三つの內の何れかであつたと思ふ

□イソシギの動靜。七月十二日から十二月十九日までの間に、平林埋立地で三回、淀川河口部右岸で二回、藤井寺方面で一回、淀川中流部で一回見たが、多い時も三羽、少い時は一羽であつた、而して九月以後のものには幼鳥が居た

□ヨシゴヰを見る。七月三十日から八月十八日までに、

淀川下流部の葦原で四回見た、最多數は五羽、其次は三羽、其他は一羽づゝで、八月十五日に見た一羽は幼鳥であつた、上記の箇所では蕃殖すること確實である

□バンの見聞。七月三十日から十月八日までに、淀川下流部葦原で四回、毎回一羽乃至稍々多數、平林埋立地で一回幼鳥一羽を見た、兩地共蕃殖すること確實である

□チウシヤクシギの渡去。七月三十日から十月八日までに、淀川河口部右岸で七回見聞、八月五日頃までは稍々多數居たが、其後漸次に減つて、十月八日には只一羽を見たゞけであつた、二—三年前頃から年々減る樣に思はれるが、それも棲住場所の縮減が一因をなしてゐること勿論である

□コシジロアヂサシの出現。八月五日と十五日とに、淀川河口部右岸地區で一羽見たのは、當地方としては珍しい出現である、大きさは凡そ普通アヂサシ位で、色彩の詳細は不明であつたが、頭部、初列風切、小雨覆等は灰黑乃至純黑色、腰、上尾筒、尾羽、及翼裏面等は白色、脚と嘴は黑色、胸腹部は光線の關係によるのか暗灰色乃至黑色に見え、尙顏面に白色部のあることも微に見えた、時々採餌の目的で水面近くへ下降したが、コアヂサシの樣な動作は見えず、寧ろ鷗類の採餌法に似た點が多かつた

□アヲアシシギの見聞。八月五日から十月八日までに淀川河口部右岸で四回、一羽乃至十二—三羽、平林埋立地で二回、三羽乃至四—五羽見聞したが、前年よりも遙に少かつた

□ハマシギを見る。八月五日から同二十九日までに、淀川河口部右岸で三回見たが、何時も十五—六羽位で、少い方であつた

□トウネンの渡去。八月五日淀川河口部右岸で四—五十羽の一群を見て後、暫くの間見なかつたが、九月二十九日に同地で二百餘羽の一群を見た、然しこれも其後漸次に減つて、十月八日には五十羽位になつてゐた、但し兩者は同一群でなからうと思ふ

□コサギの動靜。平林埋立地では、八月十二日約十羽を見て、其後一回見ないことがあつた他では、二—三羽乃至六—七羽を見ないことはないから、多分十餘羽は居ることゝ思ふ、又十二月十九日にも見たから、越冬することも確實と思はれる、上記の外、九月二十五日久米田池で二羽、十月九日藤井寺方面でも二羽を見た

□カハセミの目擊。八月十二日から十二月十九日までの間に、平林埋立地で毎回一羽づゝ四回、藤井寺方面で十月九日一羽、十一月二十九日諸所で一—二羽づゝ合

計四—五羽を見た

□コカハラヒワの見聞。八月十五日淀川河口部右岸で、幼鳥の混じてゐる三十羽餘の一群と、同月十八日に同地で七—八羽とを見、又十一月二十九日藤井寺方面應神天皇御陵附近で稍普通に見た

□ウミネコを見る。八月十五日と十八日とに、淀川河口部右岸で四十羽位の一群が徘徊してゐるのを見たが成鳥は僅で、幼鳥らしいのが大部分であつた

□ムナグロの初渡來其他。八月十五日淀川河口部右岸で稍多數を見たが、密集群をなしてゐなかつたので、多分同月五日前後に渡來したものと想はれた、其後同地では暫くの間少くなつてゐたが、九月末頃からまた多くなつて、一觀察區で四—五十羽の群を三群も見たことがあつた、以上の外八月二十九日平林埋立地で少數と十月九日藤井寺方面の或る池で十餘羽とを見た、本秋は前年よりも多かつた樣である

□キヤウジョシギの初渡來其他。八月十五日淀川河口部右岸で稍多數を見たが、これも同月五日前後に渡來したものと想はれた、其後十月六日までに同地で五回と平林埋立地で二回と見たが、末期に近づくに從つて減少した、本年は前年よりも少かつた樣である

□ツルシギの見聞。八月十五日淀川河口部右岸で二—三羽を見聞した、本種は毎年當地での滯在期間は短少であるが、本秋は只一回見たゞけであつた、又數年前までは屢百羽以上の群を見たこともあるが、昨年頃から多數來ない樣になつた

□ホウロクシギを見る。淀川河口部右岸で八月十五日一羽、九月十七日一羽、同二十九日一羽(跛であつた)、十月六日三羽等を見た、近年益々少くなる樣である

□チウサギの動靜。八月十九日藤井寺方面で三百餘羽の一群を見た後十月九日までに、同方面、平林埋立地、久米田池附近、及諸地へ往復途中諸所等で見た、九月十二日以後は大群に遭遇しなかつたが、諸方面に廣く分布してゐる樣であるから、總數は可なり多かつたことゝ思ふ

□コモモジロを見る。八月十五日藤井寺方面でチウサギの群に混じてゐるもの少數、同月二十九日平林埋立地で二—三羽、九月二十五日久米田池で四羽等目擊した

□コムクドリを見る。八月十九日藤井寺方面諸所で合計四十餘羽を見て、其後は見ずに終つた、近年當地方へ來るものが激減した樣である

□ゴキサギの見聞。八月十九日から十月九日までに、藤井寺仲哀天皇御陵で三回見たが、十月九日の百四—五十羽以外は、何時も七—八羽見えてゐたゞけである、又九

月十八日淀川中流部附近でも三—四羽見た、以上の外、夜間大阪市東北部上空を飛ぶものゝ聲は頻々と聽く

□ハシボソガラスの見聞。八月十九日から十二月二十二日までに諸所で見聞したが、何時も一觀察區で七—八羽乃至二十羽位であつた、而して沿海地方面では十二月十九日平林埋立地で二羽見たゞけである

□ホホジロの見聞。八月二十一日兵庫縣東部の山地で少數と、十一月二十九日藤井寺方面で少數とを見聞した

□ヒヨドリの見聞。八月二十一日兵庫縣東部の山地で少數、九月二十九日藤井寺方面で稍多數、十二月二十二日箕面山地で稍多數等見聞した、近年幾分減少の感がある

□ハシブトガラスを見る。八月二十一日兵庫縣東部山地で二—三羽と、十二月二十二日箕面山地で少數とを見聞した

□エナガの見聞。八月二十一日兵庫縣東部山地で七—八羽見聞した

□ダイゼンを見る。八月二十九日平林埋立地で少數と、十月六日淀川河口部右岸で二—三羽とを見聞したゞけで昨秋は勿論、本年春に比べても甚しく少數であつた

□ミサゴを見る。九月十二日と十二月十九日とに、平林埋立地で一羽づゝ、九月十八日淀川中流部で一羽、十月六日淀川河口部右岸で一羽等を見た、昨年に比べて減少の感がある

□アマツバメを見る。九月十四日大阪市東北部の上空を飛んでゐるもの一羽を見た、當地方では稀少である

□ダイシヤクシギを見る。九月十七日と二十九日とに、淀川河口部右岸で二羽づゝ、十月六日同地で三—四羽等見聞した

□メダイチドリを見る。九月十七日淀川河口部右岸で少數を見たゞけで、前年や本年春に比べて甚しく稀少であつた

□セグロセキレイの目擊。九月十八日淀川中流部で一羽同月二十五日久米田池で一羽、同月二十八日と十一月二十九日とに藤井寺方面でそれぞれ一羽等見聞した

□モズの動靜。九月二十四日平林埋立地で三羽見聞したのが、本秋平地での初見聞で、其後同月二十五日から十二月二十二日までに、平林埋立地、藤井寺方面、久米田池附近等で見聞、普通ではあるが無論多いとは云へない

□ヤセキレイの見聞。八月二十五日久米田池附近で、平地に於ける本秋の初見をした後、十二月一十二日までに、藤井寺方面、平林埋立地、淀川河口部右岸、箕面山地等で總計八回、毎回三—四羽乃至七—八羽を見て、

本秋は近年中で最も多かつた

□ハクセキレイの見聞。八月二十五日久米田池附近で本秋の初見をした後、十二月十九日までに、淀川河口部右岸と平林埋立地とで、合計六回見聞した、數は少い時は一羽乃至三羽位のこともあつたが、通常五—六羽以上十二—三羽位であつた

□マガモを見る。九月二十八日藤井寺仲哀天皇御陵で三羽、十一月二十九日同地應神天皇御陵で百羽餘見た、但し後者は外部から見えてゐたものだけであるから、總數はそれよりも遙に多かつたことゝ思ふ

□トモエガモを見る。九月二十八日右記マガモと同所で七羽見たが、まだ生殖羽のものは居なかつた

□チウヂシギを見る。九月二十八日藤井寺方面にある或る池の、水の涸れた部分に生えてゐる草の中から一羽飛出して、また近くの草の中へ隱れた、鳴聲はタシギのそれよりも太いが、調子は低く、ギヤツとリヤツと合した樣なもので、オホヂシギの聲に似て僅に調子が高い、遠くへ飛ぶ時には頸を縮めるのが普通であるが短距離を飛ぶ時には頸を伸してゐることがある、本種は當地方では稀にしか見ない。

□クサシギを見る。右と同日同所で雌雄らしいもの二羽を見た

□ムクドリの見聞。藤井寺方面で、九月二十八日十餘羽十月九日二羽、十一月二十九日五—六羽を見たゞけである、度々報告した通り、近年甚しく減つてしまつた

□オホソリハシシギを見る。九月二十九日淀川河口部右岸で二羽見たゞけで、昨年秋よりも遙に少かつた

□ヲバシギの目擊。九月二十九日右と同所で二十餘羽と十月六日同所で三十餘羽とを見たゞけである、他の多くの種類に比べて、脚が體の大きさの割合に短いから歩走も早くない、又採餌中屢兩翼を背上に伸ばすことも一特徴である

□ツバメチドリの出現。十月六日淀川河口部右岸にある畑地で、ムナグロが十四—五羽居る近くに、一羽降りてゐるのを見た、實體の大きさはムナグロと大差ないものであるが、翼が長大で、それを折疊んだものが、鯵刺類の翼の樣に、著しく後方に伸出てゐるので、ムナグロよりも餘程大きく見え、殊に飛んでゐる翼の開張は大きい、背面の褐色は濃暗で、上尾筒と尾羽の大部分が白いから、飛んでゐるのを後方から見ると、クサシギに似た點がある、飛方はツバメに似た點もあるがそれよりも寧ろ鯵刺類に似た點が多い、地上に降りてゐる時の形は、鯵刺類の嘴を短くして、脚を長くした樣なものである、尙飛翔間時々翼裏面の栗赤色が見られる

當地方では珍稀な種類である

□コヲバシギの渡來。十月六日淀川河口部右岸の沼地にヲバシギと共に居るもの二羽を見た、大きさはヲバシギよりも小さいことが明かに判り、凡そムナグロ大で形はヲバシギに酷似してゐるが、脚は體との比例上一層短く頸も長くない、色彩もヲバシギに似てゐるが、同種に比べると、背面の灰色が淡く、且各羽の中心部と邊緣との濃度の差が少い點が顯著であつた、尙動作もヲバシギによく似てゐる

□ハシビロガモ來る。十月七日平林埋立地の、例年渡來する所へ來てゐるものが百羽餘見え、十二月十九日まで同所で見て、其後は觀察の機會なしに終つた

□ヒドリガモ來る。右記ハシビロガモと全然同樣、只數が幾分多い樣であつた

□アマサギを見る。十月九日藤井寺方面の或る池で、チウサギやコサギ等と共に、それ等よりも著しく小形な白鷺が二羽程居たのは、多分本種であつたと思ふ

□キンクロハジロを見る。十月九日右記の池に隣接する池に本種が一羽居たが、これは前年から引續き居るもので、或は負傷してゐて飛べないものかも知れない

□タゲリの目擊。十一月二十四日平林埋立地で採餌中のもの三羽を見た

□ヲシドリを見る。十一月二十九日藤井寺方面應神天皇御陵に、見えてゐるものが八羽(四番ひ)居た、詳しく觀察ができたらまだ澤山居たことゝ思ふ

□ハイタカの目擊。右と同日同方面で、空高く舞ふてゐるもの一羽を見た

□カシラダカを見る。右と同日同方面で六—七羽を見た

□アヲジの見聞。右と同日同方面で三—四羽、十二月二十二日箕面山地で一羽見聞した

□ウグヒスの見聞。右と同日同方面で一羽、十二月二十三日箕面山地其他で三—四羽見聞した

□キジバト益々減る。十一月二十九日藤井寺方面で二—三羽を見たゞけで、近年益々減少を續けてゐる

□タシギの目擊。十二月十九日平林埋立地で一羽を見た

□ユリカモメを見る。右と同日同所で四—五羽、十二月二十八日大阪築港附近で二—三羽を見た

□ミソサザイの見聞。十二月二十二日箕面山地で一羽を見聞した

□コゲラの見聞。右と同日同所で合計七—八羽を見聞した

□シジフカラの見聞。右と同日同方面で三—四羽見聞した

□ヒガラの見聞。右と同日同方面で四—五羽見聞した

□ヤマガラを見聞。右と同日同方面で三—四羽見聞した

□ノスリを見る。右と同日同方面で飛翔中のもの一羽を

見た

□ジヤウビタキを見る。右同日箕面山麓で一羽を見た、本種は近年當地方では頗る稀少である

□アトリの見聞。右と同日箕面山地で五—六羽見聞した

本期間は富士山方面の鳥類觀察、兵庫縣東部山地の視察等に若干の日數を要した外、十月十日以後は家事故障のため外出不可能で、當地方鳥類の觀察が充分に出來なかつたのは遺憾である

【葉書通信】 昭和十二年二月十五日

三重縣廳 北村榮次

□ヒバリの鳴聲。二月十二日午前七時頃三重縣津市郊外塔世川畔の上空にてヒバリの高鳴せるを聞く

【手紙通信】 昭和十二年二月十六日

滋賀縣廳 橋本多三郎

□明節外本邦キジ產卵の件。滋賀縣栗太郡草津町乙種狩獵家木村伴之助氏は昨年十一月一日、雉獵解禁第一日郡內治田村大字下戸山方面へ出獵中、草叢より雌キジ一羽出現したるを以て之れを射落したるに、該キジの飛立ちたる後を見分するに、抱卵中にて產卵八個存在せりと云ふ、折角抱卵中なるも肝心の親キジを捕獲せしを以て該卵持歸り檢卵せしに、無精卵の樣見受けられしと云ふ

□琵琶湖に於けるカモ類の棲息狀況。本湖に於けるカモ類の棲息は二月初旬の氣溫頗る暖なりしに付、他方面に移動せしものか一向姿を見せざりしに、二兩日前より急俄寒氣襲來し、山間部には降雪を見るに至りし關係上カモ類の棲息增加を見るに至れり、而してキンクロハジロの戻りも大津市地先湖中にも姿を見るに至れり

【葉書通信】 昭和十二年一月卅日

沖縄縣八重山郡石垣町登野城一六一

岩崎卓爾

□ツバメ渡る。昭和十二年一月卅日、平年に比し三十二日早く、昨年に比し二十七日早し

【手紙通信】 昭和十二年二月二十二日

富山縣廳 邊見十郎

□狩獵鳥重量調査

鳥名	重量	捕獲月日	捕獲場所
キジ雄	三四八匁	一月十六日	西礪波郡南山田村
キジ雌	二〇〇匁	同	同
コガモ雄	七〇匁	一月十四日	東礪波郡城端町郊外
スズメ	五匁	同	同

ゴヰサギ	一五六匁	一月十四日	東礪波郡城端町郊外
マガモ雌	二八〇匁	二月十三日	射水郡老田村
カルガモ	三〇〇匁	同	同
シノリガモ	一八五匁	同	同

□ノウサギの眼球調査。

一、ノウサギの眼球はエチゴウサギのそれより大にして虹彩は別途送付の通薄樺色なり

一、エチゴウサギの眼球(虹彩)はノウサギのそれより稍小にして、ノウサギの虹彩の如く薄樺色ならず

右、狩獵月日 昭和十二年一月十六日

捕獲場所 西礪波郡太美村山林

捕獲者 迂職

【葉書通信】 昭和十二年二月二十五日

福島縣廳保安課 丈下重義

□アトリの大群飛來。二月二十五日午前七時十分頃、信夫山公園下(禁獵區)、福島市第三學校より競馬場、縣立蘭檢定所間の一帶にアトリの大群、萬餘の群、十數個所に飛來、小移動をなしつゝ約一時間白雪に埋められたる田圃を見事に鳥の世界に塗り潰し、實に其の壯快なるに見惚れ申候、通行人、電車、自動車中の人迄近寄りて之を眺め居り候、空氣銃を持つ中學生なども右往左往致し居り、小生も銃を持ち出でたるも擊つ氣になれず唯だ眺め申候

【手紙通信】 昭和十二年二月廿八日

兵庫縣津名郡中田村 薄木市左衛門

□二月氣象。雨天二十日、快晴二日、他曇天、甚しく高溫にて最低九度、最高十六度なり

□渡り鳥北上旺なり。上旬より各種共各所に群集、北上の模樣確かに認められ、三月下旬、又は四月上旬の狀態なり、大小各種共日々その數增加、十日より今獵期始めてトラツグミ他美しき保護鳥類を見、ウヅラ、ヤマシギ等も昨秋の南下渡來より正に多し(平年より少し)、二十二、三日頃より愈々北上退去始る、邪魔者のヲシドリ(數千棲息)さへどし〳〵退去、日に一、二度發見するのみ、秋冬共殆ど皆無と思はれしツグミも毎日通過中にて折々發見さる、ハトの渡去は特によく認められ、小山の正北向きの尖端には必ず五、六十羽の群を松の木に目擊す、而してその群は二度と戻らず、北上の樣、手に取る如く見受けらる、マワリガラスの大群も退去、昨今減少せり、彼岸のアヲガモ(春のマガモ)も未だ捕獲せされど日々少數宛通過せる痕跡は認めらる

□ヰジ、ヤマドリ棲息狀況。キジ、よく啼聲をきく、前

禁獵區自村及び大町村の昔ながらの棲息所には正に四、五ケ所棲息、出獵中度々發見さる、雌は餘り發見せずその數不明なれど何分の一かは必ず棲息確實なり、ヤマドリ一度も出會はず

以上の如き獵鳥の狀況なれば、此不自然なる不順の天候續くならば、間もなく(三月下旬)終獵となり、平年より一月以上早く獵鳥姿を消すことゝ思はる

□ウグヒスの初音。二月十七日午前九時、中田村自宅より南方二丁にて、西の靜風、晴、氣溫七度半なり、翌日より益々高溫(十二度)にて到る處一樣に旺に鳴き、目下野も山も日々その鳴聲を耳にす

□其の他鳥類狀況。メジロ、ヒバリ未だ鳴聲なし、但し近々初音聞かるゝことゝ思はる、スズメ、モズ營巢始む、平年より一月早く蕃殖せず

【手紙通信】昭和十二年二月二十八日

香川縣警察部保安課　唐澤治郎

□昭和十一年度狩獵免許者に依り捕獲せられたる獵鳥重量調査。

鳥名	雌雄別	重量	捕獲年月日	捕獲地
ツグミ	♀	二〇・一匁	昭和十一年十二月十三日	香川縣
ウヅラ	♂	二五・七	同	同
ヤマシギ	♂	九〇・三	同	同
マガモ	♀	二四〇・五	同	同
スズメ	♂	六・二	同	同
ヒヨドリ	♂	二〇・一	昭和十一年十二月二十日	同
同	♂	二〇・〇	同	同
同	♀	一六・八	昭和十一年十二月二十一日	同
スズメ	♂	六・〇	昭和十一年十二月二十日	同
同	♀	六・二	同	同

スズメ	♂	六・〇	昭和十一年十二月二十一日	香川縣
同	♀	六・一	同	同
オホカハラヒワ	♂	八・一	昭和十一年十二月二十日	同
同	♂	八・一	同	同
コカハラヒワ	♂	五・二	昭和十一年十二月二十一日	同
シロハラ	♂	二〇・一	同	同
ニウナイスズメ	♂	五・一	昭和十一年十二月二十二日	同
マガモ	♂	三二二・〇	昭和十二年一月四日	同
同	♀	三五四・〇	同	同
キジバト	♂	六九・八	昭和十二年一月十一日	同
同	♀	六五・五	同	同
ヤマシギ	♂	七九・八	同	同
ヒヨドリ	♂	二〇・一	同	同
コチドリ	♀	一一・一	同	同
キジ	♂	二一二・三	同	同
ヒヨドリ	♀	二〇・〇	昭和十二年一月三十一日	同
同	♂	一九・二	同	同
同	♂	二一・一	同	同
同	♀	二〇・〇	同	同

キジバト	♂	六一・二	昭和十二年一月三十一日	香川縣
同	♀	六一・〇	同	同
同	♂	六八・〇	同	同
ヒドリガモ	♀	一八二・五	同	同
マガモ	♂	三四〇・一	同	同
コカハラヒワ	♂	三・五	昭和十二年二月十四日	同
アトリ	♀	四・一	同	同
スズメ	♀	四・一	同	同
同	♂	四・一	同	同
ヒヨドリ	♂	九・二	昭和十二年二月十五日	同
キジバト	♀	六〇・五	同	同
同	♂	七〇・〇	同	同
同	♂	五八・〇	同	同
同	♀	六二・七	同	同
コガモ	♀	八八・〇	同	同
カルガモ	♀	二八二・三	同	同
マガモ	♂	三一八・〇	昭和十二年二月二十五日	同
キジバト	♂	六一・一	同	同
同	♀	五九・三	同	同
ウグラ	♀	三〇・二	同	同

【手紙通信】 昭和十二年三月一日

宮城縣警察部　安曇物四郎

□アトリ飛來に關する件。管内亘理地方にアトリの大群渡來の報に接し、狩獵者等に付調査の處、其の狀況左記の通に有之候條迄御參考及報告候

記

二月三日頃より十日頃まで、福島縣相馬郡地方より毎日午前六時頃數萬羽の大群、亘理郡下各所に飛來し、午後四時半頃には伊具郡地方に飛去せり、殊に飛來の最も多きは亘理郡吉田村吉田濱海岸地帶にして、甲種狩獵免許者は此の間毎朝八百羽以上宛捕獲、乙種狩獵者に於ても毎日二、三百羽を捕獲したる狀況なり、例年該鳥は二、三十羽位の群飛を見るに過ぎざりしに今回の如く數萬羽以上もの大群、各所に飛來することは珍奇のことにして三十年以來のことなりとのことなり、地方古老連の言に依れば明治三十八年の正月頃遭遇して以來のことにして其の年は東北地方の大凶作ありたる模樣にしてアトリの飛來は凶作の前兆に非ずやとして迷信的に恐怖の狀にあり、從つて該地方に於ては本鳥を一名「ガス鳥」(「註」餓鳥死と云ふ意なり)と稱し居る狀況なり

【手紙通信】 昭和十二年三月四日

靜岡縣駿東郡須走村一九二　高田昂

□ハギマシコの群を目擊。昭和十二年一月四日、三、四十羽の群を見る

□フクロフの鳴聲。同年二月廿五日より鳴き初む

備考　ハギマシコの渡來は、籠坂峠下に富士薊澤山繁茂し居り、其の實を食ひに例年十一月頃群を成し來るも昨年は不參にて本年發見す、場所は須走村立山大洞山御料林上道の入口手前の原野にて三、四十羽の群を見る、昨年遲れしは場所違ひし故、或は渡來時季は例年通り十一月頃來り居りしとも思はる

【葉書通信】 昭和十二年三月三日

福岡縣廳　安部幸六

□ウグヒスの初音。三月三日雨天、福岡市下警固浦谷にて盛にウグヒスの片言交りの鳴聲を聞く

【葉書通信】 昭和十二年三月五日

秋田縣廳林務課　池田重健

□フクロフの鳴聲。二月二十八日午後九時頃、秋田市寺町大悲寺境内樫ノ木の頂上にて十五分間位囀鳴せるが樹下に佇む私の姿を見し爲か、忽ち東南方約三丁位距る誓願寺附近の大樹に移り再び囀鳴せり、折柄月冴え寒氣烈しくその音頗る荒寥たり、秋田市にて聞くは今が始めてなり

□ヒバリの初渡來。三月二日、快晴にして雪も半ば消えたるが、妻の報告に依れば、今日自宅にてヒバリを發見せりと、前年は三月十日なりしに今年は八日早し

【葉書通信】 昭和十二年三月九日
三重縣津市 北村榮次

□ウグヒスの囀鳴。昭和十二年三月九日午前七時、津市自宅庭先の樹木間に於て盛に囀鳴せるを初めて聞く

【葉書通信】 昭和十二年三月九日
沖縄縣八重山郡石垣町登野城一六一
岩崎卓爾

□ウグヒスの初音。二月八日、平年に比し九日晩く、昨年に比し九日晩し

【葉書通信】 昭和十二年三月十二日
東京府石神井風致地區係員詰所 平間龜五郎

□ヒバリの初鳴。昭和十二年二月二十四日、板橋區上石神井二丁目石神井風致地區内畑に於て

□ウグヒスの初鳴。昭和十二年三月九日、同前場所山林に於て

【葉書通信】 昭和十二年三月十八日
長崎市にて 中村幸雄

□ツバメの初認。三月十八日
本日山陽線から長崎へまゐりました、時節柄ツバメの姿を鵜の目鷹の目で注意しました、その結果をお知らせ申上げます、特急富士は廣島で夜明となりましたので、廣島以西關門を經て長崎に至る途中の觀察です、山陽道沿岸及瀬戸内海(下の關門司間)では絶對に見ませんでしたが、有明灣の北部地方長崎線沿道で三羽目撃しました

1、佐賀鍋島間 一羽
2、肥前濱驛附近 一羽
3、肥前飯田多良間 一羽

(この地方、久保田、肥前山口附近、可なり多數のカササギ、營巣中のもの數羽を見ました)
長崎へは午後三時に着きましたが見えません、前記三ケ所は何れも有明灣を扼す最も暖い地方ですから何處よりも先に渡つて來たと思ひます

【手紙通信】 昭和十二年三月十八日
香川縣警保安課 唐澤治郎

□鳥胃調査報告。

捕獲場所 小豆郡内海村
捕獲年月日 昭和十二年二月二十八日
捕獲方法 銃器
捕獲鳥名 キジ雄
捕獲者 唐澤技手

鳥胃調査左記の通

植物種子名	員數	備考
1、ヤマウルシの種子	一ケ	完全なるもの
2、ツルウメモドキの種子	四ケ	〃
3、其他消化せるもの砂利等多數あり		消化物は主として1、2、の消化物なると認めらる

【手紙通信】 昭和十二年三月二十三日
香川縣警察部保安課 唐澤治郎

□エナガの目撃。昭和十二年三月九日、木田郡屋島公園頂上にてエナガ數羽を見る、當松林中に營巣するものと認む(海拔百八十米)

□メジロの目撃其他。三月十五日、大川郡琴平町金比羅社有地にてメジロ三羽見る、同時にシジフカラ、ヤマガラ、ウグヒスの鳴聲をも聞く

□カハセミの目撃其他。三月二十一日、高松市栗林公園内池にてカハセミを見る、公園内の合鴨は産卵を始む(一個)

□ツバメの渡來。三月二十三日、登廳の途中、高松市藤塚町にてツバメ一羽渡來し、飛翔せるを見受く、香川縣内一般より見て今年は三週間は渡來早き哉等一般農民は話し居れり

【手紙通信】 昭和十二年三月二十八日
兵庫縣津名郡中田村 薄木市左衛門

□三月氣象。氣溫の高低極めて甚しく、雨も多く、甚だ不順なり

□鳥類渡來、棲息狀況。一般鳥類の移動、中々旺にして獵狀は不良なり、目下渡來もあれど退去の方尚多く、日々各種共大減少中なり、ヤマスズメ、ヒワ、アヲジ、イヌヒバリ等小鳥の渡來極めて多く、トラツグミ、ルリ、コマ等少し、春シギの渡來全くなし、ウヅラも一羽も見ず、ツグミ、ヤブツグミ相變らず少し、今月ミソサザイを大町村にて二度目撃す、カラス大減少中、マワリガラス退去中なり、キジは自家附近(二十丁内)四、五ケ所に確に啼き居り、雌も折々發見す、ヤマドリ、見ず(棲息所と思ふ方面に行くことなし)、コジュケイ二ケ所に棲息す(放翔場所より七、八丁の地)多くは殘り居らざる模樣なり

□ツバメの初見。三月二十三日午後、多賀村にて始めて二羽を發見す、北東の和風、曇、氣溫十五度なり、而して翌二十四日より毎日至る所に一、二羽を發見す、氣溫の高低に拘らず目撃さる、平年より少し遲きやうなれど本島南部地方にては十五日頃渡來せる樣子なり

□獸類棲息狀況。ウサギ、イタチ多數殘棲す

【葉書通信】 昭和十二年三月二十八日
愛媛縣立八幡濱商業學校　淺　川　　武

□ツバメの初見。昭和十二年三月廿六日午後四時、愛媛縣八幡濱市松柏にツバメを初めて目撃す、本年は新年に入りて稍々暖く、二月中旬より三月(廿六日現在)中寒氣時々加はり、鳥の渡りも遲し

【葉書通信】 昭和十二年三月廿九日
三重縣廳　北　村　榮　次

□ツバメの初渡來。三月二十八日津市塔世川畔の上空に於て只一羽のツバメ、飛來せしを見る、蓋しこれ本年本縣に於けるツバメ渡來の尖兵ならむと思料す、例年は志摩郡波切町へ飛來するを常とせるも本年は未だ同町へは飛來せず(昨年波切町の飛來は三月三十一日なり)

【手紙通信】 昭和十二年三月二十九日
兵庫縣城崎郡竹野村　谷　垣　義　三

□キジの目撃。二月廿五日當村字アンジヤ谷附近にてキジ雄一羽目撃、昨年十一月及十二月に目撃したるものと同一の如し

□エチゴウサギの捕獲。十二月廿八日捕獲後、竹野村小丸にて一頭捕獲せしものある由を聞き調査せしに、既に他に賣却後なりし故確認なきも、耳先の黒き點は明瞭なり、前回捕獲場所と約四粁離れ居れり

□モズの初見。三月十八日、自宅附近にて三羽を目撃す、本年始めて目撃したるなり

□ヒバリの囀聲。三月二十二日、竹野驛に至る田圃上空高く囀る聲を聞く、例年より早し、氣溫の關係ならん

□カハガラスの目撃。三月二十六日、城崎郡奥竹野村梅田附近竹野川上流にて一羽目撃す

【手紙通信】 昭和十二年三月三十一日
靜岡縣駿東郡須走村一九二　高　田　昂

□一月分鳥類季節報告。

トラツグミ	三月九日より鳴き始む
ウグヒス	三月十三日よ囀り始む
ヤマシギ	三月十六日より渡來す
キジ	三月十八日より鳴き始む
アヲジ	三月廿五日より囀り始む
アトリ	三月廿日、去る
ベニマシコ	三月廿日、去る
ハギマシコ	三月廿二日、去る
シロハラ	三月廿九日、去る

備考　渡去鳥類アトリ、ベニマシコ、ツグミ、ハギマシコ、シロハラなどは凡て昨冬の渡來數より甚しく減じ居れり

【葉書通信】 昭和十二年四月一日
東京府石神井風致地區係員詰所　平　間　龜　五　郎

□カモ類の渡去。三月三十日、マガモ全部飛去、同日コガモ半數飛去す、板橋區上石神井二丁目三寶寺池に於て

【葉書通信】 昭和十二年四月六日
福岡縣廳保安課　安　部　幸　六

□アヲバヅクの鳴聲。昭和十二年三月卅一日、福岡縣粕屋郡篠栗村山中にてアヲバヅクの鳴くを聞く

【葉書通信】 昭和十二年四月八日
新潟縣保安課　小　林　虎　雄

□ツバメの目撃。四月十日午後三時半頃、新潟市にて目撃す

□ウミネコの群を目撃。同日、ウミネコの群三百羽位、信濃川畔上空飛翔中を目撃す(目下市内の魚店に鰯夥しく入荷致し居り候　迄參考)

【葉書通信】 昭和十二年四月八日
東京府石神井風致地區係員詰所　平　間　龜　五　郎

□コガモの增加。三寶寺池コガモは四月五日夕刻より急に增加し、本日に至るも依然として減ずることなく、浮游し居れり

□カケス急に渡り來るを覺ゆ。

參考、三寶寺池夏鴨は昨年三〇羽位留鳥、各所に產卵孵化せしも目下二百羽內外浮游し居るを見れば、本夏は五十羽位の留鳥を豫想せらる

【葉書通信】 昭和十二年四月十四日
東京府石神井風致地區係員詰所　平　間　龜　五　郎

□ツバメの目撃。四月十一日、ツバメ飛來し、當風致地區內三寶寺池附近を飛び廻れるを目撃す

【手紙通信】 昭和十二年四月十四日
富山縣保安課　邊　見　十　郎

□ツバメの棲息。

(イ)四月二日、金山村上野鴨場の淵より現る

(ロ)六月中、下旬、同溜池の藤又はヒサカキに三〇〇乃至三五〇羽のツバメ、夜間塒するを見る

故に鴨場(溜池)附近水緣の常綠樹は之を保護し、伐採せざる樣指導するの要あり

□ネズミの被害增大。此處十數年農家の米俵、ネズミに食害さるゝこと夥し、平垣部水田にもネズミの蕃殖顯著なり、山林內は目下夜間カサ〳〵〳〵と群をなして棲息しつゝあり、老人の談を綜合するに異口同音にネズミの增加を喞ちつゝあり

【手紙通信】 昭和十二年四月十五日
和歌山縣師範學校　坂　口　總　一　郎

□ツバメの渡り。昭和十一年度春季に於けるツバメの渡りは例年に比し少し遲く、本員の初見は四月十一日であつた、四月十三日には相當多くなつたが、何故か本年は和歌山縣に於て例年よりも非常に少數であつた、然るに氣候の順調と食餌等の關係良好なりしと見え、產卵、育雛多く、晩夏には例年に經驗なき程度の羽數を見るに至つたのは誠に喜ばしい次第であつた、次に之が秋季に於ける渡りは例年に比し少しく早く、九月二十六日北々西の風稍々强しと見るや、本年最初の渡りならんか、海草郡中松江村水田上を飛翔するツバメ群は無慮數百を數へた、其後北西の風吹く毎に數十、數百のツバメ群を見たが、十月八日以後には一羽の姿も見なかつた

□アマツバメの渡り。アマツバメは本縣西牟婁郡周參見町口和深の海岸及び東牟婁郡古座町九龍島に構巢育雛すること例年であるが、之が渡りは一般ツバメよりも早いやうである、十一年度の初見は三月廿八日で西牟婁郡富里村で七、八羽のアマツバメが上空高く飛翔するのを見たのであつたが、其後口和深並に九龍頭に就て其產卵、育雛を調べたが例年に比し僅少であつた、而して秋季に於ける之が渡りはやはり一般ツバメよりも遙に遲く、十月廿四日那賀郡龍門山に調査の際、圖らずも十數羽のアマツバメが數十羽のイハツバメと混じて頂上近く飛翔してゐるのを見受けたのであつた

□イハツバメの渡り及越冬。春の渡りは不幸見ることが出來ずに終つたが、秋季の渡りは數度見ることが出來た、イハツバメは何れのツバメよりも其渡りは一般に遲い、十月廿四日那賀郡龍門山に調査を試みた際はアマツバメと混じ數十羽のイハツバメ、飛翔捕食に努力して居るのを認めたが、最後は十一月十三日、和歌山市の上空に數十羽のイハツバメ、夕陽を浴びて飛び廻つてゐるのを見る、越えて一月五日、六日、東牟婁郡高池町明神、小川村附近に調査の際、古座川の北岸蟲喰岩に越冬するイハツバメの狀況を見たいものと立寄つて見たが、本年は同岩の一部を切取つて砥石石材として加工しつゝあるためか、一羽の越冬イハツバメも發見することが出來なかつたのは返す返すも遺憾の極みである、同岩の採掘は景勝を害する上よりも、更にイハツバメの越冬を根絶せしめる上からも甚だ遺憾なことであるから、早速高池町役場に對して採掘中止を命ぜられるやう依頼したのであつた

□コシアカツバメの渡り、蕃殖。コシアカツバメの渡りは其時期、春秋共にツバメと大差がない、從來之が構巢育雛は和歌山市內高野山に最も多く、白堊の軒下壁

に泥を付けて困ると大變嫌はれたものであつたが、近年著しく其構巢少なく、和歌山市の如きは稀に見る有樣となつた

□ヒヨドリの渡り。那珂郡生石山では例年になきヒヨドリの育雛良好で、八月には巢立の仔鳥が親鳥に連れられて飛び廻り盛に啼いてゐるのを目擊したが、狩獵期に入つて何れへ去つたものか、非常に少くなつた、又渡りのヒヨドリも本年はツグミと共に少く、例年秋の渡り期には加太海峽を越えて淡路、四國へ渡るヒヨドリが加太町附近の山林で一時休息するもの數十、或は數百、年によつては數回目擊するのであるが、本年は只一度數十羽の渡りを目擊しただけとは浦人の語る所であつた、本員も數度軍道の上にさしかゝつてゐるホルトノキの果實を啄むヒヨドリを調査したが、例年五月蚋いまで鳴き叫んでゐるに拘らず、本年は僅に數羽の姿を認めるに過ぎなかつた、本年はツグミと共にヒヨドリの非常に少なかつた年であつた

□ツグミ類の渡り。年々本縣に渡つて來て冬期棲息するツグミ類中、最も多いのは普通のツグミで、之に次ぐものはシロハラ、トラツグミは年によつて二、三羽目擊するが本年は一羽も見たことがなかつた、マミチヤジナイ、アカハラ等に至つては年に依つて一羽を見る位、で和歌山縣へは殆どその渡りがないものと見える、以下普通のツグミ、シロハラに付き本年の渡りについて目擊した狀態を書いて見よう

昭和十一年春は餘程遲くまでツグミが居たもので、四月の廿六日には海草郡三田村和田の櫨林に多數のツグミが居た、同四月卅日には西牟婁郡朝來村に數十羽のツグミを目擊したが、其後海草郡岡崎村では五月十日頃まで數羽宛のツグミの姿を認めた、越えて五月十五日以後は一羽の姿も見ることが出來なかつた、次に秋季の渡りは十月十日、一羽のツグミを見たのが初めで、冬中注意を怠らなかつたが、多數の渡りを一度も見たことがない、又冬中一日歩き廻つても僅かに一、二羽見る位であつて、近年稀に見るツグミの少數な年であつた、然し十一月下旬に入つて漸く多くなつた、即ち十一月廿日、信太山に調査を行つた際は、數十羽のツグミ、松林より松林へ渡つて行くのを目擊し、其後和歌山縣でも隨所に少數のものを見るに至つた、然し要するに本年はツグミの非常に少い年であつた

□タカ類の渡り。沖繩では十月頃出るハブの仔をタカの昆布卷と言ふが、沖繩では十月の中頃から十一月の初旬にかけて多數のタカが渡る、其タカがハブの仔を捕食するからハブの仔にタカの昆布卷と言つたものであ

らう、沖縄はタカの通過する道に當るばかりでなく又タカの越冬する所である、それが春四月にもなると再び沖縄を經て北上するのであるが、紀州は本州の南端を占めてゐる關係上、ツバメと同様、其渡りの道中に當るため、多數のタカを見るわけである、昭和十一年度はタカを多く見た年で、夏期でも時折タカの姿を見たものである、殊に東山東村では常にタカの姿を見たのであるが、或は造巣、育雛したのではないかと思はれた

□モズ類の繁殖多し。和歌山縣のモズ類は、本員數年の調査に依れば、モズの一種類で他のモズ類は棲息しない、モズは捕獲禁止せられて以來、和歌山縣では年々相當の密獵するものがあるが、近年非常に多くなつた、本員の最も多く見たのは九月二十五日信太山で一日に十六羽を見たことゝ、一月廿四日周參見町より琴の瀧に至る往路實に二十三羽の多數を見たことである、本員は一日中に斯くも多數のモズを見たことは未だ曾てないことで、近時大蕃殖の模様である、本年度秋季初めてモズを見たのが九月二十日で、構巣を見た最初は本年二月廿一日、西牟婁岩代を調査中、ヒメユヅリハの繁つた枝に構巣してゐるのであつた

□モズ、スズメを生贄とする。昭和十二年一月廿七日、和歌山市鹽屋村附近調査中、圖らずも生垣とせるカラタチの針に生贄とせるスズメを發見したがスズメは片眼潰され、羽毛も多少拔かれ、腹部より背部にかけカラタチの針に突き刺されて居り、最早相當日數を經たものと見え硬化して居た

□カモ類の渡り。本年度は多くの鳥類の渡り少きに反しカモ類の渡來は例年に比し多いかのやうに思はれた、特に本縣、日高郡各田以南、南部、白濱、周參見の海には數十數百羽の大群が棲息するのであつた、本員の特に驚いたのは二月二十一日岩代村に調査の際、名もなき小池に午後二時頃數十羽のカモ類の隱棲してゐたことで、其多くはマガモであつた、更に二月廿八日白濱の北岸、江津良の濱に數百の群鴨の游弋してゐるのを見たが、其多くはカルガモのやうに見受けた

□センダイムシクヒの渡來。センダイムシクヒも年々十月中頃渡來するのであるが、本年は渡來相當に多く、十月十日頃和歌山公園に多數顯はれたが、越えて十二年一月四日潮岬に調査の砌、出雲上野附近の松林に數十羽のセンダイムシクヒが居て特徴のある鳴聲を立てて飛び立つのであつた、又二月二十一日、西牟婁郡岩代村に調査の際も非常に多く、最初はタヒバリならんと思つたが、捕獲して其センダイムシクヒであること

を知つた

□シラサギ(ダイサギ)の飛來。七月卅日、大阪府泉南郡府中附近の池に十數羽のシラサギを見たが、其後追々其數を增し來り、玆泉南泉北兩郡に亘り棲息するシラサギは數百羽の多きに達した模様であつた、遂には和歌山縣にも飛來するに至り、八月廿二日、和歌山市宮前町に十數羽の姿を現し、更に八月廿七日には岡崎村の西方、又は南方に數十羽降りてゐるのを見た、それ以來毎日の如く飛來してゐたが、九月五日以後には姿を見せなかつた、然し大阪府泉北郡信太山附近の池には九月十五日頃尙數羽のシラサギを認めたが、九月廿日以後には既に一羽も居なかつた、越えて昭和十二年三月卅日、中貴志村(那賀郡)平地にシラサギ一羽飛來し、一日遊んで居たが、其後數日來て居たとのことである

□ムクドリの渡來。九月廿日、大阪府泉南郡佐野附近で二十數羽のムクドリの飛翔を見たが、其後漸次多くなり、泉南郡では毎日二群又は三群のムクドリを見るに至つた、其後和歌山縣にも渡來し、十一月十三日には海草郡貴志村に於て、十一月六日には松江村に於て數十羽の群を目擊するに至る、更に十二月一日より和歌山城附近の松樹に集つたムクドリは實に數百羽の多きに達し、毎日彼の特異の鳴聲に附近の人をして厭はしめるに至つたが、半月後の十二月十五日頃よりは何れへか飛去り、其後は和歌山縣にも大阪府にも全く居なくなつた

□ウヅラの渡來。本年度獵期に入つたばかりの頃には有田川、紀ノ川、南部川、富田川にはウヅラ、例年に比し多く、狩獵家を喜ばせてゐたが、其後は減じたものゝ、狩獵家は一日に七、八羽宛の捕獲があつたやうである

□ヤマシギの渡來。ツグミ、ヒヨドリの渡來が例年に比し僅少であつたが、ヤマシギも同様、餘程少なかつた本員は三月末日迄に僅かに一羽を目擊したに過ぎなかつた

□フクロフ、ブツポウソウの如き鳴聲を發す。本員居住の岡崎村西南方二町に水田中に丘あり、名を森山と云ふ、老松十數本聳立し、昔より名あり、里人春よりホイホイ鳥鳴くと云つてゐたが、最近ブツポウソウの鳴聲は全くフクロフなりとの聲を耳にしたが、此のホイホイ鳥はアヲバヅクなりとは本員の知悉してゐた所であつたゝめ、注意して毎夜此聲を聞いて見たが全く同様であることを知つた、ブツポウソウの聲は高野山及び大峯山でよく聞いたところであるが全く同様であ

る、本員はブツポウソウは鳴くのでなくそれはフクロフなりと斷定するまでの資料はないが、少くともフクロフはブツポウソウの鳴聲(世間に云ふ)と同樣の鳴聲を發するものであることを知つた

□琴の瀧附近の鳥獸。琴の瀧は周參見町より約二里東方にある瀧である、世に知られずに今日に至つたが、本員、本瀧の秀麗なると附近山岳の形象の奇拔なると、植物分布の面白きとに依り、天然記念物として保護せんと志し數度の調査を行つた、琴の瀧附近はヲシドリの渡來多きとカモシカの多きとは昔より人の知るところであるが、今尙此兩者は相當に多い、又琴の瀧より周參見町に至る間はキジ、ヤマドリの多產するところで、今日と雖も多數蕃殖してゐる樣子である、特にキノシシの多いことは有名で、狩獵家の言に依ると十數頭居るとのことで、一月廿一日本員調査の時も雌猪一頭、仔猪一頭を捕獲してゐた。和歌山縣では日高郡以南は猪多く、特に春より獵期まで田畑を荒されて困る所もあるが、矢張り年々に少くなる模樣である

□キツネ蕃殖す。和歌山縣は一昨年以來狐、狸、イタチの捕獲を禁じてゐるが、本年は其蕃殖見るべきものがある、和歌山市に近き岡崎村森小手穗に目下育仔中のキツネが本員の知る所だけでも三ケ所ある、此調子で進めば數年後には多くのキツネを見るに至ることゝ思ふ

【手紙通信】 昭和十二年四月二十八日
宮城縣廳 安臺惣四郎

□ツバメの渡來。本年ツバメの渡來發見は四月十三日にて縣廳構内なり、然し課員の言に依れば四月十二日、仙臺市南小泉にて發見したりとのことなり

【手紙通信】 昭和十二年四月廿九日
兵庫縣津名郡中田村 薄木市左衛門

□四月氣象。可成不順にて雨多く、强風度々あり、靜穩の日少く氣溫上下甚し(最高二十五度、最低十度)

□鳥類移動狀況。春の移動は平年より可成早く、三月上旬には我々にも得心さるゝほどの狀況なり、三月廿九日、南西の强風、急に大移動開始され、四月二日迄の五日間には殆ど殘り少く北上し、四月三日より各種共大減少し四月としては珍らしき不獵狀況なり

春鳴の渡來(ヤマシギの群集渡來のこと)なし、然し所々少數の渡來通過はあり、昨今尙ほし〳〵通過す、上旬中旬よりも却つて多數通過せり

ツグミ、ヤブツグミ等昨今最も多く、北上通過中にて平年より非常に多し、三月下旬より四月上旬の如き狀況なり

ハト、三月下旬去北せるまゝ急に見えず、其後通過

もなし、昨今にては何處にても一羽以上目擊されず、毎日一羽位は見ゆ

ウヅラ居らず

クヒナは折々目擊さるゝもバンは昨年十一月限り一度も發見されず、水も十分有れど今春に限り一羽も見えず

コマドリ居らず、トラツグミ少數、ヒワ最多く昨今尙門前にもうよ〳〵棲息す、ミソサザイ少し

ヒヨの群渡も見えず

キジ、意外に多く殘り、七、八ケ所に毎日旺に啼けり、自宅門前にも雌雄各一羽棲息、只今もやかましく啼く、雌何羽位なるかは不明

ヤマドリ、犬の都合にて居るらしき場所に近づきたることなし、二、三發見者あれど農家の人達なれば甚だ不確かなり、放翔場所近くには見えず

コジユケイ、甚だ少し、自宅門前放翔場所には一羽も見えず、北方四、五丁の所に一羽、南西二十丁、大町村の高倉山の大山の中段に一羽啼けるのみ

□獵期六ケ月間、例年との比較狀況

カモ、平年よりやゝ少し

バン、二分の一

ヲシドリ、平年と差なし

クヒナ、ヒクヒナ最も少し

ヒヨ、平年の半數

ツグミ、居らず

ヤブツグミ、極少

トラツグミ、ミソサザイ、コノハヅク、極めて少し、

アヲバト、イハバト、居らず

ヤマバト、平年の二分の一(但し前禁獵區內中田、大町に限り極めて多く大豐獵、マガモも同區內にて大獵マガモ八十、ハト七百羽)

ウヅラ、平年の十分の一(前禁獵區內も零)

ヤマシギ、平年より多く前禁獵區特に多し

ウサギ、多し

クヌキ、テン居らず

イタチ、多けれど不獵

□大鳥(種類不明)を目擊。一昨年春、郡家町(西浦)北山の大池に始めて渡來せる大鳥(其附近の人はツルなりと申居るも自分はダイサギと思ひ居たり)、引續き郡家多賀尾崎村の池や河に棲息し居たり、數十度わざわざ見居けに行きしも殘念乍ら一度も出會はさず、毎度飛立ちしあとなりしが、本月十一日自宅門下の小河に飛來す、非常に大きく、純白にして二貫目以上あると思はる、捕ふれば捕へらるゝも銃を向け得ず見逃した

り、東方志筑の方に去りたり、當日門前の村社の春祭禮にて人通多く、思ふ樣に調査し兼ねたり

【葉書通信】 昭和十二年五月三日
三重縣廳保安課 北村榮次

□ヨシキリの初渡來。五月三日朝、津市郊外柳林の中にてヨシキリの囀聲を聞く、當地方に於ける初渡來と思料せらる

【手紙通信】 昭和十二年五月三日
靜岡縣駿東郡須走村 高田昂

□四月分鳥類渡來日。

アカハラ	四月五日
コムクドリ	四月七日
クロツグミ	四月八日
ツバメ	四月十二日
センダイムシクヒ	四月十三日
ミゾゴヰ	四月十四日
サンセウクヒ	四月十八日
ヤブサメ	四月十九日
ツツドリ	四月十九日
コサメビタキ	四月廿日
ビンズイ	四月廿日
コルリ	四月廿一日
オホルリ	四月廿三日
ノビタキ	四月廿五日
キビタキ	四月廿六日
ノジコ	四月廿九日

□鳥類渡去日。

タヒバリ	四月三日
ミヤマホホジロ	四月三日
クロジ	四月七日
カシラダカ	四月七日
マヒワ	四月五日
ツグミ	四月十九日

【葉書通信】 昭和十二年五月四日
愛媛縣立八幡濱商業學校 淺川武

□シラサギの飛來。昭和十二年五月三日午前八時頃、八幡濱市松柏水田上空に於て例年の如くシラサギ一羽のみ目擊致候、數日の後姿を見せず相成候

【葉書通信】 昭和十二年五月五日
東京府石神井風致地區係員詰所 平間龜五郎

□カイツブリの蕃殖狀況。三寶寺池のカイツブリ孵化せしもの二個所、其他三個所抱卵中

□コガモの飛去狀況。同池コガモ殆ど飛去し、目下二十羽內外となる

□夏鴨の殘留狀況。本年は三十羽留鳥の見込

【葉書通信】 昭和十二年五月六日
東京府石神井風致地區係員詰所 平間龜五郎

□ヨシキリの初鳴。昭和十二年五月五日

【手紙通信】 昭和十二年五月六日
兵庫縣城崎郡竹野村 谷垣義三

□ツバメの渡來。當地方の渡來は每年三月末より四月上旬、三、四日頃なり、本年は積雪僅かに尺餘にして珍らしく溫暖なる冬なりし爲、渡來も三月末頃ならんと推測し居りしに、四月五日、初めて城崎町にて三羽飛翔せるを目擊す、當村にては每日の如く注意し居りしも目擊せず、四月八日、城崎町より三日遲れて二羽目擊せり

【葉書通信】 昭和十二年五月十一日
東京府石神井風致地區係員詰所 平間龜五郎

□サンクワウテウの初鳴。五月十日

【調査通信】 昭和十二年五月十三日
山林局鳥獸調査室 松山資郎

□ツツドリの鳴聲。五月十二日、茨城縣東茨城郡綠岡村笠原國有林に於てツツドリの鳴聲を聞く

【手紙通信】 昭和十二年五月十四日
大津臨湖實驗所 山崎正武

□ツバメの初見。昭和十二年三月廿四日、大津臨湖實驗所にて初めてツバメを見る(山崎觀察)

□シジフカラの囀鳴。三月廿五日、比叡山中降雪の中にてシジフカラの囀りを聞く

□滋賀縣野州川竹生(タケシジロ)にて觀察せる鳥。
ツグミ、ヒヨドリ、エナガ、アトリ、コカハラヒワ、ウグヒス、ホホジロ、イカルチドリ、セグロセキレイ、モズ、シジフカラ、ヒバリ、ツバメ、スズメ、トビ、カラス、ヤマシギ、カルガモ、カモの一種(觀察不充分)右の內アトリ、ホホジロ、コカハラヒワ、イカルチドリ最も多數なりき(川村敎授及山崎)

□實驗所のコシアカツバメの歸來。四月十八日

□オホヨシキリの初囀。四月廿七日、滋賀縣常盤村(湖東)にて囀り始む(向吉慶吉氏觀察)

□ササゴヰ來る。五月九日、大津臨湖實驗所に來る(山崎)

□比叡山黑谷靑龍寺にて囀鳴或は鳴聲を聞きたる鳥類。
五月十三日
カケス、ツツドリ、ヤブサメ、ヒヨドリ、シジフカラ、ヒガラ、ヤマガラ、クロツグミ、オホルリ、ヨタカ、ウグヒス、サンクワウテウ、サンセウクヒ、クワクコウ、コゲラ、アヲゲラ、センダイムシクヒ、キセキレ

イ、ホホジロ(?)
なほ杉の枯株の穴の中にオホルリの巣を發見、卵四箇を認めたり(山崎)、比叡山の鳥は未だ揃ひ居らざる様子、ホトトギスの如きも昭和十一年の初鳴は五月十一日なりしと聞きたり

【手紙通信】 昭和十二年五月十五日
廣島縣警察部保安課　松田尚鐵

□神石郡仙養原にて目撃せし鳥類。
五月六日より三日間
ヒバリ、ハト、アヲゲラ、カラス、ホホジロ、ホホアカ、ツツドリ、カケス、ウグヒス
土地の人の言に依ればキジ、ヤマドリも多少蕃殖する模様にて、クワクコウ、ホトトギスは十四、五日遲れて渡來するとのことなり

【葉書通信】 昭和十二年五月十五日
東京府石神井風致地區係員詰所　平間龜五郎

□コガモの飛去。五月十三日、三寶寺池のコガモ飛去す

【手紙通信】 昭和十二年五月廿九日
滋賀縣保安課　橋本多三郎

□比叡山に於ける夏鳥の初鳴及棲息狀況。
一、サンクワウテウの初鳴
四月十日朝比叡山無動寺谷に於て
一、ホトトギスの初鳴
比叡山横川(ヨカワ)谷　五月十二日
同中堂方面　五月十三日
同無動寺谷　五月十日
右何れも山僧の聞きたる通報に有之候、目下の狀況、全山通して逐日盛となり來りつゝあり、取分け横川谷方面が最も良好なり

【葉書通信】 昭和十二年五月二十九日
大島動物公園　林芳江

貴省調査に依る大島產鳥類目錄に記載無之鳥類に關し左記の通御報告申上候

□コガモの渡來。昭和十一年十一月十六日より昭和十二年三月廿三日迄、本園內池にコガモ三羽時々飛來浮遊す

□アカエリヒレアシシギの渡來。自昭和十二年五月十六日、至同年五月廿四日間アカエリヒレアシシギ三羽、園內池に飛來浮遊す、此中一羽、五月廿七日、死體となりて水面にあり、收得せしも腐敗せる爲御送附不可能にて候

□ツツドリの鳴聲。昭和十二年五月九日より事務所裏山にて聞く

□クワクコウの鳴聲。昭和十二年五月廿二日より事務所裏山にて聞く

□ヤマドリの蕃殖。ヤマドリ一雄二雌放翔せし處、昨夏雛三羽を認む、本年五月四日、雛六—七羽、親鳥の連行せるを認め申候

【手紙通信】 昭和十二年五月卅一日
兵庫縣津名郡中田村　薄木市左衛門

□五月氣象。上中二旬は天候良好、平年と大差なく稍高溫にて二十二—三度、下旬に入り甚だ不良にて溫度降り氣味、二十度以下多く不順なり

□獵鳥渡去狀況。今月に入りて鳥、益々減退、獵鳥としては三—四日頃迄二—三羽のヤマシギと可成多數のツグミ、ヤブツグミを見たるのみ、ハト一羽も見ず、上旬四—五日頃よりは全く一羽の獵鳥も見ず、殘らず退去せり、平年より半月も退去早し

□鳥獸棲息狀況。
バン、クヒナ、平年より少し後れて二日頃より至る所の池(少し大きな池にては)にて毎日目擊、但し一つの池に二羽以上は決して見ず、必ず一羽か二羽に限れり
キジ、相變らず毎日啼けり、案外方々に蕃殖する様子なり
ヒヨ、殘留蕃殖多し
メジロ、ホホジロ、ウグヒス多數蕃殖
ゴキサギ、例年少し
スズメ、カラス、トビ、平年通り
ツバメ、やゝ少き様思はる
コシアカツバメ、西濱、多賀、尾崎方面にて二—三羽見るのみにて非常に少し、年々減少す
カハセミ、ヒクヒナ、カイツブリ、減少する模様
ヒバリ、少し
セキレイ、以前通り
ノゴマ、平年より二十日程後れて六月二日、自宅前の村社の森に二羽確に啼き居たり、一日限りにて三日には何れかに移り、一度も啼かず
ヒワ、早春より至る所多數群れ居りしも、今月に入り急に姿を消し一度も見ず
放翔のコジュケイ、少なけれど確に棲息す、可成遠方へ移り居り、一里以上南方の安呼村の山間にても啼けり、自宅門前の放翔所にも度々戻り來りて啼けるも二—三日にて又何れかへ移る
カラス、元禁獵區中田大町村に限り他町村より多く一同困り居れり
イタチ、ウサギ蕃殖多し

□ダイサギの行方不明。四月十一日自宅門下に飛來のダ

イサギ、諸方問合せても全く行方不明、何とかして今一度發見、充分見屆け度く注意せり

□ホトトギスの初鳴。六月二十七日、午前九時三十分、約十回鳴く、梅雨型の曇、細雨、十八度五分、中田村中田、自宅正面一千米、村社の森附近、五—六百尺の連山の中腹にて

今後當分毎日夜鳴きを續けるものと思はる

□ブツポウソウの啼聲。六月九日、南西の和風、晴、氣溫最高二十度、同十日、一點の雲も風もなき珍らしき大快晴、二十一度、自宅南方八丁、中田村中田高山の本堂山（昔寺の跡）雜木林直ぐ下に一戸の農家あるのみ、全くの山奥、本村一の山深き谷の奥地、右の山の中腹にて九日、十日の二日、零時半より午後一時迄確かにブツポウソウの聲數度聞くとのこと、下の一軒家の主人外五人の者より報告あり（同家にラヂオあり、昨年春三河寶來寺山より二晩續いて放送せられたる聲に全然相違なしと）夫れに付、我々、夜も晝も度々同家に行き怠らず充分注意せしも一度も聞き得ず、附近二—三里遠方の高山、奥地近くの知人にも依頼して調査せしも喜報なし、我々考へてもこゝなればブツポウソウの來さうなと思はるゝ所、長く棲息はせずとも何れかに移動の途中、こゝに一時休止することは有ると思はる、此家の人達は珍らしく正直なる者達、我々とは家人同樣の親しき交りなれば間違ひはなしと思はる

【手紙通信】 昭和十二年六月一日
　　靜岡縣駿東郡須走村　高　田　昂

□五月分鳥類渡來及巣立雛報告。

ジフイチ	五月三日渡來す
ホホアカ	五月六日渡來す
マミチヤジナイ	五月八日渡來す
メボソ	五月九日渡來す
サンクワウテウ	五月十日渡來す
クワクコウ	五月十三日渡來す
ホトトギス	五月廿日渡來す
ミソサザイ	五月二日巣立を見る
フクロフ	五月九日巣立を見る
オホヂシギ	五月十三日巣立を見る
トラツグミ	五月十三日巣立を見る
コカハラヒワ	五月十四日巣立を見る
ヒガラ	五月十四日巣立を見る
スズメ	五月十八日巣立を見る
キセキレイ	五月廿一日巣立を見る
ヤマドリ	五月廿四日巣立を見る
シジフカラ	五月廿四日巣立を見る

コガラ	五月廿七日巣立を見る
ヤマガラ	五月廿九日巣立を見る

備考　昭和十二年四月巣立せし雛を左に記載す

カハガラス	四月十九日巣立雛を見る

【葉書通信】 昭和十二年六月七日
　　東京府石神井風致地區係員詰所　平　間　龜　五　郎

□カルガモの蕃殖。六月七日、三寶寺池にカルガモの雛八羽孵化浮遊し居れり

【手紙通信】 昭和十二年六月廿四日
　　島根縣濱田町馬島燈臺　小　野　木　七　郎

□イソヒヨドリの營巣狀況。人里遠き岬角孤島の岩より磯へ、朝まだきより夕暮るゝ迄、餌を求め飛交ふイソヒヨドリの營巣狀況を見る

場所は海岸に屹立せる數十尺の高さ、雨水浸入の恐れなき辛うじて腕を入れ得る巾約三尺、長さ八尺位の岩の横割目内にて、北西に面し、巣は周圍に枯草を、内部に草根を用ひ稍椀狀を呈す

五月十一日朝發見、親鳥は七卵を抱き追へども容易に逃げ出さず、卵は淡青色にして最長二・七糎、巾一・九糎、重量六瓦、鳩卵大なり、翌十二日、日沒頃には三卵と生れて程なき赤裸の雛四羽あり、十四日、雛は少許の灰黑色の產毛を生じ、重さ十一瓦、卵も依然三個ありの内一個を破損し、他も再々變轉せし爲か遂に不孵化に終り、何時か消え失せ後日迄殼をも認め得ず、十七日、產毛濃く肥大し、物の氣配に首を伸し、口を開き、餌を求むるも、二十五日頃に至りては互に體を竦めて外敵を警戒す、尾羽出揃ひ漸く形態を備ふ、捕へんとせるに一は巣外奥深く逃れ去る、二十九日午後三時頃、既に巣立ちして附近の岩間に隱れ居り、一は殊に發育良く形大、飛翔も稍自由にて十數間彼方に飛去る、他の一を捕へ秤量せるに五十五瓦あり、孵化より十八日間一日約三瓦宛肥育す、雌雄を判別し得ず

因に本營巣場所には一昨年も營巣し（昨年は不調査）、五羽の雛鳥巣立ちせる場所にして、好適の場所として營巣せるものなるや、將又連年一ヶ所へ營巣の習慣あるものなるや

【手紙通信】 昭和十二年六月廿八日
　　廣島縣警察部保安課　松　田　尙　鐵

□巖島巣箱調査報告。六月十六日、十七日、巖島に設置せる巣箱の調査を致し候處、大部分は利用致し居り、百個の中七十個位の割にて候、其利用せざるものは遊園地とて子供等が惡戲に巣箱の蓋を取り捨てたるもの又は蜂の巣をかけたるもの、巣箱（コンクリート製）の底の穴ふさがり水の溜りたるもの等の障害あるものに

て候、巣箱の中の材料は苔類に綿屑、鹿毛等にて、當地の如く鹿の棲息地にて特別なる材料かと思はれ候故別便にて御送付申上候、當巣はシジフカラにて他も殆ど全部シジフカラにて候、實は未だ調査不充分なるも巣箱の蓋を取り捨てる事について同公園事務所の者に尋ねたるに此巣箱の蓋を取り捨てるものは鴉にて、事務所の上に設置せるものも本年鴉が來て嘴にて蓋を落し、其の中にあるシジフカラの卵を啄食したる故、早速舊の如く針金にて結び置きたりとのことなり、尙早きもの(シジフカラ)は巣立致し、卵一個より七個迄の分あり、又雛の分も有之候

【手紙通信】 昭和十二年六月廿九日

廣島縣警察部保安課　松田尙鐵

□嚴島に於ける鷺類の蕃殖狀況。先日嚴島に小鳥の巣箱調査に赴きし際、同島に蕃殖する鷺類が最近須屋浦(同島の南北端)に多數群棲するとの事きゝたるを以て二十三日之が調査に行き候に付、簡單に御報告致候、六月二十三日、宮島棧橋より小舟に乘り須屋浦に至る(午前十時頃)海岸より一町餘り松、楠、ヤマモヽ等の繁茂する小高き處なりしが、チウサギ、アヲサギ、ゴヰサギ、アマサギ等の混棲にて約一千羽位群棲し營巣繁殖致し居り候、大部分は孵化後相當日數を經過せる爲、雛は巣に溢るゝ許りに成長し居り候、同島の鷺類は三、四年前迄は同島の東南端にて「鷹の巣」と云ふ處に現在と同樣の狀態にて棲息し蕃殖し居たるものにて、本日調査したる處に依れば現在は「鷹の巣」方面には鷺類の群棲を發見せず候

□嚴島に於けるマガモの蕃殖。同日最も興味ある發見を致したるは即ち「鷹の巣」に於てマガモの一群を發見致したることにて候、同所は嚴島の東南端部にて彌山其他の高き山を脊にし、松の外楠、ヤマモヽ等の樹も混じたる平地にて七畝位もあると思はるゝ池あり、雜草繁茂し鴨の蕃殖等には適當の地と思はるゝ場所に候、實は此入江の西方にある「青苔」と云ふ處にて數年前、川村多實二氏、清棲幸保氏等御一行と共に此時期にマガモ一番發見したること有之候爲、一入注意致し池に近づき候も、突然四、五十羽の大群に飛び立たれ呆然と致し候、池の周圍を檢査候も羽毛の散亂せる外巣と思はるゝものも發見出來ず候(池の中に葦の類繁り發見に困難)

【手紙通信】 昭和十二年六月廿九日

兵庫縣津名郡中田村　薄木市左衛門

□六月氣象、快晴少く半晴の日多く、案外低溫にて二十度より二十五度、雨三度

□一般鳥獸棲息狀況。上旬より急に鳥增加し、毎日多數を目擊す、蕃殖の雛何れも一度に巣立ちし、キジの雛も見ゆ、居殘りのヒヨも多數棲息し、冬獵期に比して大差なき程なり、ウサギ、イタチ棲息、バン、クヒナ少くカイツブリ多し、カハセミ少し、相變らず前禁獵區中田大町に限りカラス、ウサギの被害甚しきは不思議なり

【葉書通信】 昭和十二年七月四日

東京府石神井風致地區係員　平間龜五郎

□ゴヰサギの蕃殖。三寶寺池北側山中路傍の松樹(高約四十尺)にゴヰサギ營巣、五羽の雛を孵化し(巣立近し)居るを發見す

【手紙通信】 昭和十二年七月六日

滋賀縣保安課　橋本多三郎

□竹生島に於ける鳥類の蕃殖及その被害。琵琶湖中竹生島(滋賀縣東淺井郡竹生村字竹生島)は從來少數のゴヰサギ及アヲサギ等の棲息せる處なりしに、一兩年前より是等鳥類の蕃殖增大し、逐年增殖の傾向を示し來りつゝあり、近年に至り之が爲め同島の森林(風致林)の一部が脫糞の甚しきに依り樹木枯死するに及び、風致上に於ても甚しく遺憾の點を生じ來りしを以て、此際是等鳥類の驅除を行ひ被害阻止の必要を感じ來りしに依り、七月二日、實地調査を遂げたるに、被害個所は同島西岸中央部中腹にして濶葉常盤木雜木林中約五十歩程全く枯死するの現況を示せり、同島は從來カルガモの蕃殖と少數のゴヰサギ及アヲサギ等なりしに、近來ゴヰサギ及アヲサギ之に加ふるにウも亦相當蕃殖せる狀況にして、七月二日の觀察に依れば、目下構巣蕃殖期のことなれば、早きものは巣立ちせる幼鳥、遲きものは抱卵中のものあり、ゴヰサギ、アヲサギ及ウの巣は此の枯死せる森林並この附近に無數にして該鳥入り亂れて約五—六百羽棲息せる現況なり、該地帶は是等鳥類の脫糞散亂して惡臭紛々として鼻を劈くの感を呈せり、就中アヲサギの蕃殖の甚しき事實とウの蕃殖狀況は稀代なり、右の次第に付き此際の對策として蕃殖の調節を企圖するの必要有之と認め、不日有害鳥獸驅除を擧行するの見込みなり

【手紙通信】 昭和十二年七月七日

廣島縣警察部保安課　松田尙鐵

□ブツポウソウの棲息調査。

序

六月二十五日縣下山縣郡美和村大字溝口增野惣八君が本村にブツポウソウらしきものが棲息してゐると通知してくれたので、ブツポウソウの形態を詳しく圖示し

て送つたところ、折返し御説明の通りだとの回答が來たので七月四日、五日の兩日、同地に出張調査する事となつた

調査日記

七月四日曇天

廣島市より約十五里、自動車で三時間、七百米を登りつけた處にある盆地が山縣郡美和村大字溝口である、北面は島根縣邑智郡に接し、縣境には千二百二十米の阿佐山が峙つてゐる、溝口盆地には三—四十戸の人家と少し許りの水田が溝口川の流域に散在してゐる、ブツポウソウの飛來する場所は溝口村の一部にある照宮神社（老松が三—四十本、槇の大木が一—二本混じて欝としてゐる）境内と其眞下にある水田中に立てる電柱、及溝口村小字枕と稱する前記神社より約一里の北方にある水田中の電柱附近の二箇所である。

余は午前十時頃より一時間、照宮神社の方に待つたが飛來せぬので約一里を離れた枕の電柱の方に赴いた、それは宮本增右衛門氏方より二本目の電柱で五月頃アカゲラが營巣した穴あり、現在スズメが營巣中、これを中心として飛び廻り、時に其電柱に止まり穴をのぞいたりするとのことである、本日は何故か餘り飛來せぬとのことであつたが、午前十一時半頃、北方の山頂からゲーヅク〳〵〳〵と云ふ樣な今迄聞いた事も無い鳴聲で一羽飛び來り、百米以上の高所を數回舞ふて後何れかに飛び去つた、其風切の下方には確かに白色の紋が一ケ宛見えてゐた、其後三時頃になり、又前方の山頂に姿を現し、百米より五十米位迄低空を飛翔し、鳴き廻つて再び北方に去つた、余は照宮神社の方に行つたのだと思つたので直ちに同所に赴いたが、一里近い道を歩くので四時頃同所に着したところ、同所附近の農夫の言に依れば三時頃一回來り附近を鳴き廻つて去つたとのことである、是は後に知つたのだが余が照宮神社に行つた後直に枕の方に現れたとのことであつた、其後溝口の旅舍に入り夕食後照宮神社を訪ねたが鳥の姿はなかつた（此森にはムササビが棲息してゐる）

七月五日曇天（少し風强し）

增野君と二人で毎日午前八時頃出現すると云ふ照宮神社附近にて午前七時より八時迄待つたが出現せず、直に枕に行く、宮本增右衛門氏が「本日も午前六時頃一回と同八時頃一回來ました」とのことで殘念であつたが午前十時頃に至り、本日は三羽のブツポウソウが例の鳴聲を立てゝ出現、初めは二百米位あると思はれる所で頻りに飛んでゐたが次第に低下し、電柱の上空五十米位迄低下しツバメ其儘の飛翔振りを見せた、其

時嘴色、脚色、共に紅色に見えた、後電柱に止つた時双眼鏡で觀察すると、其青綠色の羽毛と頭の黑色が著しく見え嘗て標本で見た通りの形態であつた、午前十一時今回の出張日程の都合上惜しくも此地を出發した

今回の出張の結果を宮野增右衛門氏や增野惣八君の談話等と綜合して考へて見ると次の樣である

一、來期は五月上旬（ツバメより少しく遲れて渡來）去期は九月上下旬（ツバメより少しく早く歸去）

二、昭和十年頃から此地に現はれる樣に思ふ

三、現在出現する照宮神社、枕の二ケ所は餌を捕へる爲めか、又は電柱にキツツキの穴がある關係から營巢の爲か不明なるも夜は北方に向つて去る

四、宮本增右衛門氏の言に依れば、毎日午前六時から三時間位づゝ隔てゝ廻つて來る樣である

五、其の飛び來るや必ず二羽を一組とし、飛翔中は絶えずゲーヅク〳〵〳〵ゲーヅク〳〵〳〵と鳴く、飛翔の模樣はツバメに似てゐて宙返り等をなす

六、ブツポウソウは幽邃な地に棲息して餘り遠く飛翔せぬものゝ如く考へ居たるに、比較的平坦の地にて然も人家近く出現することは少し意外に思つた、而して其飛翔し來るや一種の鳴聲を立て、同一の所にて數分を舞ひ廻る事は觀察者としても愉快であつた

追記

宮本增右衛門氏の話

六月中旬頃前記のキツツキの穴にブツポウソウが入つたことがあつた、其時直ちに大きな聲で騷ぐので息子が梯子をかけて登り（地上二丈位）、其穴に手を入れ鳥を捕へて出した處、二尺位の蛇が卷いて居たので直に振り落した後鳥を逃した、然し其後此一羽が來なくなつた、此鳥は大變元氣な鳥でハヤブサでも追ひ廻す程である、スズメは常に追ひかけられてゐる

□同地方目擊の鳥類。ハヤブサ、セグロセキレイ、カケス、カラス、ツバメ、スズメ、ヒヨ、ウグヒス、マヒワ、アカゲラ、コゲラ

【手紙通信】昭和十二年七月十二日　滋賀縣保安課　橋本多三郎

□チウサギ、コサギ、ゴヰサギの棲息狀況。滋賀縣蒲生郡鏡山村方面にては一兩年より少數のチウサギ飛來し稻田に降下し居ること屢々ありとの風評聞知せるも、實驗困難なるに、昨年梅雨期より同村大字鵜川、十里藥師方面の稻田に降下、同地方に棲息し居ること聞き及びたるも、既に時期遲きを以て本年同期に調査することゝなし、七月十日、同村內に實地調査を遂げたる

に、その狀況左記の通りに有之候に付右報告候也

記

一、チウサギ及少數のアヲサギ等、大字鵜川及十里地先の稻田に植付の頃より現在に至る間、毎朝早朝より五―六十羽飛來、或は密集、或は點々と分れて降下し多少苗を蹂躙せらるゝの被害を生ずることあり、然るに本日實地見分の節は不幸にして之等の鳥の降下せる狀況を見ざりしに、上空を二羽宛多分番かと思料せらるゝもの、四ケ方面にて目擊す

二、是等の蕃殖地帶は同村大字藥師小字通稱「山林」と稱する山林なりと聞き居りしを以て現場へ赴きたるに現場は約一反歩程の赤松林の小丘にして、二―三十年生のもの密集せる山林なり、該所に大部分はゴキサギと少數のアヲサギの外、少數のコサギ等棲息、目下構巢育營中にして、巢數約百個程に三―四百羽程該鳥類蕃殖中なるを發見せり、（コサギの數五十羽內外と認む）

三、チウサギの蕃殖地帶は乍遺憾發見するを得ず、棲息數は前述の如く五―六十羽なりと聞く

四、蕃殖地の被害狀況、構巢は全部赤松の樹上になすも、松樹に被害認めざるも下木及下草等は殆ど糞のため枯死せるものなり、尙該山林は從來より松茸の發生地なりしも、該鳥棲息始めて以來全く不生となりたる趣に有之、該被害價格は相當算するものゝ如し

五、サギ類の餌料、現場地上に墜落しある餌料を見るに、七十粍位の小鮒二尾、八十粍位の源五郎虫一匹、五十粍位の蛙六匹隨所に散在せり

六、對策、村田稻田には被害相當免かれざるも、シラサギ類は美觀を呈するを以て、或時期には空砲驅逐を希望するも農業上被害なき限りは保護致し度く云々、然るにゴキサギ、アヲサギは狩獵鳥なるを以て適當の時機に調節を企圖することを希望す云々

【手紙通信】昭和十二年七月二十九日

兵庫縣津名郡中田村　薄木市左衞門

□七月氣象。晴天多く平年より稍々氣溫低く、申分なき盛夏なり

□一般鳥獸棲息狀況。土着の鳥獸各種共蕃殖良好にして今月よりキジの雛も度々見ゆ（但し前禁獵區以外にはなし）

今月上旬より急にツバメ增加、平年より多し

ホトトギスは最早啼かず

コジュケイ、非常に遠く散在し、二里、三里遠方にも其聲を聞くことあり、然し私宅上の元放翔所にも折々戻り來る、私方門前にも一度現れ足筱まで見えたり

(一)　竹生島西岸、ゴキサギ、アヲサギ、ウの棲息狀況

十二年七月二日撮影

(二)　竹生島西岸、ゴキサギ、アヲサギの構巢

十二年七月二日撮影

(三)　竹生島西岸、鳥類による被害林の一部

十二年七月二日撮影

橋本多三郎通信（三十九頁及四十一頁）附圖

□ブツポウソウの啼聲。今月中旬、須本町の直ぐ上の城山（三熊山）にて一週間毎夜ブツポウ〳〵と啼きたる由、ソーとは發聲せずブツポー〳〵のみとのこと、同地の小新聞にも記載されたりとの通知あり、五月に私村に一回渡來のやう報告せし通り、今春本島に一、二迷ひ來れると思はる

【手紙通信】 昭和十二年八月十一日

滋賀縣保安課　橋本多三郎

□鳥類生態寫眞の件。先般報告致置候滋賀縣東淺井郡竹生村地先琵琶湖中竹生島に棲息せる鳥類（ゴキサギ、アヲサギ、ウ）の寫眞三葉送付候、其の一（圖版の一）は棲息根據中心地帶にして、中央窪の稍々白く見ゆる分は鳥糞害にて被害箇所に有之候、其周圍の白點は主としてアヲサギに御座候、七月二十三—四日の兩日及八月七日驅除を行ひ、約一千三百羽を捕獲せしも、左程減じたる樣にも見えざる程の狀況に御座候、右御參考迄報告候

□夏期比叡山に於ける鳥類の棲息狀況。杜鵑類の囀鳴は頗る悪しく、從つてウグヒスの囀鳴も共に悪し、サンクワウテウも亦同樣なり、ツバメ、コシアカツバメの飛翔も目擊す、棲息良好なり、ヤマガラ、シジフカラ、ヒガラ等の棲息も良好なり、殊に本年目立ちて多きはオホルリの蕃殖なり

【葉書通信】 昭和十二年八月十二日

大津臨湖實驗所　川村多實二

□アカエリヒレアシシギの出現。例年八月上旬、大津附近にアカエリヒレアシシギの群現れ、電線に觸れて數羽墜落せしことも二年程ありて曩に報告し置きたるが、本年も八月九日朝より約五十羽の一群、實驗所附近の湖上に現れ、時々水面に浮ぶことあるも、大低は密集して湖上を飛翔し、その速度頗る大にて、全群一致の行動頗る見事なりしが、午後五時半、市の西方なる長良山の峰つゞきを京都方面に越えて見えずなりたり

【手紙通信】 昭和十二年八月十五日

山形縣保安課　眞壁雅一

□ブツポウソウ、巣箱を利用す。本縣に於て本年五月、縣下東田川郡黄金村大字谷定村社、御嶽神社に渡來するブツポウソウに對し、三十個巣箱給與致し候處、三番渡來、内二番は該巣箱を利用、營巣致し候

【手紙通信】 昭和十二年八月廿日

鹿兒島縣姶良郡牧園村　大籏勘太郎

□霧島方面の鳥類。前略—當地は霧島神宮有之、其境内にブツポウソウ蕃殖致し居り候、本月九日、オホルリの巣立ち間際の雛を見出し候間、飼育致し居り候處、

面白きことには其巣の底に多くのミヅキの實を殘し置き候處、オホルリは其實を食することを始めて知りたる次第に候、霧島方面にて目下鳴ける鳥は、オホルリ（餘程聲が少くなり候）、ブツポウソウ、イカル、ヤマガラ、シジフカラ、ヒガラ、アヲバト、ウグヒス（地鳴きに變り候）、イハツバメ、アマツバメ、アカゲラ、アヲゲラ、コゲラ、サンセウクヒ、エナガ、ホホジロ、ツツドリ等に有之、サンクワウテウ、ホトトギス、キビタキの聲は近來全く聞かざるやう相成候

【葉書通信】昭和十二年九月三日　大津臨湖實驗所　山崎正武

□アカエリヒレアシシギの飛來。琵琶湖大津市沖にてアカエリヒレアシシギ八羽、しきりに水面上一—二米位の處を飛翔しつゝあるを認む

【手紙通信】昭和十二年九月八日　榎本佳樹

自昭和十二年一月一日至同年六月三十日

□トビの動靜。一月十五日から六月二十日までに、平林埋立地、淀川河口部右岸、大阪府東北部、藤井寺方面、大阪府北部、淀川中流部、大阪府東南部、同南部等で合計十五回觀察、毎回一羽乃至三十羽を見た、秋冬の候沿海諸地に多く、春夏の候内陸方面に多いことは例年の通りである

□ミサゴの目擊。一月十五日から六月十五日までに、平林埋立地で四回見て、その中三回は各一羽、一回は二羽であつた、二—三年前に比べて減少の感がある

□ハシボソガラスの見聞。一月十五日から六月二十日までに、平林埋立地、大阪府東北部、大阪市内、藤井寺方面、大阪府東北部、同東南部、同南部等で合計九回見聞、六月二十日大阪府南部での一箇所で五十餘羽以外は、各回一羽乃至六—七羽に過ぎなかつた

□アヲサギの減少。一月十五日から二月十八日までに、平林埋立地、大阪府東北部、藤井寺方面等で合計四回觀察、その中大阪府東北部で一回二十四—五羽、平林埋立地で一回十四—五羽を見た他は一羽と三羽とであつた、蕃殖の場所が與へられず、且棲住場所も減るので漸次減少する外はない

□コサギの動靜。一月十五日から三月二十七日までに、平林埋立地で五回、各一羽乃至十羽を見た、毎年越冬の初期よりも終頃の方が少くなる傾向があるのは、多分密獵されるためかと思はれる

□カイツブリの動靜。一月十五日から六月十五日までに平林埋立地で六回、藤井寺方面で一回、淀川中流部で一回觀察した、其中平林埋立地で三十餘羽見たのが最

多數であつた、又冬季には集團し、三月中頃以後蕃殖のため分散することは例年の通りである

□モズの見聞。一月十五日から三月二十七日までに、大阪府東北部、同北部、平林埋立地、藤井寺方面、淀川中流部等で合計七回、各二羽乃至五—六羽を見聞した、而して、三月二十一日以後には構巣中のものを見た

□ハクセキレイの見聞。一月十五日から三月二十七日までに、平林埋立地、淀川河口部右岸、同中流部、大阪府東北部等で合計七回、各二—三羽乃至六—七羽を見聞し其後は見聞の機會なしに終つた

□ヒバリの動靜。一月十五日から六月十五日までに平林埋立地、淀川河口部右岸、大阪府北部、藤井寺方面、大阪府南部等で合計十三回見聞、平林埋立地で可なり多かつた他は何處でも少かつた

□タヒバリの見聞。一月十五日から三月二十八日までに平林埋立地、淀川河口部右岸、同中流部等で合計七回各一羽乃至稍多數を見聞した、近年は多數群をなしてゐるものを見ず、著しく減少した

□カハセミの目擊。一月十五日から三月二十七日までに平林埋立地で一羽づゝ四回見た

□ウミネコを見る。一月十五日から三月六日までに、平林埋立地で一羽づゝ二回、淀川河口部右岸で一回四—五羽を見た

□ツグミの渡來數稀少。一月十五日から三月六日までに平林埋立地で一羽づゝ二回、藤井寺方面で一回一羽を見聞したゞけで、頗る稀少であつた

□カルガモの動靜。一月十五日から六月十五日までに、淀川河口部右岸で一回三羽、平林埋立地で六回三羽乃至百餘羽を見た、本年（前年—本年）同地で越冬したものがあり、又春季歸來も早く其數も多かつたが、蕃殖場の狀態が惡くなつてゐるため、三月末頃から後は少くなつた

□キンクロハジロを見る。一月十五日から三月二十七日までに、平林埋立地で三回、各四羽乃至六羽を見た

□ミコアイサの出現。一月十五日平林埋立地で、右記キンクロハジロの居る近くに、本種の雌が一羽居て、頻に潜水してゐた、嘴がウミアイサなどのそれよりも餘程短く、又他の鴨類の嘴の樣に幅が廣くないのと、キンクロハジロの樣な普通の海鴨類よりも、一層潜水回數が多く且つその時間が長いのとは、識別のための一特徴となる、大阪附近では珍稀な出現である

□ユリカモメの動靜。一月二十三日から三月二十八日までに、淀川河口部右岸で二回各約三十餘羽、平林埋立地で二回各四—五羽等を見たゞけで、例年屢見る樣な大

群に遭遇しなかつた、併し四月上旬頃渡去期前集團の時期に觀察し得なかつたから、渡來數が少かつたと斷言はできない

□スズガモを見る。一月二十三日淀川河口部右岸で、水面に浮いてゐるもの凡四十羽と、二月九日平林埋立地で雄一羽、及三月二十七日同地で雌一羽を見た

□ハシブトガラスを見る。二月五日大阪府東北部で二—三羽と、三月二十一日淀川中流部附近で一羽とを見た

□ホホジロの見聞。二月五日から六月二十日までに、大阪府東北部、藤井寺方面、大阪府北部、同東南部、同南部等で各一回見聞、其中藤井寺方面と大阪府北部とでは少數であつたが、其他では普通であつた

□コカハラヒワの見聞。二月五日から六月二十日までに藤井寺方面で三十餘羽、淀川中流部で約三羽、大阪府東北部で十五—六羽、同東南部で合計少數、同南部で一—二羽等、各一回づゝ見聞した

□キジバトを見る。二月五日大阪府東北部で七—八羽と、三月十四日同北部で一羽とを見た

□ヒヨドリの見聞。二月五日大阪府東北部で少數、同十八日藤井寺方面で稍多數、三月十四日大阪府北部で少數、五月九日同東南部で少數、及六月二十日同南部で稍多數等見聞した

□マガモを見る。二月五日大阪府東北部にある山田池（鴨池）で明かに見えてゐたもの約三十羽、二月九日平林埋立地で二羽（雌雄）、二月十八日藤井寺方面仲哀天皇御陵で二十六羽、應神天皇御陵で約四百羽程見て、其後見る機會なしに終つたが、山田池でも應神天皇御陵でも、本年は例年に比べて非常に少いとのことであつた

□コガモを見る。二月五日大阪府東北部山田池で約五十羽、同大池（鴨池）で約二百羽、大阪府西北部八丁池（鴨池）で約三百羽を見た

□ヲナガガモを見る。二月五日右記大池で約百羽を見た外、何處でも見なかつた、當地方への渡來數は少い

□ハシビロガモの動靜。二月五日山田池で二十餘羽と、八丁池で六—七百羽とを見、其後平林埋立地では三月六日頃までに二百羽乃至三百羽を見たが、同月下旬には少數見えてゐたゞけである、而して五月五日同池で四羽（二番）見たのは、晩期の目擊である

□ヒドリガモの渡來僅少。二月五日山田池で百四—五十羽大池で百餘羽を見、二月九日平林埋立地で百餘羽を見たが、同地では其後見ずに終つた、概して例年よりも著しく少かつた

□トモエガモを見る。二月五日山田池で二十餘羽見たゞけで、其他では見ずに終つた、山田池番人の言では、

昨年は同池へ十萬羽程來たとのことである、本年は本種ばかりでなく、一般に鴨類の渡來が少かつた

□セツカの見聞。二月九日から六月十五日までに、平林埋立地で五回、淀川河口部右岸で二回見聞、初て鳴聲を聽いたのは三月二十七日で、その後數も多くなつた

□タゲリの越冬？　二月九日平林埋立地で三羽見たが、昨年十一月末頃にも同所で三羽を見たので、或は越冬してゐたのかとも思はれる

□イソシギの見聞。二月九日と三月六日とに、平林埋立地で各一羽を見聞したゞけである

□カモメを見る。二月九日平林埋立地で一羽、五月十日淀川河口部右岸で五羽を見た

□カシラダカを聽く。二月九日平林埋立地で一羽鳴いてゐるのを聽いたゞけで、其後見聞の機會もなかつたが、渡來數も少かつたらしい

□アヲジを聽く。二月十八日藤井寺方面で一羽、三月十四日大阪府北部で一—二羽、何れも地聲を聽いた

□ノジコを見る。二月十八日藤井寺方面で二羽、三月二十一日淀川中流部堤防で三—四羽を見、後者の一羽は囀鳴してゐた

□キセキレイの見聞。二月十八日藤井寺方面で二羽と、六月二十日大阪府南西部犬鳴山附近で一羽とを見聞したゞけで、其他見聞の機會もなかつたが、減少してゐることも勿論である

□ヲシドリを見る。二月十八日藤井寺方面應神天皇御陵で五—六羽を見た

□ムクドリの見聞。二月十八日平林埋立地で七—八羽、五月九日と同二十七日とに堺市南方でそれぞれ三—四羽と五—六羽とを見聞した、近年甚しく減少してゐる

□クヒナを見る。二月十八日平林埋立地で二羽見た

□オホジユリンを見る。三月六日平林埋立地で、六—七羽居るのを近距離で觀察したが、何れも冬羽のものばかりであつた

□コモモジロを見る。二月六日平林埋立地で一羽見たが其後何處でも見る機會なしに終つた

□シロチドリの動靜。三月六日から六月十五日までに、平林埋立地と淀川河口部右岸とで合計六回見聞、その中三月六日平林埋立地で百四五十羽の一群を見た他は何れも少數であつた、而して五月五日以後には蕃殖期特有の鳴聲を出してゐた、平林埋立地では今尙少數蕃殖してゐるものと思はれる

□ヤマガラの見聞。三月十四日大阪府北部箕面で二—三羽、五月九日大阪府東南部で二—三羽、六月二十日大阪府西南部犬鳴山で五—六羽見聞した

□シジフカラ。三月十四日大阪府北部で二—三羽、五月九日大阪府東南部で二—三羽、六月二十日大阪府西南部で一—二羽等見聞した、棲住數は多くない

□シロハラの小集團。三月十四日大阪府北部箕面山で、十五—六羽が疎散な一集團となつて、林中を徐々に移動してゐるのを見た、當地方での本種としては珍しい行動である

□ルリビタキを聽く。三月十四日右記箕面山で一羽の地聲を聽いた

□メジロの見聞。三月十四日箕面山で二—三羽、五月九日大阪府東南部で五—六羽、六月二十日大阪府西南部で三—四羽を見聞した

□ツバメの初渡來其他。三月二十一日淀川中流部附近で二羽初渡來を見、五月九日大阪府東南部で稍多數の幼鳥を見た

□フクロフを海邊で見る。三月二十七日平林埋立地南部にある小さい池の東側の松に一羽とまつてゐて、時々少距離を飛んで位置を變へてゐた、而して最後の場所では、モズが一羽甚しく接近して威嚇してゐた

□ウヅラの春季渡來。三月二十七日平林埋立地で鳴聲をきいた、例年の通り春季の渡來で、可なり多數居た樣に思はれた

□コチドリの動靜。三月二十七日から六月十五日までに平林埋立地と淀川河口部右岸とで各少數を見聞した、蕃殖してゐること勿論であるが、減少の傾向がある

□コチドリ、イタチに襲はる。六月十五日平林埋立地でイタチがコチドリを襲ふてゐるのを見たので、其方向へ急に駈て行つたら、イタチは襲擊を中止して草の間へ逃げたが、平常は同地で蕃殖してゐるコチドリやヒバリなどが、相當多數犧牲になつてゐることであらう

□チウシヤクシギの春季渡來。五月五日平林埋立地で十羽餘、同月十日と十二日とに淀川河口部右岸で、廣面積に散在してゐるもの凡そ三百餘羽を見、それ等の前後には觀察の機會なしに終つた

□キアシシギの春季渡來。五月五日平林埋立地で二十餘羽、同月十日と十二日とに淀川河口部右岸で、散在してゐる總數凡そ五—六百羽等を見、それ等の前後には見る機會がなかつた

□ツルシギを見る。五月五日平林埋立地で二十四—五羽を見たが、夏羽のものが多かつた

□キヤウジョシギの春季渡來。五月五日平林埋立地で、畑地に降りて採餌中のもの七—八羽、同十日と十二日とに淀川河口部右岸で、廣面積に散在してゐるもの少くも七—八百羽を見た

□オホヨシキリの見聞。五月五日平林埋立地で鳴聲をきいたが、初渡來日はそれよりも前であつたこと勿論と思ふ、其後五月十日と十二日とに淀川河口部右岸で各少數、六月十五日平林埋立地で稍多數等見聞した、棲住場所の縮減につれて減少しつゝある

□コアヂサシの動靜。五月五日平林埋立地で少數と、六月十五日同地で稍多數とを見た、本年も同地で蕃殖するものがあることゝ思はれる、又淀川河口部右岸では五月十日と十二日とに各三百餘羽を見たが、其時の狀態では、一部分蕃殖を終つたものがあるのではないかと思はれた

□サシバを見る。五月九日大阪府東南部で二羽と、六月二十日同西南部で二—三羽とを見た

□エナガの見聞。五月九日大阪府東南部で二—三羽と、六月二十日同西南部で五—六羽とを見聞した

□コゲラの見聞。五月九日大阪府東南部で二—三羽を見聞したゞけである

□センダイムシクヒの見聞。五月九日大阪府東南部で、六月二十日同西南部で、各二—三羽を見聞した

□オホルリの見聞。五月九日大阪府東南部で二—三羽、六月二十日同西南部で、稍普通等見聞した

□サンセウクヒの見聞。五月九日大阪府東南部で二—三羽と、六月二十日同西南部で三—四羽とを見聞した

□コシアカツバメを見る。五月九日大阪府東南部で二—三羽を見た

□チウサギを見る。五月九日堺市南方で二羽見たが、其前後には見る機會を得ずに終つた

□ハマシギの春季渡來。五月十日と十二日とに淀川河口部右岸で、各三百餘羽を見た、夏羽のものが多かつたが、腹部の一大黑斑は顯著な特徵となる

□アヲアシシギを見る。五月十日淀川河口部右岸で一羽見た、本春は少い樣であつた

□ミユビシギを見る。五月十日淀川河口部右岸で、ハマシギの群に混じてゐるもの少數を見た

□ソリハシシギを見る。五月十日淀川河口部右岸で少數を見た

□ダイゼンを見る。五月十日と十二日とに、淀川河口部右岸で少數を見たが、過半が夏羽のものであつた

□ムナグロを見る。五月十日と十二日とに、淀川河口部右岸で少數を見た、これも夏羽のものが多かつた

□メダイチドリを見る。五月十日淀川河口部右岸で少數を見た

□ヅグロカモメの出現。五月十日淀川河口部右岸で純夏羽の成鳥一羽、半夏羽或は半成鳥と思はれるもの一羽

及幼鳥らしいもの二羽を見た、當地方では珍しい出現である

□アヂサシを見る。五月十日と十二日とに、淀川河口部右岸で各二百餘羽を見た

□バンの見聞。五月十日淀川河口から少し上流の右岸で鳴聲をきゝ、六月十五日平林埋立地で採餌中のもの二羽を見た

□ホウロクシギを見る。五月十二日淀川河口部右岸で三四羽を見た

□オホソリハシシギを見る。五月十二日淀川河口部右岸で一羽を見たが、遠距離には尙多少居た樣に思はれる

□トウネンを見る。五月十二日淀川河口部右岸で五—六羽を見、その過半は夏羽のものであつた、尙當時遠距離にも多少居た樣であつた

□ササゴヰの動靜。本年は初渡來時前後の觀察を爲し得ず、五月十六日上空を飛ぶものを見、其後は大阪市東北部の空を、西南—東北に往復するものが絶えず、前年よりも殖えてゐる樣である

□カケスの見聞。六月二十日大阪府西南部犬鳴山で四—五羽見聞、その中二—三羽は、樹にとまつてゐる一羽のクマタカに對して、頻に威嚇を試みてゐた

□ヒガラの見聞。右と同日同所(以下各種共)で少數を見聞した

□コサメビタキを見る。二羽程見た

□キビタキの見聞。二—三羽見聞した

□ウグヒスの見聞。屢見聞し稍普通であつた

□ヤブサメを聽く。一度鳴聲をきいた

□カハガラスの見聞。二—三羽を見聞、幼鳥らしいのも居た、大阪府下では非常に稀少である

□アヲゲラの見聞。二—三羽を見、時々ピユービ・ユーの鳴聲をきいた

□ホトトギスを聽く。一—二羽と思はれるものゝ鳴聲を聽いた、多くない樣である

□アヲバヅクを聽く。六月十九日夜と二十日早朝とに、犬鳴山で鳴聲をきゝ、少くも二羽居る樣に思はれた

□クマタカを見る。六月二十日犬鳴山に一羽ゐて、少し距離はあつたが、午前午後二回に亘つて、稍長時間觀察ができた、午前にはカケスが二—三羽クマタカと同一の樹にとまつてゐて、頻に威嚇動作を反復してゐたがクマタカは殆ど無關心の樣子であつた、又午後にはサシバが一羽威嚇動作を繰返してゐて、此時は屢飛立ち、羽搏飛翔と帆翔とを交互に、悠々と飛び、毎度最初の場所の近くへとまつたが、サシバを怖れてゐなかつたこと勿論と思ふ

【手紙通信】 昭和十二年九月十日

滋賀縣廳保安課 橋本多三郎

□ガンの南下。九月に入り大津市の上空を夜間雁南下せる傾向を認めたるにより注意を拂ひ居りしに九月六、七の兩日午後九時過(暗夜)數羽羽風を切り鳴聲を發し南下せるを目擊す

尙九月四日夕暮の頃滋賀縣蒲生郡日野町方面の上空を雁三—四十羽の一群V形の陣を取り南下せりとの日野獵友會長岡崎傳左衛門氏の目擊談を同氏より聞及びたり

【手紙通信】 昭和十二年九月二十二日

香川縣廳保安課 唐澤治郎

□コガモ渡る。九月十五日、香川縣仲多度郡善通寺町にてコガモ三羽渡り來るを見る

□ツバメの渡去。九月十六日、高松市藤塚町に於てツバメ二羽歸るを見る、之が本年度の最終日であつた

【手紙通信】 昭和十二年九月二十四日

兵庫縣城崎郡竹野村 谷垣義三

□キジ。昭和十一年度山陰地方大雪害の爲め以來降雪被害地方はキジ全滅の感あり、僅かに棲息し居る個所を記す

城崎郡西氣村神鍋山附近、該地方は降雪と共に移動

城崎郡口佐津村沖ノ浦

美方郡村岡町附近(禁獵區內外)

美方郡西濱村附近

出石郡合橋村及高橋村

□ヤマドリ。十一年丈餘の降雪の爲、多數死亡せしもキジの場合と異り半滅の程度なり、本年は蕃殖に適したる氣候なりし故各地方共好蕃殖の感あり、右各郡共奥地の成績良好ならん

城崎郡奥佐津村、奥竹野村、三椒村、西氣村、清瀧村

美方郡大庭村、西濱村、小代村、村岡町

出石郡合橋村、高橋村、資母村

□タヌキ、キツネ。兩者共暫時全滅の憂あり

□ウサギ。狸狐全滅に比し各地共蕃殖良好にして農作物の被害相當あり

□エチゴウサギ。十一年十二月該獸捕獲以來調査せしに養父郡八鹿町妙見山(一、二〇〇米)附近にて捕獲せり、城崎郡奥竹野村附近にて二頭捕獲、美方郡照來村附近にては白化せるもの降雪後には多數捕獲するとのこと特徴たる耳先の黑色を尋ねしも記憶なしとのことなれども該獸ならんと推測せり

□アヲサギ。出石郡出石町鶴山を棲息地とせる該鳥は圓

山川一圓に蕃殖し初獵期の獵鳥として迎えらる、該鳥は出石郡出石町、神美村、城崎郡、豐岡町、田鶴野村、奈佐村、内川村、城崎町、圓山川沿岸町村に分布し本年は蕃殖は良好なり

九月に見聞せる鳥類

□クロサギ。城崎郡口佐津村相谷海岸及竹野村濱須井及猫崎附近一帯にて數羽を目撃す

□イハツバメ。九月四日城崎郡口佐津村相谷洞門を調査せしに二ケ所にて數十羽目撃、本年は例年より多數渡來せし由地方漁民の說なり

□シギ。九月十二日(颱風通過の翌日)竹野川上空を五羽飛翔せるを目撃せしも名稱不明なり、九月十三日竹野川上空を一羽飛翔せるを目撃せり該鳥は少し大型なれども種名不明なり

□アヲサギ。九月十八日、竹野川附近森林上を飛翔せるを目撃、該鳥は圓山川筋より飛來せるものならん

□カラス。當地方にてはカラスは戰勝壽鳥と云ふ、八月以來多數棲息し居りしに一時姿を見せず北支に渡戰せしものなりと語るものあり、昨今數羽を目撃する程度なり、農作物の被害相當ある可き筈なりしも本年はカラスによる被害は皆無なり、某葡萄園主は語る「毎年成熟期には多大の被害ありしに本年は八月以來カラスの姿を見ず僅に目撃すれども一向害せず、不思議な感あり、北支の皇軍の爲め出征せしならん」と

【手紙通信】 昭和十二年九月十四日

富山縣　邊見十郎

□ガンの渡來。九月三日富山縣射水郡櫛田村上空に於てガン五十羽程三角編隊へをなし南方に渡るを現認せり(目撃者同村狩獵者荒木茂)

例年なれば十月十六—七日頃稀に二—三羽初渡りを見るのみなるに本年は異狀に早し、斯る現象は北極地方が急に寒くなりしためか或は西比利亞地方にて盛んなる演習でもありしならむ

【葉書通信】 昭和十二年九月二十四日

秋田縣林務課狩獵係　池田重健

□秋田市千秋公園の鳥。九月二十二日午後一時半(無風快晴)秋田市千秋公園の鳥を調べたるにホホジロ四—五羽飛翔、ゴジフカラ一羽、シジフカラ四—五羽囀鳴、ヒヨドリ七—八羽群飛鳴騒、トビ一羽停枝し居るを目撃せり、トビは本年公園内に九ケ所巣を作れり、本年はケリ、ヒヨドリ多きものゝ如し

【手紙通信】 昭和十二年九月三十日

滋賀縣廳保安課　橋本多三郎

□コガモ來る。琵琶湖に於る鴨の渡りの先發はコガモに

して毎年九月下旬に湖南地方に來る、本年度の狀況は滋賀郡眞野村の一狩獵家の見聞する處に依れば九月二十四—五日頃同村地先に四—五羽來るを初とし現在には順次增加し一群二十數羽に殖え居り且つ沖島方面にも五—六羽の群を認むるに至れりと云ふ、右は本年同期と大差無し

□ガンの渡り良好。先便報告後觀察するに引續き間斷なく毎夜午後八—九時頃多數大津市の上空を南下す、本年度は例年に比し頗る良好なりと認む

【手紙通信】 昭和十二年九月二十七日

淡路　薄木市左衞門

□渡來狀況。今迄に渡來せしものとしては九月二十二日午後五時三〇分ムクドリ五—六十羽自宅上空を北東より南方に向ひて通過せしを認む、他に極めて小形の名稱不明の小鳥一種九月上旬渡來せり(チチ〳〵と啼く)

□ウヅラの初見。九月七日、南東和風晴三十二度、午後尾崎村遠田の芋畑にて初ウズラ三羽確に見たと同地の獵友より通知ありしも餘りに早過ぐる故疑はし、其後外よりの發見通知はなし

□バン減少す。バンは八月以來の大減水のため(今尙半減)極めて少く今獵期までに多少增水するとも增加せざるべく平年の一割程度の見込なり、尙淡路島のバンは他地方に比し豐獵の時といへども甚だ少し

【葉書通信】 昭和十二年十月八日

秋田縣廳林務課　池田重健

□カシラダカの渡來。十月八日、曇天南東の微風氣溫低し、市外寺内町八橋にて小鳥の渡來を見るにカシラダカ三々伍々盛に渡來中、尙他にセグロセキレイ二羽モズ一羽及トビ一羽を見る

【手紙通信】 昭和十二年十月十一日

富山縣廳林務課　邊見十郎

□ツグミの渡來。例年ならば十月二十五日頃よりツグミ現はるゝを例とすれども本年は十月七日頃より山にツグミを見る、シロハラ、マミチャジナイは九月下旬に現はれつゝあり、天候、風向によるものなれども本年は多少渡り增加の見込なり

□カモの渡來。射水郡金山村恩坊鴨場にては九月十五日よりコガモの渡りあり次いでカルガモ目下計七〇〇羽程群集しつゝあり例年の二倍の渡りを見る、タカの惡戯なければ獵果良かるべし、不思議なるはシラサギが多數同鴨場に渡りつゝある事にして二十年來の獵師の談によれば斯かる奇現象はなかりしと云ふ、因に本年鴨の誘致策として溜池の緣に稗を植付けたるに鴨之を食しつゝあり、來年度は溜池の周圍、水緣には全部播

種又は植付くる豫定なり

【手紙通信】 昭和十二年十月十八日
愛媛縣保安課 丸山 正倫

□コサギの飛來。昭和十二年十月十七日午前七時目擊、愛媛縣溫泉郡垣生村今出海岸に接せる稻田に五—六十羽のコサギ飛來、中空を飛翔しては稻田に下り之を反覆午後に至るも同樣の狀況々繼續す、住民の談に依れば未だ飛來せしことなかりしが本年初めての飛來なりと云ふ

□アヲサギの目擊。昭和十二年十月十七日午前七時頃、愛媛縣溫泉郡垣生村今出重信川裾の中洲に六羽居るを見る、正午頃迄休養せるも同時刻頃飛び立ち遠く南方に飛去せり

【手紙通信】 昭和十二年十月二十日
滋賀縣警察部 橋本多三郎

□ツバメの南下。ツバメの歸去期は滋賀縣南部方面にては例年十月初旬にして大抵十月八—九日頃より十日頃なりしに本年は十五—六日頃にも多數大津市の上空を飛翔し居り漸次減少しつゝありしが漸く十九日及本日(二十日)姿を沒せり

□鴨類の渡來。鴨類の渡來に關しては前回報告せしも其後續々渡來し琵琶湖にてはコガモ、トモエガモ相當多數に及べるもキンクロハジロは例年の此期に比し渡來惡し

□バンの渡來。本年度はバンの渡來良好なり

【調査通信】 昭和十二年十月二十七日
山林局鳥獸調査室 小柳和助

□ジヤウビタキの初見。十月二十六日、東京府下國分寺にて初めてジヤウビタキを見る

【調査通信】 昭和十二年十月二十七日
山林局鳥獸調査室 岸田久吉

□ジヤウビタキの初見。十月二十七日朝、東京市板橋區練馬にて見る

【手紙通信】 昭和十二年十月三十一日
淡路津名郡中田村 薄木市左衞門

□一般初渡來狀況。

鳥名	初渡來日	備考
ウヅラ	九月十四日	晴、西の風、二十五度、尾崎村遠田芋畑にて三羽發見との通知あり(同所獵友より)
ムクドリ	九月二十二日	雨、二十三度、午後五時三十分、約六十羽自宅上空を南西に通過
ハト	九月二十八日	午後、大町村畑にて一羽啼鳴せるを確聞、北東の風、晴、

ヒヨドリ	十月三日	二十三度 西の風、晴二十三度、午前七時頃自宅上空を二百羽程西南に向ひ群れ渡る
カモ	十月十三日	種名不明、約三十羽、午前六時自宅東方より西に向ひ高く渡る
ヤマシギ	十月十七日	午前十時自宅南方二丁の處にて一羽發見
ヒタキ	〃	午後二時、中田村薄木谷の里道にて一羽發見、北強風曇、十五度
ヨシドリ	十月十九日	午前十時、大町村畑の小池(禁獵區たりし頃の最多棲地)にて十五羽見る(同池の上より雄キジ一羽雌キジ二羽飛立つ)
ヤブツグミ	〃	午後二時同村(タマキ)にて二羽見る、北東の風、晴十五度

□其後の渡來狀況。右記初渡來以後の渡來は甚だ不良にて少しも增加せず、渡來は早き方にして平年よりも十日或は半月も早く平年よりも後れたるものなし、渡來數は珍らしく少し、(八月中旬より九月中旬に至る間に池河に水缺乏不足せる年は全般に渡來狀況極めて惡き樣に思はる)(入獵期十五日以後第一休日即ち日曜日、旗日等の翌日は必ず鴨の渡來あるを例とせるに今年はヲシドリの小數は豫想通り渡來せしもマガモ等は一切渡來なし)

□初獵狀況。十五日、私及外二名と朝六時出獵す、中田村役場近くの小池にてバン三羽發見し全部捕ふ、八時多賀村竹谷に行き蓮池にてチドリ二羽を捕獲(四羽の內)、十一時郡家町に近き大池に至る、池の水極めて少なく平常の二割程度なり、マガモ雄一羽を發見捕獲す、同池に近き田に居る人の話によれば、この鴨は十日前よりこの池に飛來し犬を放ちて追ひても、すぐ又戻り每日棲息中なりしものとのことなり(一羽切り)、同池にて同時 コモンシギ(チドリより少しく大にして嘴長し)を捕ふ、夫れより尾崎村を通り志筑町まで廻りしがハト一羽高く飛びしを見たるのみ、自分共の外銃聲一發も聞かず

十七日午後二時間、十九日五時間出獵、獵鳥を全く見ず、以後休獵す

□キジの棲息狀況。案外に多く十分調査せば四—五十羽位蕃殖し居る樣に思はる、然し乍ら昨今旺に密獵するものあるらしくキジの棲息所と確信する處に限り盛に銃聲を聞く

□イタチ、ウサギ。極めて多きも田の稻刈濟みし十二月ならでは捕獲不能なり

□一般狩獵期。
ウヅラ、十一月二十五日より、三原郡は十一月十五日より
ヤマシギ、十二月一日より
ハト、十二月二十日より

【手紙通信】 昭和十二年十一月十八日
滋賀縣保安課 橋本多三郎

□ツバメの飛翔を見る。昭和十二年十一月十六日午後一時頃(天候曇、時雨あり寒し)滋賀縣高島郡本庄村(獵區)地先琵琶湖々岸方面の湖上に一羽のツバメ飛翔し居るを目撃す、他にも居らざるやと附近を調査せるも一羽のみにして他に見かけず

【手紙通信】 昭和十二年十一月二十八日
兵庫縣淡路中田村 薄木市左衛門

□十一月の氣象。平年より少しく低溫にして十一度位、先づ順調なり

□一般渡來狀況。一般の渡來は極めて少なく前例なき不良なり、何れの種も平年の半數以下にして昨年の一、二割程度なり(昨年も平年より少き方)
バン見ず、カモは平年の一割位、ヲシドリは禁獵區の設定中は至る處に數千羽渡來し居りしも昨今は五年前と同じく發見すら困難なり、ウヅラは今まで一羽發見せし外全く見ず、ハトは今尙渡來中なるも未だ極めて少なくヒヨドリ、ツグミも全く少し、外に禁鳥、小鳥類も少なけれどヤマシギ、ムクドリのみは平年に近く至る處に發見さる、ウサギ少なし、タヌキ、テン、キツネは全く見ずキノシシ、シカは平年位にしてイタチは多し、土着の鳥類即ちメジロ、ウグヒス、ホホジロ、スズメ、カラス、カハセミ、クヒナ、セキレイ等も不思議に少し、キジも大いに減少せり

【手紙通信】 昭和十三年十二月二日
靜岡縣駿東郡須走村一九二 高田昂

□農林省巣箱調査表。

箱番號		記事
	1	營巣す、材料あり、掃除す
A	1	巣箱落ち上部破壞しをる、繕ひ架設す、巣材あり(營巣す)
	2	巣箱腐敗落つ、營巣シジフカラ卵五ケ破れをる
A	2	營巣材料ある、掃除す
	3	巣箱の穴大きくなる、營巣せず
A	3	營巣シジフカラ無精卵一ケあり、掃除す
	4	巣箱腐敗落ちをる
A	4	營巣ヒガラ無精卵一ケあり、掃除す
	5	營巣す、掃除す

A	5	巣箱落ち破壞す、營巣苔澤山あり
	6	營巣材料あり、掃除す巣内にヒミズ一頭ハタネズミ一頭死しをる
A	6	營巣材料あり、掃除す
	7	巣箱なし
A	7	營巣す、シジフカラ無精卵一ケあり、掃除す
	8	巣箱腐敗しをる、營巣材料少しあり
A	8	營巣材料あり、掃除す
	9	巣箱なし
A	9	營巣す、材料あり、掃除す
	10	巣箱腐敗落ちをる
A	10	營巣す、掃除す
	11	巣箱なし
A	11	營巣苔少しあり、掃除す
	12	巣箱落ちをる、營巣苔澤山あり
B	12	營巣す、掃除す
	13	巣箱腐敗蓋落ちをる、シジフカラ卵五ケ、いたみをる
B	13	營巣シジフカラ無精卵二ケあり、掃除す
	14	巣箱なし
B	14	營巣苔少しあり、掃除す
	15	巣箱なし
C	15	營巣す、掃除す
	16	巣箱腐敗しをる、營巣せず
C	16	營巣材料あり、掃除す
	17	巣箱腐る、穴大きくなりおる、營巣苔少しあり
C	17	營巣す、掃除す、巣箱内にイタチ♀一頭、ヒメネズミ一頭、ヒミズ一頭、計三頭死しをる
	18	營巣苔少しあり、掃除す
C	18	營巣せず
	19	巣箱腐敗しをる、營巣材料あり、掃除す
C	19	營巣す、掃除す
	20	營巣材料澤山あり、なれど巣箱の蓋落ちをる、架設す
C	20	營巣シジフカラ無精卵一ケあり、掃除す
	21	營巣材料澤山あり、掃除す
	22	巣箱なし
	23	巣箱落ちをる、架設す、營巣材料あり、掃除す
	24	巣箱なし
	25	營巣す、掃除す
	26	營巣す、掃除す
	27	營巣シジフカラ卵三ケ破れをる、掃除す
	28	營巣材料澤山あり、掃除す
	29	巣箱なし
	30	巣箱腐敗落ちをる、材料あり
大	3	巣箱腐り落ちをる
〃	4	巣箱腐敗し、材料苔少しあり
〃	5	巣箱なし

大	7	巣箱なし
〃	8	巣箱腐敗す、營巣せず
〃	11	巣箱腐り蓋落ちをる、材料少しあり
〃	12	巣箱腐りをる、營巣せず
〃	13	巣箱なし
〃	14	巣箱なし
〃	15	巣箱腐敗す、營巣材料少しあり
〃	18	巣箱なし
〃	24	巣箱腐敗、材料なし
〃	29	巣箱腐りをる
〃	30	巣箱なし
〃	31	營巣す、掃除す
〃	32	營巣す、掃除す
〃	33	營巣す、掃除す
〃	34	營巣す、掃除す
〃	35	巣箱落ちをる、架設す、材料は澤山あり
〃	36	營巣、掃除す
〃	37	營巣シジフカラ無精卵二ケあり、掃除す
〃	38	營巣す、掃除す
〃	39	巣箱なし
〃	40	營巣す、掃除す
A	21	營巣す、掃除す
〃	22	營巣材料あり、掃除す
A	23	營巣シジフカラ無精卵一ケあり、掃除す
〃	24	營巣す、掃除す
〃	25	營巣苔少しあり、掃除す
〃	26	營巣せず
〃	27	營巣す、掃除す
〃	28	營巣す、掃除す
〃	29	營巣せず
〃	30	營巣す、掃除す
〃	31	營巣せず
〃	32	巣箱なし
〃	33	營巣す、掃除す
〃	34	營巣す、掃除す
〃	35	營巣す、掃除す
〃	36	營巣スズメの材料あり、掃除す
〃	37	營巣スズメの材料あり、掃除す
〃	39	營巣スズメの材料あり、掃除す
〃	40	營巣スズメの材料あり、掃除す
〃	41	營巣リスの巣材料あり、掃除す
〃	42	營巣せず
〃	43	營巣リスの巣材料あり、掃除す
〃	44	營巣苔澤山あり、掃除す
〃	45	營巣オホコノハヅク巣立す、フケ澤山あり

備考

一、巣箱調査の内、不思議なるはC一七號コンクリート製巣箱内にヒミズ一頭、ヒメネズミ一頭、イタチ♀一頭計三頭死去し居りし事なり、ヒミズは樹木に攀ぢ登る勇氣あるや又他の動物に運ばれしなるや、死後一週間位經過しをり、イタチ居りし故イタチの運びしものと思ひしに、イタチは頭毛血に染まり、剝製して調べしに頭骨の上部約四分位破壞され居り、鷹類に頭骨を嘴にて損ぜられ苦しまぎれに巣箱内に入り遂に死せるものと推察さる（死後五—六日位經過せしものなり）

一、巣箱Aの木製巣箱内にもハタネズミ及ヒミズ一頭宛計二頭死去し居りしもハタネズミ及ヒミズは樹木に攀ぢ登るを認めたる事なきが巣箱内に死し居りしは不思議なり、之等の獸を食すべき獸類は大なる體に付巣箱の小なる穴より出入は不可能と思はる

【手紙通信】 昭和十二年十二月五日

静岡縣駿東郡須走村一九二 高田昂

□昭和十二年度夏鳥渡來期去期調査表

鳥名	渡來月日	渡去月日
サンクワウテウ	五月十日	九月十二日
キビタキ	四月二十六日	十月二十九日
アカハラ	四月五日	十月二十日
マミジロ	五月八日	九月二十九日
コルリ	四月二十一日	八月二十一日
サメビタキ	七月三日見ル	十月十日
オホヨシキリ	四月二十一日	八月二十九日
ヤブサメ	四月十九日	九月八日
センダイムシクヒ	四月十三日	九月十日
イハツバメ	七月三日見ル	十月四日
コサメビタキ	四月二十日	八月二十日
オホルリ	四月二十三日	九月十二日
マミチャジナイ	五月八日	十月十日
クロツグミ	四月八日	十月二十四日
ノビタキ	四月二十五日	八月二十五日
エゾビタキ	七月三日見ル	十月十日
コヨシキリ	四月十日	九月二日
メボソ	五月九日	九月二十七日
ツバメ	四月十二日	九月十二日
サンセウクヒ	四月十八日	九月三日
アカモズ	四月十一日	八月三十日
ノジコ	四月二十九日	八月二十日

□昭和十二年度冬鳥渡來期去期調査表

鳥名	渡去月日	渡來月日
ベニマシコ	三月二十日	十月三十日
アトリ	三月二十日	十月二十一日
クロジ	四月七日	十月十九日
ミヤマホホジロ	四月三日	十月二十八日
シロハラ	三月二十九日	十月二十六日
ハギマシコ	三月二十二日	一月四日見ル
マヒワ	四月五日	十月十一日
カシラダカ	四月七日	十月二十五日
タヒバリ	四月三日	十月二十日
ツグミ	四月十九日	十月二十一日
ヤマシギ	三月十六日	十月十七日
ホトトギス	五月二十日	八月十五日
ジフイチ	五月三日	七月二十九日
ホホアカ	五月六日	九月十日
ヲナガ	五月三十一日見ル	九月十日
イハヒバリ	七月一日見ル	十月十五日
アヲバト	六月三日鳴聲ヲ聞ク	
ミゾゴキ	四月十四日見ル	十月十一日見ル
コムクドリ	四月七日	九月二日
オホヂシギ	四月十八日	十月十日
クワクコウ	五月十三日	八月十日
ツツドリ	四月十九日	八月三日
ヨタカ	五月十日	十一月七日
アマツバメ	七月三日見ル	九月十九日
ビンズイ	四月二十日	十月三十日
ハリヲアマツバメ	七月三日見ル	九月十九日
アヲバヅク	三月三十日鳴聲ヲ聞ク	

備考

一、ハリヲアマツバメは昨年秋季以來アマツバメと交リ渡去するを發見せし故富士山に於て蕃殖するものと考へ、本年は七月三日調査せしに富士山寶永山の斷崖に營巢蕃殖し居るを確認す

一、アヲバトは當地方に於ては年中棲息し居るを見る、蕃殖期には各自鳴き出す故特に多數を認めらる

一、アヲバヅクは當村地方にて年中棲息し居るを見る

一、ミゾゴキは本年四月十日、十月十一日に見る、昨年山中

湖畔にて本種の蕃殖する事を確認し本年は七月七日當村の樵夫巢立せし雛一羽捕へ來りしを見たれば當村地方にも蕃殖する事確實なり

一、エゾビタキ及サメビタキは毎年渡去前に富士山より當村附近に下り二―三週間位棲息し居り其れより渡去す、本年は富士山より下りしを九月十九日より見る

【手紙通信】 昭和十二年十二月二十八日

兵庫縣淡路中田村　薄木市左衛門

□十二月の氣象。平年と大差なけれど降雨稍々少き方にて山野共少しく旱き過ぎるかと思はる、氣溫は十度内外にて平年と變りなし

□鳥類棲息狀況。全般に種類、個數共に極めて少なく例年に比すべくもなし、十月末より十一月にはヤマシギに限り可なり多く平年位渡來中なりしも、今月に入り降雨少なく山野の旱くにつれグン〳〵移動し目下極めて減少せり、ウヅラは全く少なく一里に一羽位の割合に見られるのみにして今日まで三羽發見内二羽を捕へたるのみ、ツグミ、ヒヨドリは見ず、ハトは渡來全く少なく目下尙少數づゝ渡來中なれども昨年の十分の一程度にして今迄捕へしもの十八羽に過ぎず、かゝる例は嘗て見ざる處なり、カモも極めて少なし、キジは四―五十羽位も居りしが目下は半減せり、コジュケイは少しも啼聲を聞かざる故其棲息狀況不明なり、其他、カラス、スズメに至るまで極めて少なし

□獸類棲息狀況。ノウサギは不思議に少なく未だ二頭より獲り得ず、イタチは何處にも相當に棲息せり

鳥獸報告集 (第十三卷 第廿五號 第廿六號)

索引

A

安部幸六……19, 23.
合鴨……產卵 21.
アカエリヒレアシシギ……渡來 32, 41, 42.
アカゲラ……目擊 39; 鳴聲 42.
アカハラ……渡來狀況 25; 渡來 30, 57; 渡去 57.
アカモズ……渡來 57; 渡去 57.
アマサギ……蕃殖 36; 目擊 13.
アマツバメ……目擊 11; 棲息狀況 2; 鳴聲 42; 渡來 24, 58; 渡去 58.
アヲアシシギ……目擊 47; 見閒 9.
アヲバト……棲息狀況 29, 58; 鳴聲 42; 渡來 58.
アヲバヅク……棲息 58; 鳴聲 23, 48; 渡來 58.
アヲガモ(マガモの方言)…通過 15.
アヲゲラ……目擊 32; 見閒 48; 鳴聲 31, 42.
アヲサギ……蕃殖 36, 37; 目擊 50, 52; 棲息狀態 5, 37, 40, 42, 49; 被害 37, 40.
アヲジ……見閒 13; 初鳴 22; 鳴聲 45; 渡來 21.
淺川武……22, 30.
アトリ……目擊 31; 見閒 14; 大群 15, 19; 渡來 58; 渡去 22, 58; 體重 18; 方言 19.
アヂサシ……目擊 1, 48; 棲息狀況 4, 8.
安曇愈四郎……19, 38.

B

バン……見閒 9, 48; 棲息狀況 29, 33, 37, 51, 54; 渡來 52; 捕獲 53.
ベニマシコ……去期 22; 渡來 58; 渡去 58.
ビンズイ……棲息狀況 2; 渡來 30, 58; 渡去 58.
ブツポウソウ……繁殖 41; 棲息狀況 37, 38; 鳴聲 34, 38, 41, 42; 渡來 39; 渡去 39.

D

ダイサギ……飛來 27, 29, 33.
ダイシヤクシギ……目擊 11.

ダイゼン……目撃 11, 47.
ドバト……棲息狀況 1.

E

エナガ……目撃 21, 31; 見聞 11, 47; 鳴聲 42.
榎本佳樹……4, 42.
エチゴウサギ……換毛 3; 眼球 15; 捕獲 22, 49.
エゾビタキ……渡來 57; 渡去 57, 59.

G

ガン……棲息狀況 3; 渡リ 49, 50, 51; 渡來 3.
ガス鳥(アトリの方言)……19.
ゴキサギ……蕃殖 36, 37; 見聞 10; 棲息狀況 1, 33, 37, 39, 40; 被害 37; 體重 15.
ゴジフカラ……鳴聲 50.

H

ハギマシコ……目撃 19; 渡來 58; 去期 22, 58.
ハイイロウミツバメ……雛 3.
ハイタカ……目撃 13.
ハクセキレイ……見聞 12, 43.
ハマシギ……目撃 9; 渡來 47.
ハリヲアマツバメ……渡來 58; 渡去 58; 蕃殖 58.
春シギ(ヤマシギの方言)…渡來 21, 28.
ハシビロガモ……動靜 44; 渡來 13.
ハシボソガラス……見聞 4, 11, 42.
ハシブトガラス……目撃 11, 44; 棲息狀況 2.
橋本多三郎……1, 3, 14, 32, 37, 39, 41, 49, 50, 52, 54.
ハタネズミ……巣箱內死體 55, 57.
ハト……目撃 32, 53; 棲息狀況 4, 28, 33; 渡來 59; 渡來狀況 52, 54; 渡去 15; 獵期 54.
ハヤブサ……目撃 39.
林　芳江……32.
邊見十郎……14, 23, 50, 51.
ヒバリ……目撃 31, 32; 棲息狀況 33, 43; 動靜 5; 鳴聲 14, 16, 22; 初鳴 20; 初渡來 20.
ヒドリガモ……渡來 13, 44; 體重 18.
ヒガラ……營巢 54; 巣立 34; 見聞 13, 31, 48; 棲息狀況 41; 鳴聲 42.
ヒクヒナ……棲息狀況 29, 33.
ヒメネズミ……巣箱內死體 55, 57.
ヒミズ……巣箱內死體 55, 57.
平間龜五郎……20, 23, 30, 31, 32, 35, 37.
ヒタキ……目撃 53.

ヒワ……棲息狀況 29, 33; 渡來 21.
ヒヨドリ……目撃 31, 39; 見聞 11, 31, 44, 50; 棲息狀況 4, 29, 33, 37, 50, 50; 渡來狀況 53, 54; 渡去 25; 食性 25; 體重 16, 17.
ホホアカ……目撃 32; 渡來 34, 58; 渡去 58.
ホウロクシギ……目撃 10, 48.
ホシガラス……棲息狀況 2.
ホトトギス……鳴聲 40, 42, 48; 初鳴 32, 34; 渡來 32, 34, 58; 渡去 58.
ホホジロ……目撃 31, 32, 50; 見聞 11, 44; 棲息狀況 33, 54; 鳴聲 32, 42.
フクロフ……巣立 34; 目撃 46; 鳴聲 19. 27.

I

イカル……鳴聲 42.
イカルチドリ……目撃 31.
池田重健……19, 50, 51.
キノシシ……棲息狀況 4, 28, 54.
イヌヒバリ……渡來 21.
イソヒヨドリ……營巢 35; 卵 35; 孵化 35; 巣立 35.
イソシギ……見聞 45; 動靜 8.
イタチ……巣箱內死體 55, 57; 棲息狀況 4, 21, 29, 33, 37, 53, 54, 59; 餌 46.
イハバト……棲息狀況 29.
イハヒバリ……渡來 58; 渡去 58.
岩崎卓爾……3, 14, 20.
イハツバメ……目撃 50; 鳴聲 42; 渡來 24, 57; 越冬 24; 渡去 57.

K

カイツブリ……蕃殖狀況 30; 棲息狀況 33, 37, 42; 動靜 6.
カケス……目撃 32, 39; 見聞 31, 48; 棲息狀況 23.
カモ……目撃 31; 棲息狀況 2, 14, 29, 59; 渡來 4, 51, 52; 渡來狀況 26, 53, 54; 渡去 23.
カモメ……目撃 45.
カモシカ……棲息狀況 3, 28.
金井正人……4.
唐澤治郎……16, 20, 21, 49.
カラス……目撃 31, 32, 39; 棲息狀況 1, 4, 21, 33, 50, 54, 59; 被害50.
カルガモ……目撃 31; 棲息狀況 26; 動靜 5, 43; 渡來 51; 體重 15, 18.

カササギ……營巢 20.
カシラダカ……目擊 13；鳴聲 45；渡來 51, 58；去期 30, 58.
カハガラス……巢立 35；目擊 22；見聞 48.
川村多實二……41.
カハセミ……目擊 9, 21；棲息狀況 33, 37, 43, 54.
ケリ……棲息狀況 50.
キアシシギ……渡來 7, 46；奇習 7.
キビタキ……見聞 48；鳴聲 42；渡來 30, 57；渡去 57.
キンクロハジロ……目擊 13, 43；棲息狀況 14；渡來 52.
キセキレイ……巢立 34；見聞 11, 45；棲息狀況 2；鳴聲 31.
岸田久吉……52.
北村榮次……14, 20, 22, 30.
キツネ……蕃殖 28；棲息狀況 3, 49, 54.
キジ……產卵 14；鏢 37, 40；食性 20, 21；目擊 53；棲息狀況 2, 4, 15, 22, 28, 29, 32, 33, 49, 53, 54；鳴聲 21；初鳴 22；體重 14, 17.
キジバト……目擊 44；棲息狀況 13；體重 17, 18.
コアヂサシ……動靜 6, 47.
小林虎雄……23.
コガモ……目擊 44；棲息狀況 23；渡來 32, 49, 50, 51, 52；渡去 23, 30, 32；體重 14, 18.
コガラ……巢立 35.
コゲラ……目擊 39；見聞 13, 47；鳴聲 31, 42.
コカハラヒワ……巢立 34；目擊 31；見聞 10, 44；體重 17, 18.
コマドリ……棲息狀況 21, 29.
コモモジロ……目擊 10, 45.
コモンシギ……捕獲 53.
コムクドリ……目擊 10；渡來 30, 58；渡去 58.
コノハヅク……棲息狀況 29.
コヲバシギ……渡來 13.
コルリ……渡來 30, 57；渡去 57.
コサギ……棲息狀況 39, 40, 42；動靜 9；飛來 52.
コサメビタキ……目擊 48；渡來 30, 57；渡去 57.
コシアカツバメ……蕃殖 24；目擊 7, 41, 47；棲息狀況 33；渡來 24, 31.
コシジロアヂサシ……出現 9.
コチドリ……動靜 6, 46；害敵 46；體重 17.
小鳥類……棲息狀況 4.
小柳和助……52.
コヨシキリ……渡來57；渡去 57.

コジユケイ……棲息狀況 4, 21, 29, 33, 40, 59.
クヒナ……目擊 45；棲息狀況 29, 33, 37, 54.
クマ……棲息狀況 3.
クマゲラ……棲息狀況 2.
クマタカ……目擊 48.
クロサギ……目擊 50.
クロツグミ……鳴聲 31；渡來 30, 57；渡去 57.
クロジ……渡來 58；去期 30, 58.
クサシギ……目擊 12.
クワクコウ……鳴聲 31, 32；渡來 32, 34, 58；渡去 58.
キヤウジョシギ……渡來 10,46.

M

マガモ……蕃殖 36；目擊 12, 44；棲息狀況 4, 26；渡去 23, 29；渡來狀況 53；捕獲 53；體重 15, 16, 17, 18；方言 15.
マヒワ……目擊 39；渡來 58；去期 30, 58.
眞壁雅一……41.
マミチヤジナイ……渡リ 3；渡來 34, 51, 57；渡來狀況 25；渡去 57.
マミジロ……渡來 57；渡去 57.
丸山正倫……52.
松田尙鐵……32, 35, 36, 37.
松山資郎……31.
マワリガラス……棲息狀況 21；大群 15.
メボソ……渡來 34, 57；渡去 57.
メダイチドリ……目擊 11, 47.
メジロ……目擊 21；見聞 46；棲息狀況 33, 54；鳴聲 16.
ミコアイサ……出現 43.
ミサゴ……目擊 11, 42.
ミソサザイ……巢立 31；目擊 21；見聞 13；棲息狀況 29.
ミヤマホホジロ……渡來 58；去期 30, 58.
ミユビシギ……目擊 47.
ミゾゴキ……蕃殖 58, 59；渡來 30, 58；渡去 58.
モモンガ……捕獲 3.
モズ……營巢 16；生贄 26；目擊 31, 51；初見 22；見聞 43；棲息狀況 26；動靜 11.
ムクドリ……見聞 12, 45；棲息狀況 1；渡リ 51；渡來 27；渡來狀況 52, 54.
ムナグロ……目擊 47；渡來 10.

N

中村幸雄……20.
夏鴨……棲息狀況 23, 31.
ネズミ……被害 23.
ノビタキ……渡來 30, 57; 渡去 57.
ノゴマ……鳴聲 33.
ノスリ……目擊 13.
ノウサギ……棲息狀況 59; 眼球 15.
ノジコ……目擊 45; 渡來 30, 57; 渡去 57.
ニウナイスズメ……體重 17.

O

ヲバシギ……目擊 12, 害敵 8.
大籏勘太郎……41.
オホカハラヒワ……體重 17.
オホコノハヅク……巢立 56.
ヲナガ……渡來 58; 渡去 58.
ヲナガガモ……目擊 44.
オホルリ……巢 32; 雛 41; 見聞 47; 棲息狀況 41; 鳴聲 31, 42; 渡來 30, 57; 渡去 57; 食性 42.
ヲシドリ……目擊 13, 45; 棲息狀況 4, 15, 28, 29, 53; 渡來狀況 53, 54.
オホソリハシシギ……目擊 12, 48.
オホヨシキリ……見聞 5, 47; 初囀 31; 渡來 57; 渡去 57.
オホヂシギ……巢立 34; 渡來 58; 渡去 58.
オホジユリン……目擊 45.

R

レンジヤク……渡來 2.
リス……巢箱利用 56.
ルリ……棲息狀況 21.
ルリビタキ……鳴聲 46.

S

坂口總一郎……23.
サメビタキ……渡來 57; 渡去 57, 59.
サンクワウテウ……鳴聲 31, 41, 42; 初鳴 31, 32; 渡來 34, 57; 渡去 57.
サンセウクヒ……見聞 47; 鳴聲 31, 42; 渡來 30, 57; 渡去 57.
ササゴキ……動靜 7, 48; 飛來 31.
サシバ……目擊 47, 48.

セグロセキレイ……目擊 11, 31, 39, 51.
セキレイ……棲息狀況 33, 54.
セツカ……見聞 5, 45.
センダイムシクヒ……見聞 47; 鳴聲 31; 渡來 26, 30, 57; 渡去 57.
シギ……目擊 50; 棲息狀況 1.
シカ……棲息狀況 54.
シノリガモ……體重 15.
シラサギ……飛來 27, 30, 51.
シロハラ……渡來 51, 58; 渡來狀況 25; 去期 22, 58; 集團 46; 體重 17.
シロチドリ……動靜 45; 去來 6.
シジフカラ……營巢 36, 54, 55, 56; 巢立 34; 目擊 31; 見聞 13, 31, 46; 棲息狀況 41; 鳴聲 21, 31, 42, 50.
ソリハシシギ……目擊 47.
巢箱……35, 36, 41, 54, 55, 56, 57.
スズガモ……目擊 44.
薄木市左衞門……4, 15, 21, 28, 33, 36, 40, 51, 52, 54, 59.
スズメ……營巢 16, 56; 巢立 34; 目擊 31, 39; 棲息狀況 33, 54, 59; 體重 14, 16, 17, 18; 害敵 26.

T

タゲリ……目擊 13, 45.
タヒバリ……見聞 43; 渡來 58; 去期 30, 58.
タカ……51; 渡リ 25.
高田昂……19, 22, 30, 33, 54, 57.
谷垣義三……22, 49.
タヌキ……棲息狀況 3, 29, 49, 54.
タシギ……目擊 13.
テン……棲息狀況 29, 54.
チドリ……棲息狀況 1, 捕獲 53.
トビ……營巢 50; 食性 8; 目擊 31, 50, 51; 動靜 8, 42; 棲息狀況 1, 33, 42.
トモエガモ……目擊 12, 44; 渡來 52.
トウネン……目擊 48; 渡去 9.
トラツグミ……巢立 34; 目擊 15; 棲息狀況 21, 29; 出現 2; 初鳴 22; 渡來狀況 25.
ツバメ……目擊 23, 31, 39, 41, 54; 初見 20, 21, 22, 31; 終認 5; 棲息狀況 1, 23, 33, 40; 渡來 4, 14, 21, 22, 23, 24, 28, 30, 31, 46, 57; 渡去 49; 52, 57.
ツバメチドリ……出現 12.
ツグミ……目擊 31, 33; 棲息狀況 4, 28, 29, 59;

渡來 15, 51, 58; 渡來狀況 21, 25, 43, 54; 去期 30, 58; 體重 16.
ツルシギ……目擊 46; 見聞 10.
ツツドリ……目擊 32; 鳴聲 31, 32, 42; 渡來 30, 58; 渡去 58.
チウサギ……蕃殖 36; 目擊 40, 47; 棲息狀況 39; 動靜 10.
チウシヤクシギ……渡來 46; 渡去 9.
チウヂシギ……目擊 12.

U

ウ……目擊 4; 棲息狀況 37, 41.
ウグヒス……目擊 31, 32, 39; 見聞 13, 48; 棲息狀況 33, 54; 鳴聲 21, 31, 41, 42; 初音 16, 19, 20, 22.
ウミアイサ……43.
ウミガラス……目擊 4.
ウミネコ……目擊 10, 23, 43; 行動 2.
ウサギ……棲息狀況 21, 29, 33, 37, 49, 53, 54; 被害 49.
ウヅラ……初見 51; 棲息狀況 29, 54, 59; 渡來 27, 46; 渡來狀況 15, 21, 52, 54; 體重 16, 1[illegible]; 獵期 54.

W

和田千藏……1.

Y

ヤブサメ……鳴聲 31, 48; 渡來 30, 57; 渡去 57.
ヤブツグミ……目擊 33; 棲息狀況 28, 29; 渡來狀況 21, 53.
ヤマバト……棲息狀況 29.
ヤマドリ……蕃殖 33; 巢立 34; 棲息狀況 2, 4, 15, 21, 28, 29, 32, 49.
ヤマガラ……巢立 35; 見聞 13, 31, 45; 棲息狀況 41; 鳴聲 21, 42.
ヤマシギ……目擊 31, 33; 棲息狀況 4, 29; 渡來 22, 27, 28, 58, 59; 渡來狀況 15, 53, 54; 渡去 58; 方言 28; 體重 16, 17; 獵期 54.
ヤマスズメ……渡來 21.
山崎正武……31, 42.
ヨシゴヰ……目擊 8.
ヨシキリ……渡來 30; 初鳴 31.
ヨタカ……棲息狀況 2; 鳴聲 31; 渡來 58; 渡去 58.

ユリカモメ……目擊 13; 棲息狀況 43.

Z

ヅグロカモメ……出現 47.
ジヤウビタキ……目擊14; 初見 52.
丈下重義……15.
ジフイチ……渡來 34, 58; 渡去 58.

鳥獸報告集

第十四卷 自昭和十三年一月
第廿七廿八號 至昭和十三年十二月

鳥獸報告集

第十四卷　第廿七廿八號（自昭和十三年一月至昭和十三年十二月）

【手紙通信】　昭和十三年一月十八日
滋賀縣保安課　橋本多三郎

□ツバメの飛翔を見る。昭和十三年一月十七日午後二時四十分頃（天候快晴東風寒し）大津市石山南郷町地先瀬田川筋水面流に向ひツバメ一羽飛翔し居るを目撃せり

【手紙通信】　昭和十三年一月三十一日
淡路津名郡中田村　薄木市左衛門

□一月の氣象。平年より晴天多く雨量少なく溫度高低の差大にして二度より七、八度の間を上下し、强烈風の荒天多し

□アヲバトを見る。一月二十五日午前十一時、尾崎村連山の裾の小山にてアヲバト二羽を確認す、久しく見ざりし故珍らしく思へり

□ミソサザイ、トラツグミを見る。ミソサザイ、トラツグミの二種も近年中々見得ざりしが今獵期の初より何處へ行きても毎日必ず一羽か二羽は農家近くの小山に發見さる

□テンの捕獲。テンは柏原連山の野猪棲息地附近の深き谷間にて間々捕獲さるゝものゝ如く、筆者も同地にて捕獲されし三頭を見たり

□ノウサギ。ノウサギは極めて少なく捕獲困難なり

【葉書通信】　昭和十三年二月四日
福岡縣廳　安部幸六

□ヒバリの初鳴。昭和十三年二月一日、晴天、福岡市郊外井尻にてヒバリの囀りを聽きたりとて、同地松田榮五郎氏より報告あり

【手紙通信】　昭和十三年二月十日
山梨縣廳　中村幸雄

□ヤマセミの目撃。昭和十三年一月一日、御岳昇仙峽下流（長潭橋下一粁）中巨摩郡吉澤村「淨寛轉び」の崖下荒川緣をケケケケケケケケーと鳴き乍ら、逐ひつ逐はれつ居る二羽のヤマセミを目撃す

□カハガラスの囀り。山梨縣地方棲息鳥類を通じ最も蕃殖期の早きものはカハガラスにして從て其の鳴期他鳥

に比し著しく早く嚴冬中鳴期に入るを常とし本年も一月一日現在既に鳴期に入り溪流の各所に微妙の囀りを聽く(御岳昇仙峽)

□ミソサザイ多し。山梨縣地方は例年に比し冬季に於けるミソサザイの出現數多し

□ツグミ多し。近來ツグミの激減は全國的の現象にして山梨縣地方も年々減少の兆を示し山野寂寞たりしが今冬は其の情勢を回復し渡來數可なり多し

□シロハラ少し。前項ツグミの渡來多きに比しシロハラの渡來越冬數は茲二、三年前に比し極めて尠し

□奥御嶽の鳥。昭和十三年一月五日及同九日の兩日、御岳昇仙峽奥猫坂(一、一三八米)及黑富士(一、五九六米)附近に於て目擊せる鳥類次の如し

キジ、ヤマドリ、ノスリ、ハヤブサ、カヤクグリ、ジヤウビタキ、ルリビタキ、カハガラス、ミソサザイ、ハシボソガラス、カケス、ヤマガラ、シジフカラ、エナガ、コガラ、ヒガラ、コゲラ、アカゲラ、アヲゲラ、ホホジロ、カシラダカ、マヒワ、イスカ、ヒヨドリ、ツグミ、シロハラ、ベニマシコ、ウソ以上二十九種

□白ヤマドリの捕獲。昭和十三年一月十三日、國道八號線御坂峠、御坂隧道附近に於て河口村中村正氏に依り白ヤマドリを捕獲せられたり、該ヤマドリは二、三年前より棲息し居りしこと筆者の許に屢々報告を受け居りしものなり、因に該鳥の標本は山梨縣南都留郡河口村中村喜代鷹氏方に所藏せられあり

□リスの減少。山梨縣地方にては近年リス頓に減少せり年々一月下旬二月上旬の嚴冬季には恰も交尾期なるリスの牝牡相集り(主として杉林、松林等に)時には五頭十頭の多數が牝の爭奪に焦燥せる猛烈なる牡の鬪爭を目擊せしも茲二、三年、年と共に著しく其の數を減じたり

□冬の乾德山の鳥。昭和十三年一月二十二日、最近東京より日歸りコースとして知られつゝある乾德山(鹽山驛北方十六粁)に登山し觀察せる鳥類は次の如し

鳥名	摘要
カハガラス	山麓德和川にて數羽を目擊
ミソサザイ	德和部落及山腹にて四、五羽を目擊
ハシボソガラス	頂上に近き扇平にて二羽を見る
ハシブトガラス	德和部落にて三、四羽を目擊
ホシガラス	頂上の下△一、七六四・一米附近にて枯木の尖端に止まりキヤー〳〵と鳴き居るもの三羽、飛び行くもの二羽を目擊す
カケス	山腹にて四、五羽を見る

ホホジロ	山麓—山腹に數十羽を目擊す
カシラダカ	德和部落附近の森林中に數羽を見る
アトリ	山麓—頂上の中腹「駒止」附近の上空をキヨ〳〵〳〵〳〵ジーンと鳴き乍ら過る數羽を認む
マヒワ	山腹にて約二十羽の群を見る
イスカ	中腹「駒止」の上空を翔る二羽を目擊す
コカハラヒワ	德和部落にて欅の樹上に止まり居る約三十羽を見る
ヒガラ	頂上附近の針葉樹林に數羽を認む
ヤマガラ	麓—頂上一帶に亘りカラ類の群中に混ずる數羽を見たり
コガラ	中腹より頂上に亘り多數を見、頂上に近き森林中にては報告者の口笛に誘はれチー〳〵〳〵と幽邃の囀りをなしつつ集まり來れり
シジフカラ	山體一帶に可なりの數を見たり
エナガ	麓より頂上に至る間二、三十羽の三群を目擊す
キクイタダキ	山麓德和部落に近き松林にて約二十羽を認む
ハヤブサ	德和部落にてホホジロを摑み去りし一羽を目擊
クマタカ	頂上直下の上空を翔る一羽を見る
ノスリ	頂上の下五〇〇米附近の上空に一羽を見たり
ヒヨドリ	德和部落の竹藪に數羽を見る
ウソ	頂上近くにて一羽、中腹にて二羽、ヒーツ〳〵と鳴きつゝある計三羽を目擊す
ルリビタキ	登山中二、三羽を認む
ジヤウビタキ	中腹以下に四、五羽を見る
コゲラ	カラ類に混じて求餌しつゝある二、三羽を目擊
オホアカゲラ	頂上下五〇米にて△一羽を認めたるを以て採集せんとせしも空しく逸走せしむ、此日他に一羽を見る
ツグミ	中腹以下に數羽を見る
カヤクグリ	山腹の叢林帶に一羽宛のもの四、五羽を目擊す
ベニマシコ	山麓小屋澤にて△〇〇米二羽を見る
キセキレイ	德和川にて二羽、德和部落にて一羽を見たり
ヤマドリ	小屋澤にて△〇〇米二羽を見、登山道一帶に糞及跟跡を見る
キジバト	德和部落の竹藪にて三羽を見たるも一般に尠し

□イヌワシ、ノウサギを捕食の跡を見る。昭和十三年一月二十二日、乾德山上に近き積雪上にノウギサの毛多量に散亂附近は鮮血に染まりありしを以て、精査せし處附近にイヌワシの羽毛一枚脫落し且つ鷹類啄餌の跡に必然的に見らるゝ排泄物ありてイヌワシの所爲なること明瞭となれり

□イスカの群を見る。昭和十三年一月二十五日、御岳昇仙峽入口長潭橋西方高地五〇〇米の松林にて松の梢頭より飛び立てる約二十羽のイスカを見る

□嚴冬にキクイタダキの囀りを聽く。昭和十三年一月二十五日朝、中巨摩郡吉澤村寺平ジガクボの松林中にヒガラに酷似せる小聲の囀りを耳にしたるを以て近づきて觀察せしにキクイタダキなりき、該鳥は春季四月上中旬頃低地より蕃殖地たる高山に移動直前には可憐の囀りを耳にすることは稀ならざるも嚴寒中この囀りを聽きたるは初めての經驗なり

□ベニマシコの群を目擊す。ベニマシコは移動の途中は別とし山梨縣地方に越冬中は〇〇〇相携へて棲息し居り其の數三羽以上を同一ケ所に見ることは筆者の經驗として二、三回に止まる、然るに昭和十三年一月三十日、御岳昇仙峽奥「上川窪」地内に於て七、八羽の群を目擊せり、猛烈なる降雪ありしためか之れ近頃の珍現象なり

附記、山梨縣に渡來越冬するマシコはオホマシコ、ハギマシコ、ベニマシコの三種にして右の内、比較的集團性に富むはハギマシコにして十羽十五羽の群を見ることあるもオホマシコに於ては三、四羽を普通とし七、八羽以上を目擊せることなくベニマシコは前述の如く集團生活を好まざる點に於ては雀科鳥類隨一なるものなり

□マヒワ、ヤマハンノキの實を啄む。昭和十三年一月三十日、前項の場所にてヤマハンノキに約五十羽のマヒワ來集し一心不亂にその實を啄食し居りしを認む、マヒワは該樹の實を好餌とし秋季彼等が渡來し翌春渡去期に至る越冬中唯一の餌糧たり

□降雪中路上に營まれたウヅラの塒を見る。昭和十三年一月三十一日朝、中巨摩郡吉澤村地内の道路上（歩道幅員三米）積雪十糎に椀形の雪解箇所あるを以て近づきて觀察せしに前夜降雪中ウヅラが一片の地物なきこの野天を塒とせし跡にして凹底には約五十個の糞堆積しあり、これにより一夜に斯る多量の排便をなすことを知れり、尚この嚴冬寒威凜烈の中に全く地區地物の利用をなさずして吹き曝しの箇所に塒を求むることは如何に害敵の襲擊に對し警戒し居るやを窺ふに足るべきものなり

【手紙通信】 昭和十三年二月十三日

新潟縣狩獵係　小林虎雄

□北支戰線にて目擊せし鳥。

（註） 本報告は出征中の小林氏が内田技師に出された書信の中から鳥獸に關する部分を摘錄したものである

（前略） 支那の小學讀本を獵渉したる處、雁は江南の

鳥にして春北國に渡るとあり、小燕子は南國より歸來、古巣に入らず、必ず泥土草木を運搬舊巣を補造して育雛す、とあり、面白く感じ申候、支那は標識放翔など思ひもよらず、狩獵など餘り關心無之模樣に候

九月下旬頃より河北省の中央を渡るメジロの群は大した數に有之萬里の長城を夜間渡る雁の群は啼聲を聞いて大群なるに驚入候、大原地方の空に群る鳥（小さい種類）やシラコバト、家鳩の多いのには一寸支那式の數字にて一群數萬（實際大群）、雀は日本のものと同樣、未だイギリス雀など此地方へは來らず候

鵬は毎戸設置しあり、風磬に鷄の羽を用ひ居り羽の塵拂は戸毎に有之候、支那料理に雷鳥の肉利用のもの無之模樣に候

猫は大部分雉猫に候、毛皮利用の點は感心いたし候、犬、猫、山羊、緬羊などを主とし狸も利用致し居り候（下略）

【手紙通信】 昭和十三年二月十五日

靜岡縣駿東郡須走村一九二　高田昂

□ウヅラを見る。昭和十二年十二月五日、當村（地名アイノマ）にて獵師捕獲せしを見る、其後も時々見る、本年は姿を見る事例年より多數なり

□ハギマシコを見る。昭和十二年十二月十二日、山梨縣南都留郡籠坂峠下にて四、五十羽の群を見る

□アヲバトを見る。昭和十二年十二月二十日、當村（地名セドコシ）にて獵師が一羽捕獲せしを見る、アヲバトの棲息に付きては前年より當村には年中棲息し居る事を通知し居れど參考の爲め報告す

□フクロフの產卵數。多きは四卵少なきは二卵普通は三卵なり

□アマツバメの產卵數。多きは四卵少なきは二卵普通三卵なり

【葉書通信】 昭和十三年二月二十二日

東京府下石神井風致地區係員詰所　平間龜五郎

□ヒバリの初鳴。二月二十一日

【手紙通信】 昭和十二年二月二十四日

兵庫縣淡路津名郡中田村　薄木市左衞門

□二月の氣象。平年より三度、昨年より五、六度低溫にして强風半晴の日多く甚だ不順なり（積雪一度もなし）

□一般狀況。相變らず平年より甚だしく少なきは確實にして、かゝる事は近年全くなし（各種一般に）

然し乍らアヲバト、トラツグミ、ミソサザイ、アヲジ、山スヾメ等は反對に十數年來なき程多く至る處極めて小さき山にても毎日何度も發見され强風の時ミソ

サザイは家の中にも度々飛込めり、カモ類は全く見ず
ウサギ、イタチも極めて減少せり
□ウグヒスの初音。二月二十一日午後三時、北西風五メートル晴、氣溫八度

【葉書通信】 昭和十三年三月十五日
福岡縣廳 安部幸六

□ウグヒスの初音。本年三月四日、福岡市浦谷の人家近くにて初めてウグヒスの啼くを聞く。其後毎日の如く囀るを耳にす、同日又モンシロテフ一羽飛翔するを目撃せり(此日朝雨、後晴)

【葉書通信】 昭和十三年三月十五日
福岡縣廳 安部幸六

□マナヅルの飛來。本年三月七日、福岡縣下宗像郡津屋崎町八丁間舊鹽田跡の水田に鶴の飛來ありとの電報に接したる故急行調査するに前記水田に四羽のマナヅルの拾餌遊渉するを目撃したるを以て六十間の近距離にまで接近し雙眼鏡を用ひ觀察するに二羽は特に大形にして二羽は比較的小形なりき、町民の報告によれば翌八日は飛び去れりと云ふ

【葉書通信】 昭和十三年三月十七日
福岡縣廳 安部幸六

□ツバメの渡來。昭和十三年三月九日、福岡縣下朝倉郡夜須村下高場にて二羽のツバメを見たりと同村小學校幸野千年氏より速報あり、福岡地方にては未だ目撃せず

【調査通信】 昭和十三年三月二十二日
山林局鳥獸調査室 菊池正三

□ツバメの渡來。本年三月三日、熊本市にて初めてツバメを見たりとの山崎千里氏の報告ありしが、同十一日には同市にて四羽を目撃せり
□コシアカツバメの初見。西村次郎氏より三月十四日、京都市内にてコシアカツバメを目撃せりとの報告あり
□ウグヒスの囀り。三月十日、神戸市諏訪山動物園にて野生のウグヒスの囀りを聞く

【調査通信】 昭和十三年三月二十八日
農林省鳥獸實驗場 小柳和助

□イハツバメの飛來。昭和十三年三月二十六日、八王子市追分町西田米治郎宅にイハツバメ二、三羽飛來せりとの報告あり

【手紙通信】 昭和十三年三月三十日
淡路津名郡中田村 薄木市左衞門

□三月の氣象。平年と大差なく極めて順調にて雨も少なからず、氣溫は十二度より十五、六度の高溫なり
□一般狀況。三月上旬より各種共北上の氣配あり、平年

よりも元々少なかりし故著るしく減少せり、北上の大集團は見ざるも日日漸減す、ヤマシギの群も渡來の模様なし、然れ共全般としては平年通りにて、各種共全部北上退去せしものもなく少き乍らも全種尙殘存す
□アヲバト、トラツグミ。相變らず多く毎日見ゆ
□カモ、ヲシドリ。少數なれど未だ殘れり
□バン。春のバンも少しづゝ見え始む、當地方にては、春のバンは最も不味なるため捕獲せず、春の獵鳥はハト、ヤマシギの二種のみなり
□キジ。相當捕獲されたらんも未だ所々に殘存す、雌は見ざるも十乃至二十羽位は棲息せるものと思はる
□コジュケイ。二、三ケ所で大聲にて啼き始めたり
□ツバメ。三月二十二日午後、本村學校附近にて初めて二羽目撃せり、北西の微風にて二十度の高溫なりき、平年より二、三日後れたり、其後、見る日と見ざる日とあり未だ極めて少し
□ノウサギ。極めて少し
□イタチ。獲り過ぎて著しく減少せしも、種獸のみは未だ十分に產す

【手紙通信】 昭和十三年三月三十一日
滋賀縣 橋本多三郎

□ツバメの渡來。昭和十三年三月二十七日午後一時半頃滋賀縣大津市南滋賀町(比叡山南端山麓)田圃の上空をツバメ一羽飛翔せるを目撃せり(當日曇天春寒)

【手紙通信】 昭和十三年四月 日
靜岡縣駿東郡須走村一九二 高田昂

□鳥類の初鳴、渡來、渡去月日。

鳥名	摘要
トラツグミ	二月二十七日より鳴き出す
ウグヒス	三月十七日より囀り始む
ヤマシギ	三月十九日、渡來す
キジ	三月二十二日より啼き出す
ハギマシコ	三月二十日、去る
アヲジ	三月二十四日、囀り初む
シロハラ	三月二十四日、去る
ベニマシコ	三月二十七日、去る
タヒバリ	三月二十七日、去る
アトリ	三月二十八日、去る
ツグミ	三月三十日、去る

【調査通信】 昭和十三年四月四日
山林局鳥獸調査室 菊地正三

□ツバメの初認。昭和十三年四月三日午後零時半頃、東京市澁谷にてツバメ一羽飛翔せるを目撃せり、尙當日

は曇天にて強風吹き荒び黄塵萬丈たり

【葉書通信】 昭和十三年四月四日
東京市澁谷區笹塚町　籾山德太郎

（註） 本報告は籾山德太郎氏が熊谷三郎氏よりの報告を葛技手宛に再報せられたるものなり

□ツバメの初見。三月三十一日午後三時五十五分東京市蒲田區御園町にて雨中一羽のツバメの初姿を見、若柳地方の平均渡來日より十日餘早く渡來せるを知れり
（熊谷三郎氏所見）

【調査通信】 昭和十三年四月十一日
山林局鳥獸調査室

□ツバメの目擊。

羽數	月日	時間	場所	目擊者
二	四月六日	午後一時頃	東京市澁谷區川西ヶ原	清棲幸保
一	四月八日	午前八時半	〃	葛精一
一	〃	午前八時	東京市王子區赤羽驛前	今泉吉典
二―三	四月十日	正午頃	東京市澁谷	江澤通朝

【調査通信】 昭和十三年四月十一日
東京府南多摩郡多摩村
農林省鳥獸實驗場　小柳和助

□ツバメ渡來。四月八日、當場の上空を四羽飛翔す

□モズの巣立。四月七日、場内にてモズ五羽巣立す

【手紙通信】 昭和十三年四月十九日
兵庫縣城崎郡竹野村　谷垣義三

□ツバメの渡來。毎年三月末（二十二、三日頃より四月一、二日迄に）渡來する筈なりし爲、其頃注意せしも發見せず、四月二日自宅附近にて一羽目擊せりと家内報告、四月四日數羽を目擊せり、例年に比して約一週間遲れ居れり
四月中旬には相當の員數を發見する可きに本年は僅に飛翔するを目擊するのみ、渡來不良なりしものならん

【葉書通信】 昭和十三年四月十九日
東京市澁谷區笹塚町　籾山德太郎

（註） 本報告は籾山德太郎氏が熊谷三郎氏よりの報告を葛技手宛に再報せられたるものなり

□ツバメの初見。四月十三日午前六時二十五分（晴）宮城縣若柳町新町自宅附近にてツバメを初めて見る、各地共櫻の開花前十日位にツバメの渡來を見るものの如し

□アマツバメの初見。四月十七日午後二時、宮城縣刈田郡白石町附近にアマツバメを二羽見る、そのあたり櫻滿開、それより以南多少散りかゝりたる處あり

【調査通信】 昭和十三年四月二十日

山林局鳥獸調査室　葛　精一

□ツバメを見る。四月十四日、宮城縣東北本線利府、松島驛間にてツバメ七羽を見る

【調査通信】 昭和十三年四月二十二日
山林局鳥獸調査室　清棲幸保

□アマツバメの初見。四月十七日、東京市目黒にて

□マヒワの群を見る。四月二十一日、東京市目黒にて

□ヒレンジャクを見る。四月二十一日、東京市目黒にて

【調査通信】 昭和十三年五月四日
山林局鳥獸調査室　清棲幸保
丘　直通

□自由學園で目擊した鳥。五月三日、（曇時々雨）東京府下田無南澤自由學園で目擊した鳥は次の通りである、ヲナガ、ハシブトガラス、ヒバリ、シジフカラ、ホホジロ、ムクドリ、サンセウクヒ、コカハラヒワ、スズメ、ツバメ、ササゴキ、センダイムシクヒ、クワクコウ

【手紙通信】 昭和十三年五月十日
福岡縣廳保安課　安部幸六

□ダイサギの捕獲。四月七日（木）晴天、本日福岡縣宗像郡東郷警察署より狩獵違反にて檢擧したる白鷺一羽送り來たるを以て念のため測定したるにダイサギなりき、捕獲場所は同郡津屋崎町大字梅津海岸なり

□アヲサギを見る。四月十四日（木）曇天、宗像郡津屋崎町大字渡の入江にアヲサギ八羽を見る

□コジュケイの蕃殖。四月十五日（金）晴天、本日晴天なるも風强し、宗像郡大島村（元獵區たりし處）に於けるコジュケイの蕃殖狀況を調査するに島内御嶽の中腹より以下俗に云ふ峠附近にて只一羽のコジュケイの鳴くを耳にせるのみにて一向姿を見ず、案内者水上九内氏の言に今日は暴風の爲め全く鳴かざるも平素晴天の日は全島各所に此鳥の聲を聞き又よく目擊す（よく樹枝に止りたるを）恐らく二、三千羽蕃殖するならん
因に元本村小學校長たりし越智玠夫氏宅には一羽のコジュケイを飼養せりとのことに同家に行き調査するに約一ケ月前郵便脚夫が歸宅の際一羽のコジュケイを素手にて捕へたるを本人より讓り受けミミズ（雞の餌（飼料）にて飼育せりと
尙老人の言に依れば大島には以前相當のキジ棲息蕃殖せるも此二、三年非常に減少し本年の如きは全然其姿を見ず、之は全くコジュケイ（地方にてチョトコイ）の蕃殖の影響と思ふ旨强く主張せり
本件につき案ずるにキジの減少は事實にして此原因に就ては屢々調査する處なり、或はイタチ、蛇の害なら

んとも一時思料せしに近年イタチ、蛇は減じたるを以て更に種々調査したるに本島には牛馬の牧場あり春夏の候は數十頭の牛放養しある爲め野外草原に非常にダニ（蜘蛛類）多く、捕獲されたるノウサギ、稀に捕獲されたるキジなどには無數のダニ寄生せり、又吾々にても一時山野に腰を卸して休息せんか數疋のダニは直に衣類に這ひ上り盛に刺すを實驗せり、キジの減少は此被害にはあらざるかと推測せり

然らばコジュケイは此害無きやとの質問あり之に對しては其答に窮したる譯なるも或はコジュケイは蕃殖力強く其數に於て此害を割合に免れたるにはあらざるやとも考へらる

□コシヤクシギ來る。四月十五日（金）晴、本日午後大島村津和瀬にてコシヤクシギの波際に來るを發見同行の役場員（狩獵者）水上九内氏は田圃に追ひ行き捕獲す、本縣にてコシヤクシギの捕獲は珍らしき例なり、同日午後一時頃此山内にてアマガヘルの盛に鳴くを本年初めて聞く

□ヒメウを見る。四月十六日（土）晴天、宗像郡大島村より對岸神港町に渡る海上ヒメウの飛翔するを數回目擊す、總數二、三十羽ならん、此地方岩礁には冬季ウミウ、カハウ、共に多き地方なるも今頃は只此ヒメウのみなり、此地方の人は此種を「キレケクサゲ」と稱せり、又神港より田島村に通ずる山中にて本年初めてハルゼミの鳴くを聞く、此地方の人々は「マツムシ」が鳴き始めたと云へり

□アヲバヅクを聞く。五月五日（木）曇天、本日午後八時南藥院、城南電車通附近にて本年初めてアヲバヅクの鳴くを聞く、昨年は十日過ぎにて本年は早き感あり

□ジフイチの初鳴。五月五日（木）曇天、本日田川郡英彦山神社社務所蒲池治丸氏より次の如き通信あり

「昨五月五日、籠水（コモリミヅ）附近にて長平鳥（ジフイチ）が鳴きました、ホトトギス、クワクコウ、ツツドリは未だ鳴きません」

□キウシウフクロフを聞く。五月六日（金）雨、本日午後十一時頃福岡市十軒屋の山中（自宅附近）にてキウシウフクロフの鳴くを耳にせり、當地方は兩三日來氣溫例年より十一度高く夜分など全く夏の感あり、尙松田榮五郎氏の談に依れば縣下嘉穗郡千手村大字千手にて前月二十五日の夜キウシウフクロフの鳴くを聞けりとの報告あり

□ツグミ、ヒヨドリ急に姿を匿す。五月七日（土）晴天、四月中旬頃より自宅（福岡市十軒屋）附近、森、蜜柑畑、原野、神社境内等にヒヨドリ、ツグミ等群集し朝夕騷

がしく鳴きたるが一兩日前より殆ど其姿を見ず全く渡り去りたるものと思はる

【手紙通信】昭和十三年五月十日

靜岡縣駿東郡須走村一九二　高田昂

□鳥類の渡來月日。

鳥名	渡來月日
アカハラ	四月二日
クロツグミ	四月七日
コムクドリ	四月九日
ツバメ	四月九日
ヤブサメ	四月十日
アマツバメ	四月十五日
センダイムシクヒ	四月十七日
サンセウクヒ	四月十八日
ツツドリ	四月十九日
コサメビタキ	四月二十日
キビタキ	四月二十日
ノビタキ	四月二十日
コルリ	四月二十四日
ビンズイ	四月二十四日
オホルリ	四月二十七日
ノジコ	四月二十八日
ホホアカ	四月三十日

□鳥類の去期。

鳥名	渡去月日
クロジ	四月十五日
カシラダカ	四月二十四日
ミヤマホホジロ	四月二十一日
マヒワ	四月二十八日

□鳥類の蕃殖。

鳥名	摘要
メジロ	四月十三日、囀り始む
オホヂシギ	四月十六日、啼き始む
クロツグミ	四月十七日、囀り始む
アカハラ	四月二十日、囀り始む
ハシブトガラス	四月五日、巢材を運ぶを見る
シジフカラ	四月十日、巢材を運ぶを見る
ヤマガラ	四月二十四日、一卵あるを見る
ヒガラ	四月二十五日、一卵を見る
シジフカラ	四月二十九日、一卵を見る
スズメ	四月二十九日、一卵を見る

【手紙通信】 昭和十三年五月十四日

秋田縣廳林務課　池　田　重　健

□秋田市の五月の鳥。五月十三日、快晴、軟風、本日秋田市千秋公園に本年初めての鳥類調査に行きたる處花は葉櫻の節ツツジ滿開の候とて老若男女の漫歩遊歩する者頗る多く中にも白衣の勇士六、七十名春日を全身に浴びて戯れ居れり、此の日の鳥類何れも我世の春と許り囀鳴しつゝあり、目擊せるものとしては

トビ三羽、スズメ數十羽、中に發情中のもの數番あり、シジフカラ無數、ハシブトガラス一羽、ハシボソガラス一羽、コムクドリ及びムクドリ各十羽位、巣材運搬中のキセキレイ一羽、ツバメ七、八羽

囀鳴中のものとしては

オホヨシキリ二羽、シジフカラ無數、コカハラヒワ三羽、マヒワ數十羽、アカモズ一羽、キジ一羽

次に巣箱のシジフカラ利用狀態は

日本鳥學會製のコンクリート製丸型のもの七個の内完全に利用せるもの四個、觀櫻會の花火打揚兒童の惡戯其他の事故により營巣中止せるもの二個、スズメが利用し本日産れた許りの雛三羽在中のもの一個にして例年に比し好成績の方なり、シジフカラの卵數は十個のもの二、八個のもの一あり、早きは孵化も近づきたる樣子にて卵色變化し母親は火の如き熱心さにて抱卵し居り試に巣中より親を取り出すに全身全く痞せ發熱頗る高し

【手紙通信】 昭和十三年五月十七日

山梨縣廳　中　村　幸　雄

□嚴冬に於ける富士山麓の鳥。昭和十三年二月四、五兩日、富士山麓山中湖及精進湖畔にて觀察せる鳥類を擧ぐれば次の如し

一、山中湖畔(二月四日)

ツグミ(可なり多し)、シジフカラ(比較的多し)、ヒガラ、ヤマガラ、ジヤウビタキ、ホホジロ、カシラダカ、コカハラヒワ、アトリ、キジ、キジバト、シロハライスカ、スズメ、ノスリ(山中湖附近に越冬するノスリは、約十年前迄は相當な數に達し降雪の日等には、其の膨らみたる姿を到る處の樹上に見られたるも、年と共に彼等の餌となるべきキジ、ウサギ等の減少に伴ひて近年頓に其の數を減ぜり)、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ルリビタキ(二羽を見たるのみ)、キレンジヤク(元來群棲の鳥なるも山中湖畔旭日丘にて單獨の一羽を認む)、コゲラ、エナガ、キセキレイ、以上二十一種

二、精進湖畔(二月五日)

アカゲラ(ケツケツの鳴聲及ボロ〳〵ロ……ンと啄木の音數羽を聽く)、アヲゲラ(前者は湖の北岸濶葉樹林に見たるも本種は南岸青木ケ原の混淆林に見たり)、コゲラ(カラ類に混ずる二、三羽を見る)、ホホジロ(多數を見る)、マヒワ、スズメ、ヒヨドリ、カケス(可なり多く認められたり)、ハシブトガラス、ヒガラ、キクイタダキ、ジヤウビタキ、キジバト、ヤマガラ、シジフカラ、ツグミ(一羽を見たるのみ)

以上の通り觀察鳥類は十六種にして而も個體尠く冬の精進湖畔の鳥界は頗る寂寞たるものなりしも、只面白かりしことは同湖北岸「湖畔の家」に中食中折柄の風雪の中を三羽、五羽、七羽と大小の群となりて東より西への風波に乘り、降りては飛び、飛びては降りつゝ西方に向つて渡りをなす計二百羽位のホホジロを認めたり(此間約一時間中一羽と雖も東へ飛ぶものなかりき)

□オホバンの出現。從來富士五湖地方にオホバンの出現を認めたることなかりしも、昭和十三年二月の初め河口湖畔産ケ崎附近にて銃彈の爲め斃死せしものバス運轉手に發見せられ報告者の手許に送附し來れり、之れ富士山麓鳥類目錄への初登錄なり

□カハガラスの囀り高調。山梨縣地方に於て最も蕃殖の早きものはカハガラスにして、其の初鳴期は嚴冬に始まり、昭和十三年二月七日、昇仙峽溪谷各所に高調なる囀りを聽く

□イスカとヤマドリの共同求餌。昭和十三年二月十三日中巨摩郡清川村獅子平山松林に約三十羽のイスカが樹上に於て松毬を裂き其の實を啄食し居るを觀察中、其の樹下に數羽のヤマドリ在りてイスカの食ひ滾す實を啄食しつゝ樹上のイスカの移動に伴ひ、更に其の樹下に至りイスカとヤマドリとが樹上と樹下に移動を同うして共同戰線を張りつゝありしを認む

□ミソサザイ鳴期に入る。昭和十三年二月十七日頃、御岳昇仙峽のミソサザイは既に鳴期に入り到る處に嚠々微妙の囀りを聽く

□柿の實に集るツグミ。昭和十三年二月二十日、西山梨郡能泉村高成部落中の柿の樹に殘存せる實に約三十羽のツグミ集りて人其の樹下に到るも少しも關せず夢中となりて啄食し居りしを認む

□ムクドリの大群を見る。昭和十三年二月二十五日、中央線多治見驛西方三百米の地點にて約百羽よりなるムクドリの大群を見る

□ウグヒスの初鳴。昭和十三年二月二十七日、甲府市穴切町にてウグヒスの初鳴を耳にす

□スズメの營巣。昭和十三年三月一日、中巨摩郡吉澤村にてスズメの營巣開始を認む

□ヒバリの初鳴。昭和十三年三月三日、甲府練兵場にてヒバリの初鳴を聽く

□カウモリの出現。昭和十三年三月四日夕刻、甲府市内にイヘカウモリの出現を見る

□早春に於ける丹波川溪谷の鳥。昭和十三年三月五、六兩日に亘り中央線鹽山驛より青梅街道により柳澤峠を越え丹波川溪谷(東京市上水道水源地)に入り武州御嶽より中央線立川驛に到るコース中丹波川溪谷にて觀察したる鳥類次の如し

ミソサザイ(既に最盛鳴期に入り溪谷中柳澤峠附近より落合部落に亘る一帶到る處に賑しき囀りを聽く)、ヤマガラ(柳澤峠〔地圖陸測五萬分一〕附近比較的多し)、キバシリ(柳澤峠ー落合部落にてカラ類に混ずる二羽を認む)、カヤクグリ(柳澤峠ー五所田部落にて二羽を見る)、ジヤウビタキ(尠し)、ホホジロ(溪谷中人家附近の山野に多し)、エナガ、シジフカラ、ゴジフカラ、コガラ、カハガラス、ヒガラ、コゲラ、カケス、アカゲラ、マヒワ、ツグミ、カラス(ハシボソガラスならん)、キセキレイ、セグロセキレイ、ヤマセミ、キジバト、ハヤブサ

丹波川溪谷には東京市の水源涵養林として千古斧鉞を入れざる原生林數里に連亘し居るも、冬季早春の鳥界は誠に寂寞たるものにして僅々前記二十三種を目擊したるのみ

□テンの死體發見。昭和十三年三月七日、西山梨郡能泉村塔岩澤溪谷中の流れにてテンの死體を發見したりと一獵師より報告を受け檢分したる處、死後一ケ月位にして死の原因不明なるも多分殺鼠劑にて斃れたるネズミを食したるに因するならんと推斷せらる

□キレンジヤクの出現。昭和十三年三月十一日、山梨縣廳内にてキレンジヤクのみ約五十羽の群を見る、從來の例はヒレンヂヤクのみ多く稀にキレンジヤクの混ずる程度なりしに、今回の如くキレンジヤクのみ五十羽の大群を目擊せしことは報告者として初めての事なり

□カウモリの日中求餌。昭和十三年三月十七日正午頃、甲府市舞鶴城南側の堀の水面上にカウモリ飛來し恰もツバメの如く水面に浮ぶ昆虫を巧に捕食し居りしを認む(山梨縣保安課鹽田技手帶同)、該カウモリはイヘカウモリより幾分大きく且色彩淡褐色にしてコテングカウモリに似たるも何種なるや遺憾乍ら不明に了れり

□カハガラスの營巣。昭和十三年三月十八日、御嶽昇仙峽雪虹瀧落下線内にカハガラスの營巣しつゝあるを認

む

□數百羽のマヒワ地上徇匐を見る。昭和十三年三月二十三日、河口湖畔河口村淺間神社境内にて約三〇〇羽のマヒワ恰も怒濤の如く群りつゝ地上を徇匐するを認む、マヒワと云へば從來の經驗にては直に樹上を聯想せられたりしに今回の如き大群の地上徇匐は初めての經驗なり、因に今回の地上に下りたるは前夜の强風に杉の實を地上に吹き落しありしを以てなり

□キレンジヤクの終認。昭和十三年三月三十一日、甲府市舞鶴公園にキレンジヤク四、五羽を見たるを本春の終認とす

□ツバメの初認。昭和十三年四月一日、甲府市外吉澤村、山本治茂氏方へ二羽のツバメ渡來す、本春の初認とす

□ジヤウビタキの終認。昭和十三年四月五日、西山梨郡千代田村地内にて一羽のジヤウビタキを目擊せる以後ジヤウビタキの姿を見ず、本年度の終認なり

□フクロフ盛に鳴く。昭和十三年四月八日夕刻、中巨摩郡吉澤村寺平山にてウーウ、ゴロツチホーコー〳〵の聲を盛んに繰り返しつゝありしを認む

□コサメビタキの初認。昭和十三年四月十日、中巨摩郡吉澤村地内にて初めてコサメビタキ二羽を目擊す

□アナグマの目擊。昭和十三年四月十二日、中巨摩郡吉澤村自害窪(ジガクボ)にてアナグマを目擊す、冬蟄より醒めた直後のものらしく蹌踉たる足取りにて彷徨し居れり

□センダイムシクヒの初認。同日、中巨摩郡吉澤村地内にてセンダイムシクヒ、二、三羽を認む

□エゾムシクヒの初鳴。昭和十三年四月十三日、御嶽昇仙峽にてエゾムシクヒの初鳴を聽く

□イハツバメ、アマツバメ多數を見る。昭和十三年四月十五日、中央線韮崎驛東方二粁鹽川鐵橋附近の上空にイハツバメ、アマツバメ多數の出現を見る、本年の初認

□アトリの終認。同日、北巨摩郡穗坂村地内にてアトリ三羽を見たるを本春の終認とす

□ノビタキの初認。昭和十三年四月十五日、西山梨郡千代田村地内平瀨部落附近の田圃にてノビタキ一羽を見る、該地には秋季渡去の際にも目擊せられ彼等渡りの徑路なり

□オホルリ、ヤブサメの初認。昭和十三年四月十七日、御嶽昇仙峽にてオホルリ及ヤブサメの初鳴を聽く、報告者としては初認なるも其の鳴聲等より見て數日前に渡來せるものゝ如し

□ノウサギの仔、蛇に呑まる。昭和十三年四月十八日、

中巨摩郡吉澤村千田部落附近の叢中に悲哀なる鳴聲を聽きたるを以て近づきて之を檢せしに、一頭のノウサギの仔が其の後肢をヤマカガシに呑まれ悲鳴を上げつゝありしを以てヘビを逐ひ拂ひてノウサギを救出せり（龍王警察署員平賀巡査報）

□サンセウクヒの初鳴。昭和十三年四月二十日、昇仙峽入口附近の上空をビリリリー〳〵と鳴き乍ら飛ぶ三羽のサンセウクヒを見る、本春の初認なり

□ツツドリの初鳴。昭和十三年四月二十一日、西山梨郡千代田村平瀬にてツツドリの初鳴を聽く

□ヒヨドリの渡り。昭和十三年四月二十二日、甲府市舞鶴公園上空を北行する十五、六羽のヒヨドリを目擊す

□ツグミの終見。昭和十三年四月二十六日夕刻、中巨摩郡吉澤村地内にてツグミ二、三羽の鳴聲を聽きたるを報告者としての終見とす、尙五月四日、南巨摩郡都川村にて二、三のツグミを見たるを本年の終認とする旨鹽田技手より報告に接す

□マヒワの終認。昭和十三年四月二十七日、御嶽昇仙峽入口附近にて約三十羽のマヒワを見たるを本春の終認とす、年々檜の芽の萠ぎ初むる頃同種二、三十羽の群を必然的に當地に見る、一部のものの渡去に際しての徑路ならん

□ヤマセミの高空飛翔を見る。昭和十三年四月二十八日御嶽昇仙峽入口附近の上空、高度五〇〇米を北行するヤマセミを見る、去る四月十五日に於ても鹽川緣りにて同じく五〇〇米位の空を北行するを認む、ヤマセミと云へば溪流及河川の河緣りを連想せらるゝも、甲地より乙地へ（下流より上流へ）の移動に際しては時にバカ〳〵しき高空を飛翔する習性あり

□カハガラスの巢立。昭和十三年四月二十九日、昇仙峽入口長潭橋附近荒川中の石の上にてチー〳〵〳〵と鳴き乍ら親鳥より餌をねだる愛らしきカハガラスの雛三、四羽を認む

□ヨタカの初認。昭和十三年四月三十日夕刻、中巨摩郡吉澤村寺平山にてコッ〳〵〳〵〳〵〳〵と低きヨタカの聲を聽く、本春の初認

□コカハラヒワ及スズメの巢立。昭和十三年五月二日、山梨縣廳構内にて初めてコカハラヒワ及スズメの巢立てる雛を認む

□ブツポウソウの初渡來。昭和十三年五月三日、西八代郡市川大門町弓削神社境内（年々渡來蕃殖す）にブツポウソウ二羽渡來す（青島貞夫社掌報告）

□コジュケイの聲を聽く。昭和十三年五月四日、甲府驛前舞鶴公園にて西北方二粁湯村山方向にあたりビーグィ

〳〵〳〵と高聲なコジュケイの聲を聽く

□ジフイチの初鳴。昭和十三年五月五日夜、昇仙峽入口附近の上空を鳴き乍ら過るジフイチの初鳴を聽く

□エナガの雛來る。昭和十三年五月七日、八日、山中湖畔に鳥界を訪れたる結果左の種類を認む（旭日丘一帶の目擊鳥類とす）

ヒガラ、アカハラ（例により極めて多し）、クロツグミ（別莊の增加と共に年々蕃殖數多し）、シジフカラ、キジ（勇壯活潑なるケンケーンの聲を遠近に聽く）、ウグヒス、メジロ、アカゲラ、アヲジ（極めて多し）、カラス、ヒバリ（帝大グラウンド及ゴルフ場附近に見る）、ビンズイ、コカハラヒワ、ツツドリ、キジバト、キビタキ、センダイムシクヒ、コムクドリ、エナガ、コサメビタキ、サメビタキ、オホルリ、スズメ、ツバメ、アマツバメ、ホホジロ、カケス、オホヂシギ、イカル、ホホアカ、キセキレイ、モズ

以上三十二種を認む、猶渡來せざるもの、ホトトギス、クワクコウ、ジウイチ、アカモズ、コチドリ、オホヨシキリ等

□コルリの初認。右山中湖畔へ甲府よりの通路御坂隧道海拔一、四〇〇米附近にてコルリ多數の囀りを聽く、附近茶店主の談に數日前に渡來せりと

□アカモズの初認。昭和十三年五月八日、富士山麓富士吉田船津間赤坂地内の丸尾にてアカモズ數羽を目擊す報告者としては本春の初認なり

□鳳來寺便り。昭和十三年五月十二日、愛知縣鳳來寺村加藤村長より鳳來寺山のコノハヅクは四月二十一日夜より鳴き初め毎夜旺んにブツポウソウを啼鳴し居りとの通信を受けたり

□白リスの蕃殖狀況。昭和十三年五月十五日、白リスの棲息地北巨摩郡清春村藤武神社々掌小尾駿氏より白リス棲息狀況に就て左記の如き報告あり

「白リスの蕃殖力は普通リスに比し旺盛ならざるものゝ如きも時々各所に見られたる情報を得、最近同村の西南端釜無川畔七里岩台上に於て同時に二頭を目擊し一兩日後約一里の北方篠尾村界に近き蕪池附近にて一頭を觀たる報告あり」

以上の外同地東南方一里半、北巨摩郡甲村下黑澤及其中間同郡秋田村大八田地内にも白リス蕃殖の事實ありし報告を受く（以上陸測地圖五萬分ノ一韮崎）

【葉書通信】 昭和十三年五月二十日

廣島縣廳警察部　松田尙鐵

□ブツポウソウの渡來。廣島縣山縣郡美和村に本年も五月八日頃よりブツポウソウ飛來し盛んに上空を飛翔し

居り候趣地元より通知來り候間御報告申上候
該地は道路近き水田(二町内外の山地の水田)を通過する電線の上方二、三米の處を轉回してツバメと同樣の飛翔振りにて盛んにゲ、、、、と鳴き乍ら二十分もして後遠く山林中に去り數時間後又來るものにて一種の壯觀を呈し候、尙時々電柱に翼を休め又或時は電柱の穴(キツツキの去りたる跡)に出入致し居り候(之は昨年小生の觀察したる時の狀況)

【手紙通信】 昭和十三年五月二十六日
滋賀縣保安課 橋本多三郎

□比叡山禁獵區内に於ける夏鳥の初鳴。
(山僧回峰行者の見聞する處による)
ツツドリ、五月初旬なれども日は記憶せず
クワクコウ、五月二十日横川谷
ホトトギス、五月二十三日無動寺谷
次に昨日登山鳴禽類の鳴聲を聞くに目下最盛期にして本夏はサンセウクヒ、オホルリ、トラツグミ最も多くサンクワウテウは諸所に少數を聞くのみ、無動寺谷にてツツドリの鳴聲を聞く、シジフカラ、ヒガラの鳴聲は例年の通りに盛なり、本年はメジロの鳴聲頗る僅少なり、本日珍らしくも釋迦堂谷にてキビタキ一羽鳴き居たり

【手紙通信】 昭和十三年五月二十九日
兵庫縣津名郡中田村 薄木市左衞門

□五月の氣象。快晴少なく雨多く平年よりは少しく低温なり
□一般狀況。今春の一般渡り鳥は平年より少し早目に北上、今月(五月)十日以後には全く見えずなれり
渡來の分は極めて少なくノゴマが少し來た位のものにて外の種類は少しも發見せず
□コジュケイ。目下旺に啼く筈のコジュケイ、一度も聞かず、遠く西南方に移動せるものと見ゆ
□キジ。相變らず放翔せる場所より遠くへ行かず(一、二羽特に遠方に行けるもの丶外は)、大部分は拙宅附近に棲息し居れり、未だ一度も見ざるも、其處此處に雛が出來居る事と思はる
□ヤマドリ。居る事は確實なるも見ず
□ホトトギス。五月十九日、自宅前面の村社の森の上に初音を聞く、北西和風半晴二十度
□クワクコウ。五月二十日、大町村の城の越山にて第一聲確聞す、西の風晴二十度
□イタチ。相變らず殘り居り時々發見す
□ウサギ。相當殘り居れり
其外平年に比し全般に少なき樣思はる

【手紙通信】 昭和十三年五月二十九日
新潟縣佐渡郡河原田町村松營林署
齋藤戌

□佐渡島に於けるクワクコウ、ホトトギスの渡來。
五月十九日、赤泊村地内に於てクワクコウの聲を聞く
五月二十一日、新穗村に於てホトトギスの聲を聞く
□ムクドリの營巢。五月五日、新穗村新穗苗圃小屋にムクドリ營巢
□ツバメの渡來。四月九日、ツバメ渡來し四月二十五日營巢を始む
□カモメの目擊。四月八日、兩津港一帶にカモメを見る
□ハクセキレイの目擊。五月十七日、島内高千村に於てハクセキレイを見る
□トキの目擊。三月八日、島内河崎村地内に於てトキ五羽を見る

【調査通信】 昭和十三年六月三日
山林局鳥獸調査室 清棲幸保

□クロツグミの鳴聲。六月一日東京市護國寺にて聞く
□サンクワウテウの鳴聲。六月二日、東京市瀧野川區西ケ原にて聞く

【葉書通信】 昭和十三年六月
北支派遣軍赤松部隊 唐澤治郎

□ホトトギス、ツツドリの鳴聲。(前略)轉戰又轉戰にて無事徐州へ入城致しました故他事乍ら御放念下さい、毎日ホトトギス、ツツドリの鳴聲を聞きつゝ警備の任に當つて居ります(後略)

【手紙通信】 昭和十三年六月十三日
鹿兒島縣姶良郡牧園村大字下中津川
大簇勘太郎

□鳥類の初鳴。

鳥名	月日	狀況	場所
サンセウクヒ	一月十二日		鹿兒島縣姶良郡牧園村大字下中津川字丸尾
ウグヒス	二月二十八日		〃
ヤマガラ	三月五日		〃
ミソサザイ	三月八日		〃

イカル	四月六日	「キーコーキー」	〃	大字同字丸尾
ヤブサメ	四月十四日	〃	〃	字同新床國有林
センダイムシクヒ	四月十五日	〃	〃	字手洗
ツツドリ	四月十六日	渡來	〃	字湯ノ谷
コノハヅク	四月二十八日	「ブツポーソウ」	〃	字新床國有林

□鳥類の渡來渡去。

鳥名	月日	狀況	場所
鴨	三月十七日	渡去	霧島國立公園大浪池
オホルリ	四月八日	渡來	鹿兒島縣姶良郡牧園村大字下中津川字丸尾
アカセウビン	四月二十四日	〃	〃
ブツポウソウ	五月三日	〃	霧島村霧島神宮境內林
サンクワウテウ	五月五日	〃	牧園村大字下中津川字丸尾
セツカ	五月十一日	〃	〃
ホトトギス	五月十二日	〃	霧島村池田農場附近
ホトトギス	五月十七日	〃	牧園村大字下中津川字丸尾

□鳥類の目擊。

鳥名	月日	狀況	場所
ヒヨドリ	一月十五日	イヒギリの實に群集	鹿兒島縣姶良郡牧園村大字下中津川字山城
ツグミ	二月一日	クロガネモチの實に群集	〃 字丸尾
エナガ	二月十九日	群	〃 〃
シロハラ	四月十七日	キズタの實に群集	〃 〃

□鳥類の蕃殖

鳥獸名	月日	狀況	場所
オホアカゲラ	一月五日	ヂスプレー(木をつつく音)	鹿兒島縣姶良郡牧園村大字下中津川字手洗
キジ♀	二月十二日	解剖、卵巢に粟粒大の卵あり	〃 字エビノ附近にて捕獲
シジフカラ	三月一日	交尾を始む	〃 字新床國有林
ヒヨドリ	三月一日	〃	〃
アヲゲラ	三月五日	發情聲(ヒヨウ〳〵)を出し始む	〃
オホアカゲラ	四月十四日	育雛中	〃
ヤマガラ	四月十四日	抱卵中	〃
キセキレイ	四月二十八日	〃	〃 字栗川
ヒガラ	四月二十九日	營巢	〃 字新床國有林
ムササビ	五月一日	〃	〃 字硫黃谷
ツバメ	五月五日	〃	〃 肥薩線牧園驛
キセキレイ	五月十日	巢立	〃 姶良郡牧園村大字下中津川字湯ノ谷
ウグヒス	五月十三日	〃	〃 字黑岩國有林
キセキレイ	五月十八日	育雛	〃 字丸尾

【手紙通信】 昭和十三年六月二十一日

滋賀縣廳 橋本多三郎

□スズメの餌。昭和十三年六月十三日午前十一時頃滋賀縣高島郡大溝町大溝驛前道路の片偶の山櫻より落下せる熟したる櫻の實を一羽のスズメが降下之を嘴にくは（巢中に數回運び居るを目擊せり

【調査通信】 昭和十三年七月十八日

山林局鳥獸調査室 清棲幸保

□伊香保より榛名山に到る間で目擊した鳥類。昭和十三年七月十七日(晴)、キビタキ(多數)、オホルリ、アカ

セウビン(囀聲を聞く)、イハツバメ、ツバメ、ヒガラ、シジフカラ、キセキレイ、ホトトギス、ジフイチ、ヤブサメ、ヤマガラ、ホホジロ、ハシブトガラス、コカハラヒワ、サンセウクヒ

□榛名湖畔にて目撃せる鳥類。同日、ヲシドリ、コゲラ、オホヨシキリ(葦原)、ホホアカ、ヒガラ、ヤマガラ、シジフカラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ハシブトガラス

□榛名神社にて目撃せる鳥類。同日、オホルリ、キビタキ

【調査通信】 昭和十三年八月十六日

山林局鳥獸調査室 清 棲 幸 保

□精進湖畔赤池より富士登山せる途中で見聞せる鳥類。昭和十三年八月十一日(快晴)

A、精進湖畔

ホホジロ、囀るもの多く中にセンダイムシクヒに似たる囀りをなすものあり、其他トビ、セグロセキレイ、キセキレイ等を目撃

B、青木ケ原樹海

ヤマガラ、コガラ、ヒガラ、アカハラ、アカゲラ、コゲラ、ホトトギス、ウグヒス等を目撃

C、二合目附近

コノハヅク廿聲許り啼く(午前二時頃)

D、三合目附近

ルリビタキ多し、ホシガラス、ビンズイ、ウグヒス、メボソ等を目撃

E、五合目附近

イハヒバリ、コガラ、ウグヒス、メボソ、ハイタカ等を目撃、イハヒバリは巣立せる幼鳥をも目撃す

F、八合目附近

イハヒバリを目撃す

【手紙通信】 昭和十三年八月二十六日

滋賀縣警察部保安課 橋 本 多 三 郎

□ツミ(エツサイ)の巣立。數日前よりツミの雛二羽が巣立し本縣假廳舍三井寺下廳舍裏並に三井寺境内の樹木に飛來し頻にピイ〳〵と若聲を發し鳴き居れり、右は三井寺山の奥地にて營巣發育し現地に飛翔棲息し居るものと認めらる、然るに該鳥飛來してより現地方に棲息し居れる小禽類並に假廳舍の屋上に棲息し居たる鴿等一切居を轉し是等鳥類の姿を見るを得ざる狀況となれり

【葉書通信】 昭和十三年九月十九日

川 村 多 實 二

□オホルリの囀及鬪爭性。昨十八日午前六時半頃箱根强

羅公園にてオホルリの囀を聽く、此鳥としてはよほどおそい例と思ふ、なほ稚鳥(背は黑くなれるが頭は未だ褐色)が二羽で追かけ合ふのを幾組も見かけた、地區分割性並に鬪爭性の判然として居る此鳥の雛が鬪爭性遊戯をもつことは當然のこと乍ら面白いと思ふて見た

【手紙通信】 昭和十三年九月二十六日

滋賀縣廳 橋 本 多 三 郎

□チウサギの飛來。滋賀縣高島郡川上村大字深清水地先字貫川沼地方面にチウサギ約五十羽程の一群八月中旬頃より渡來棲息せり、其他にアヲサギ、ゴキサギ等も十數羽交り棲息せり右は多分琵琶湖中の竹生島の山林(現場より約水面二十町餘の處)に蕃殖せしものが移動したるものと思料せらる

□鴨類の先發渡來。前記地先琵琶湖中に目下コガモ、トモエガモ、マガモ等數羽宛先發渡來棲息す、右は本月十二、三日頃より姿を見せ居れり

□マガモの渡來。滋賀縣野洲郡小津村地先琵琶湖中に九月二十一日一番のマガモ渡來せり、右は目撃者の言なり

【葉書通信】 昭和十三年十月十八日

東京市澁谷區笹塚町 籾 山 德 太 郎

□ツバメの渡去。昭和十三年十月十八日、埼玉縣入間郡水富村笹井—豐岡町間を流るゝ入間川の河流上を低く往來する一羽を目撃せり、往路午前十一時頃にも歸途午後二時頃にも同一ケ所にて各一羽を見たり、恐らくは同一個體なるべし

□イハツバメの渡去。昭和十三年十月十八日午後零時、埼玉縣入間郡高麗村新堀の高麗川河流上低く飛び行く疑なき此種一羽を目撃す、腰部白く下面も亦白色を呈せり、少時後に同河流の稍下流の上空高く一羽を見たり、尾羽の分叉淺きことにて該種と認む、此地方にはショウドウツバメの產なし

【手紙通信】 昭和十三年十月二十三日

滋賀縣廳 橋 本 多 三 郎

□初獵期の概況。十月十五日は雨にて氣溫高し、鴨類の渡り不良に付獵果も亦不良なり

バン、シギ稍良好なり、引續氣候溫きため渡來良しからず獵果芳しからざる狀況なり

ツバメ未だ歸去せず、大津市内外にツバメ毎日飛翔し居り歸去の傾向見えず

ツグミ類の渡りは例年と大差なく伊香郡片岡村鳥屋獵の成績は今日の處にては各百羽内外なり

【葉書通信】 昭和十三年十一月二日

滋賀縣蠶　橋本多三郎

□ツバメ全く歸去。十月二十四日迄大津市内及市外に飛翔し居りしを認めたるも二十五日以後全く姿を見ず、歸去せるものゝ如し

□アマツバメを認む。十月二十九日(曇、溫暖)、午前十時頃滋賀縣伊香郡片岡村大字池原山林にて上空を數羽飛翔し居るアマツバメを認む(同地方は一帶の深山地帶なり)

【葉書通信】昭和十三年十一月七日

東京市淀谷區笹塚町　椴山德太郎

神奈川縣高座郡綾瀬村早川、手岩熙熙氏よりの鳥類期節の報告入手仕候間左に御通知申上置候

□アヲジの渡來。十月二十三日午前六時、一羽渡來を聞く、午後より多數を見る

□ジヤウビタキの目擊。十月二十四日午後四時、一羽梢間を鳴きゆくを見る、翌日より多數を見る

【手紙通信】昭和十三年十二月十三日

滋賀縣蠶保安課　橋本多三郎

□コアヂサシを見る。昭和十三年十二月十二日午前八時過ぎ曇天、大津市南保町(琵琶湖南端)の上空を十數羽のコアヂサシ一群飛翔し數回附近を回轉、方向を探し居りしものゝ如くなりしも遂に南方山脈の方に姿を沒せり

【手紙通信】昭和十三年十二月二十六日

滋賀縣蠶保安課　橋本多三郎

□ケリを見る。十二月二十四日午前十時頃、甲賀郡石部町田圃内にケリ一番降下せるを目擊せり、因に該地方は以前より本縣下にては唯一のケリ棲息地帶にして數年前迄は此地方を通過するに一番や二番、姿を目擊せざる事なかりしに近年は絶えて見ず、或は心なき者が密獵せしに非ざるやと懸念し居たり、然るに今回再び發見したれば又繁殖せしものと思料せらる

□琵琶湖の水禽棲息狀況。本冬來の水禽棲息狀況は概して不良なり、本湖の北部は稍々良好なりしも南部は不良なり、而して鴨類中キンクロハジロ及マガモは不良、トモエガモのみ稍々良好なり

鳥獸報告集　(第十四卷第廿七號 第廿八號)

索　引

A

安部幸六……1, 6, 9.
アカゲラ……目擊 2, 14, 17, 22; 鳴聲 13.
アカハラ……目擊 17, 22; 初囀 11; 渡來 11.
アカモズ……囀鳴 12; 初認 17; 渡來 17.
アカセウビン……鳴聲 21; 渡來 20.
アマツバメ……目擊 17, 24; 初認 8, 9, 15; 卵數 5; 渡來 11.
アナグマ……目擊 15.
アヲバト……目擊 1, 5; 棲息狀況 5, 7.
アヲバヅク……初鳴 10.
アヲゲラ……蕃殖 21; 目擊 2, 13.
アヲサギ……目擊 9; 棲息狀況 23.
アヲジ……目擊 17; 棲息狀況 5; 初鳴 7; 渡來 24.
アトリ……目擊 3, 12; 終認 15; 渡去 7.

B

バン……渡來狀況 7, 23.
ベニマシコ……集團性 4; 目擊 2, 3, 4; 渡去 7.
ビンズイ……目擊 17, 22; 渡來 11.
ブツポウソウ……渡來 16, 17, 20; 鳴聲 18; 飛翔 18.

D

ダイサギ……捕獲 9.

E

エナガ……雛 17; 目擊 2, 3, 12, 14, 20.
エツサイ……集立 22.
江澤通朝……8.
エゾムシクヒ……初鳴 15.

G

ガン……大群 5.

ゴキサギ……棲息 23.
ゴジフカラ……目擊 14.

H

ハギマシコ……集團性 4；目擊；渡去 7.
ハイタカ……目擊 22.
ハクセキレイ……目擊 19.
ハシボソガラス……目擊 2, 12, 14.
ハシブトガラス……營巢 11；目擊 2, 9, 12, 13, 22.
橋本多三郎……1, 7, 18, 21, 22, 23, 24.
ハヤブサ……目擊 2, 3, 14；食餌 3.
ヒバリ……目擊 9, 17；初鳴 1, 5, 14.
ヒガラ……蕃殖 11, 21；目擊 2, 3, 12, 13, 14, 17, 22；鳴聲 18.
ヒメウ……方言 10；目擊 10.
平間龜五郎……5.
ヒレンジヤク……目擊 9, 14.
ヒヨドリ……蕃殖 21；食餌 20；目擊 2, 3, 13, 16, 20；渡去 10.
ホホアカ……目擊 17, 22；渡來 11.
ホシガラス……目擊 2, 22.
ホトトギス……目擊 22；初鳴 19, 18；鳴聲 18, 19；渡來 10, 17, 19, 20.
ホホジロ……目擊 2, 3, 9, 12, 13, 14, 17, 22；囀聲 22；移動 13；害敵 3.
フクロフ……卵數 5；鳴聲 15.

I

家鳩……5.
イヘカウモリ……出現 14.
イカル……目擊 17；初鳴 9.
池田重健……12.
今泉吉典……8.
イヌワシ……食餌 3.
イスカ……求餌 13；目擊 2, 3, 4.
イタチ……棲息狀況 6, 7, 10, 18.
イハヒバリ……幼鳥 22；目擊 22.
イハツバメ……目擊 22；初認 15；飛來 6；渡去 23.

K

カケス……目擊 2, 13, 14, 17.
カモ……棲息狀況 6, 7, 24；渡來狀況 23；渡去 20.
カモメ……目擊 19.
唐澤治郎……19.
カラス……目擊 14, 17.

カシラダカ……目擊 2, 3, 12；渡去 11.
カハガラス……蕃殖 14, 16；目擊 2, 14；囀鳴 1, 13.
川村多實二……22.
カハウ……棲息狀況 10.
カヤクグリ……目擊 2, 3, 14.
ケリ……目擊 24.
キバシリ……目擊 14.
キビタキ……目擊 21, 22；渡來 11；鳴聲 18.
キクイタダキ……目擊 3, 13；囀 4.
菊池正三……6, 7.
キンクロハジロ……棲息狀況 24.
キレケクサゲ（ヒメウの方言）……10.
キレンジヤク……目擊 12, 14；終認 15.
キセキレイ……蕃殖 12, 21；目擊 3, 12, 14, 17, 22.
清棲幸保……8, 9, 19, 21, 22.
キジ……蕃殖 21；棲息狀況 7, 9, 18；寄生虫 9；目擊 2, 12；鳴聲 7, 12, 17；害敵 12.
キジバト……目擊 3, 12, 13, 14, 17.
コアヂサシ……目擊 24.
小林虎雄……4.
コガモ……渡來 23.
コガラ……目擊 2, 3, 14, 22.
コゲラ……目擊 2, 3, 12, 13, 14, 22.
コカハラヒワ……蕃殖 16；目擊 3, 9, 12, 22；囀鳴 12.
カウモリ……日中求餌 14；出現 14.
コムクドリ……目擊 12, 17；渡來 11.
コノハヅク……初鳴 20；鳴聲 17, 22.
コルリ……渡來 11, 17.
コサメビタキ……目擊 17；初認 15；渡來 11.
コシアカツバメ……初認 6.
コシヤクシギ……捕獲 10.
コテングカウモリ……日中求餌 14.
コチドリ……渡來 17.
小柳和助……6, 8.
コジユケイ……蕃殖 9；鳴聲 7, 16, 18；移動 18.
熊谷三郎……8.
クマタカ……目擊 3.
クロツグミ……渡來 11；鳴聲 11, 19.
クロジ……渡去 11.
葛　精一……8, 9.
クワクコウ……目擊 9；渡來 17, 19；初鳴 19, 18.
キウシウフクロフ……鳴聲 10.

M

マガモ……棲息狀況 23；渡來 23, 24.

マヒワ……地上徇餌 15； 食餌 4； 目擊 2, 3, 9, 13, 14； 終認 16； 渡去 11； 囀鳴 12.
マナヅル……飛來 6.
松田尙鐵……17.
メボソ……目擊 22.
メジロ……大群 5； 目擊 17； 鳴聲 11, 18.
ミソサザイ……棲息狀況 2, 5； 目擊 1, 2； 初鳴 19； 鳴期 13, 14.
ミヤマホホジロ……渡去 11.
叛山德太郎……8, 23, 24.
モズ……巢立 8； 目擊 17.
ムクドリ……蕃殖 19； 大群 13； 目擊 9, 12.
ムササビ……蕃殖 21.

N

中村幸雄……1, 12.
ノビタキ……初認 15； 渡來 11.
ノゴマ……渡來 18.
ノスリ……棲息狀況 12； 目擊 2, 3, 12； 食餌 12.
ノウサギ……害敵 3, 15； 寄生虫 10； 棲息狀況 1, 7.
ノジコ……渡來 11.

O

オホアカゲラ……蕃殖 21； 目擊 3.
オホバン……捕獲 13.
大簇勘太郎……19.
丘 直通……9.
オホマシコ……集團性 4.
ヲナガ……目擊 9.
オホルリ……鬪爭性 22； 目擊 21, 22； 初認 15； 渡來 11, 20； 鳴聲 15, 22.
ヲシドリ……棲息狀況 7； 目擊 22.
オホヨシキリ……目擊 22； 囀鳴 12； 渡來 17.
オホヂシギ……目擊 17； 初鳴 11.

R

リス……白變 17； 棲息狀況 2.
ルリビタキ……目擊 2, 3, 12, 22.

S

齋藤 戊……19.
サメビタキ……目擊 17.
サンクワウテウ……鳴聲 18, 19； 渡來 20.
サンセウクヒ……目擊 9, 22； 初鳴 16, 19； 鳴聲 18； 渡來 11.
ササゴヰ……目擊 9.
セグロセキレイ……目擊 14, 22.
セツカ……渡來 20.
センダイムシクヒ……目擊 9, 17； 初認 15； 初鳴 20； 渡來 11.
シギ……渡來狀況 23.
シラコバト……5.
シロハラ……食餌 20； 棲息狀況 2； 目擊 2； 渡去 7.
シロハライスカ……目擊 12.
白リス……蕃殖狀況 17.
白ヤマドリ……2.
シジフカラ……蕃殖 11, 21； 巢箱 12； 目擊 2, 3, 9, 12, 13, 14, 17, 22； 鳴聲 12, 18.
巢箱……12.
薄木市左衞門……1, 5, 6, 18.
スズメ……蕃殖 11, 14, 16； 食餌 21； 巢箱 12； 目擊 9, 12, 13, 17.
ショウドウツバメ……棲息狀況 23.

T

タヒバリ……渡去 7.
高田昂……5, 7, 11.
谷垣義三……8.
テン……捕獲 1； 死體 14.
トビ……目擊 12, 22.
トキ……目擊 19.
トモエガモ……棲息狀況 23, 24.
トラツグミ……棲息狀況 5, 7； 目擊 1； 鳴聲 7.
ツバメ……蕃殖 21； 目擊 1, 7, 8, 9, 12, 17, 22； 渡來 6, 7, 8, 9, 11, 15, 19； 渡去 23, 24.
ツグミ……食餌 13, 20； 棲息狀況 2； 目擊 2, 3, 12, 13, 14； 終見 16； 渡來 23； 渡去 7, 10.
ツミ……巢立 22.
ツツドリ……目擊 17； 初鳴 10, 16, 18, 20； 鳴聲 18, 19； 渡來 11, 20.
チウサギ……飛來 23.

U

ウグヒス……蕃殖 21； 目擊 17, 22； 初鳴 6, 7, 13, 19.
ウミウ……棲息狀況 10.
ウサギ……棲息狀況 6, 18； 害敵 12.
ウソ……目擊 2, 3.

ウヅラ……雌4；目撃5.

Y

ヤンサメ……目撃22；初認15；渡来11；初鳴15, 20.
ヤブリ……白變2；共同求餌13；棲息狀況18；目撃2, 3.
ヤマガラ……繁殖11, 21；目撃2, 3, 12, 13, 14, 22；初鳴19.
ヤマセミ……高空飛翔16；目撃1, 14.
ヤマシギ……渡来狀況7.
山スズメ……棲息狀況5.
ヨタカ……初認16.

Z

ジヤウビタキ……目撃2, 3, 12, 13, 14, 24；終見15.
ジフイチ……目撃22；渡来17；初鳴10, 17.

14.5
328

昭和十五年三月二十八日印刷
昭和十五年三月三十日發行

農林省山林局

東京市京橋區入舟町二丁目九番地
印刷人 小藥政吉
東京市京橋區入舟町二丁目九番地
印刷所 小藥印刷所
電話京橋五六七六番
八九三三番

14
5
328

終